

男女共同参画に関する住民アンケート
結果報告書

東浦町地域創造部住民自治課

令和8年2月

目次

(1)	調査対象及び調査方法	3
(2)	回収結果	3
1.	報告書の見方	3
(1)	他調査との比較について	3
2.	回答者の属性	4
(1)	あなたの性別は	4
(2)	あなたの年齢は	4
(3)	あなたの主な仕事は	5
(4)	あなたは結婚していますか	6
(5)	あなたの配偶者の雇用形態は	6
(6)	あなたの世帯構成はどれですか	7
(7)	ご家族の中に、次にあてはまる方はいますか	7
(8)	あなたのお住まいの地区は	8
3.	調査の結果	9
(1)	「男女共同参画」の意識、家庭、地域活動について	9
問1	「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのようにお考えですか。(単数回答)	9
問2	問1で「賛成である」、「どちらかといえば賛成である」と答えた方にお聞きします。それは、なぜですか。(複数回答)	10
問3	問1で「どちらかといえば反対である」「反対である」と答えた方にお聞きします。それは、なぜですか。(複数回答)	11
問4	社会や生活の中で、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。(単数回答)	13
問5	あなたの家庭では、日常の家事の分担をどのようにしていますか。(単数回答)	27
問6	あなたは、生活の中で、「仕事」、「家庭生活(家事・子育て・介護等)」、「地域・個人の生活(地域活動・学習・趣味・付き合い等)」のうち何を優先しますか。(単数回答)	29
問7	あなたは、次のような地域活動に参加していますか。また、今後参加したいと思う地域活動はありますか。(複数回答)	30
問8	あなたは、男性の家事、育児、介護、地域活動への参加をすすめるためには、どのようにしていけばよいと思いますか。(複数回答)	32
(2)	仕事について	34
問9	一般に女性が職業を持つことについて、あなたはどのようにお考えですか。(単数回答)	34
問10	一般に男性が職業を持つことについて、あなたはどのようにお考えですか。(単数回答)	35
問11	育児や介護、家事などに女性がより多くの時間を費やしていることが、働く場における女性の活躍が進まない要因の一つだという考え方がありますが、あなたはこの意見について、どう思いますか。(単数回答)	36

問 12 あなたは、これまで（現在を含む）働き続けたいけれど、働くことができなかったことがありますか。（単数回答）	36
問 13 問 12 で「はい」と回答した方にお聞きします。働き続けたいけれど、働くことができなかった理由は何ですか。（複数回答）	37
問 14 働き続けたい女性が離職せず同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思いますか。（複数回答）	38
(3) 子どもの教育について	42
問 15 あなたは「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という育て方についてどう思いますか。（単数回答）	42
問 16 あなたは、子どもに対し、どのようなことを身に付けてほしいと思いますか。	44
(4) DV（家庭内暴力）について	46
問 17 これまで結婚したことのある方（婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦も含む。）や交際相手がいる（いた）方にお聞きします。あなたは、これまで配偶者や交際相手から次のようなことをされたことがありますか。（単数回答）	46
問 18 問 17 で「1、2度あった」「何度もあった」と回答した方にお聞きします。あなたは、配偶者や交際相手から受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。（複数回答）	49
問 19 問 18 で「どこ（誰）にも相談しなかった」と回答した方にお聞きします。相談しなかったのはなぜですか。（複数回答）	51
(5) 男女共同参画について	52
問 20 男女共同参画社会を実現するために、行政は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（複数回答）	52
問 21 あなたは、次の言葉を知っていますか。（単数回答）	56
自由記載欄回答	59
調査票	73

調査概要

(1) 調査対象及び調査方法

調査対象	東浦町在住の18歳以上の男女
抽出方法	無作為抽出
調査方法	インターネット回答、郵送回答
調査時期	令和7年10月

(2) 回収結果

配布数	1,500票（前回調査：1,500票） 女性 723票（前回調査：744票） 男性 777票（前回調査：756票）
回収数	402票（前回調査：479票） 女性 195票（前回調査：264票） 男性 191票（前回調査：189票） その他・無回答 16票 （回答数の内訳：インターネット 379票、郵送 23票）
回収率	26.8%（前回調査：31.93%）

※性別を「答えたくない・どちらでもない」とした方及び無回答の方については、本報告書の各種集計において総数には含めていますが、男女別集計では除いています。

1. 報告書の見方

(1) 他調査との比較について

他調査との比較を行っている項目は、以下の調査結果を用いています。

・内閣府令和6年度「男女共同参画社会に関する世論調査」

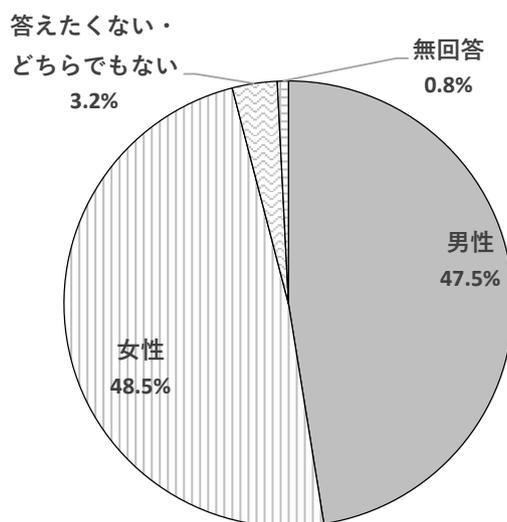
調査対象	全国18歳以上の日本国籍を有する者
抽出方法	層化2段無作為抽出法
調査方法	郵送法（配布：郵送、回収：郵送又はインターネット）
調査時期	令和6年9月～11月
配布数	5,000人
回収数	2,673人
回収率	53.5%

2. 回答者の属性

(1) あなたの性別は

女性	男性	答えたくない・ どちらでもない	無回答	総数
195	191	13	3	402

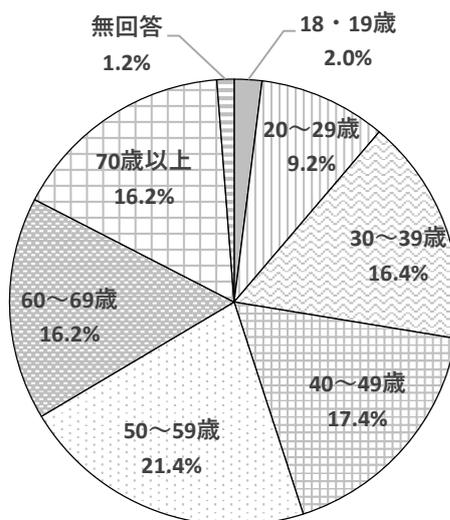
(1) 性別



(2) あなたの年齢は

18～20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無回答	総数
45	66	70	86	65	65	5	402

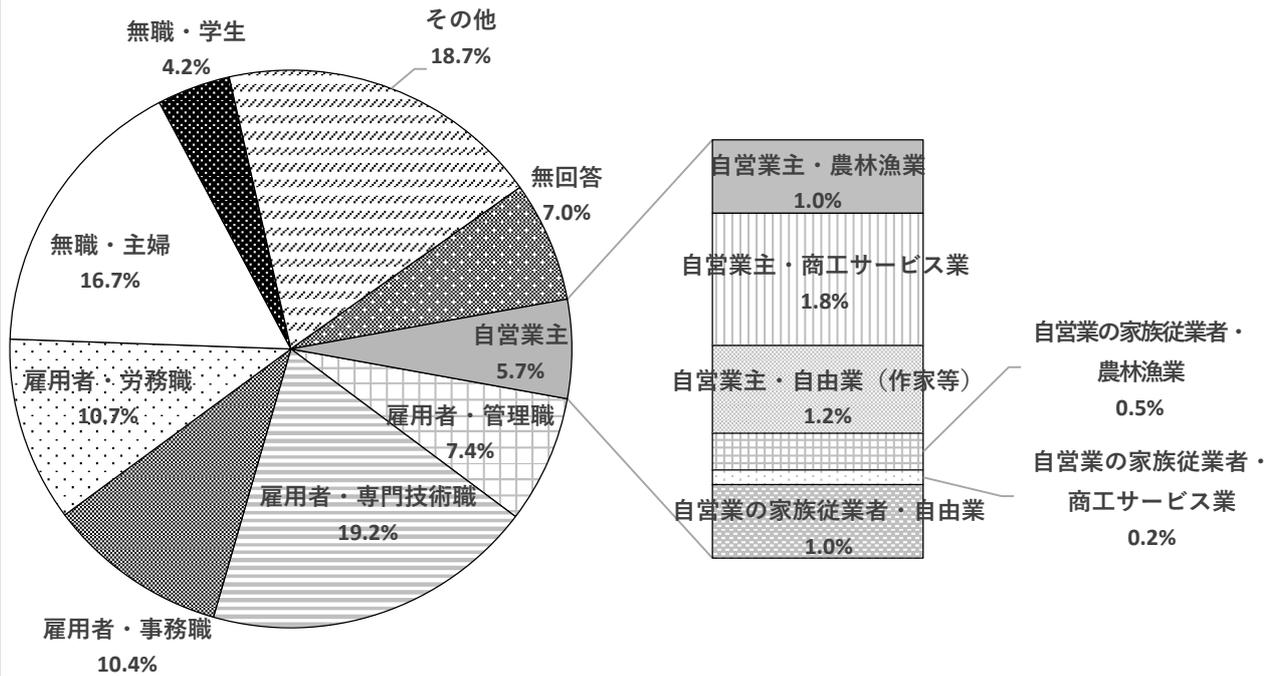
(2) 年齢



(3) あなたの主な仕事は

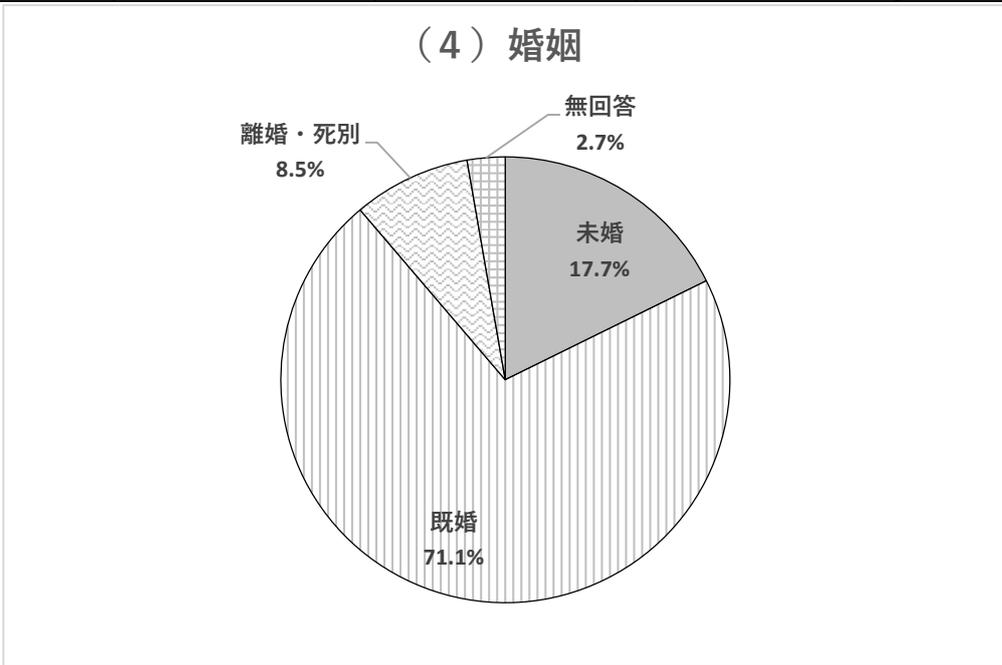
自営業主		自営業の家族従事者		雇用者		無職	
農林漁業	4	農林漁業	2	管理職	30	主婦	67
商工サービス業	7	商工サービス業	1	専門技術職	77	学生	17
自由業（作家等）	5	自由業	4	事務職	42	その他	75
				労務職	43		

(3) 仕事



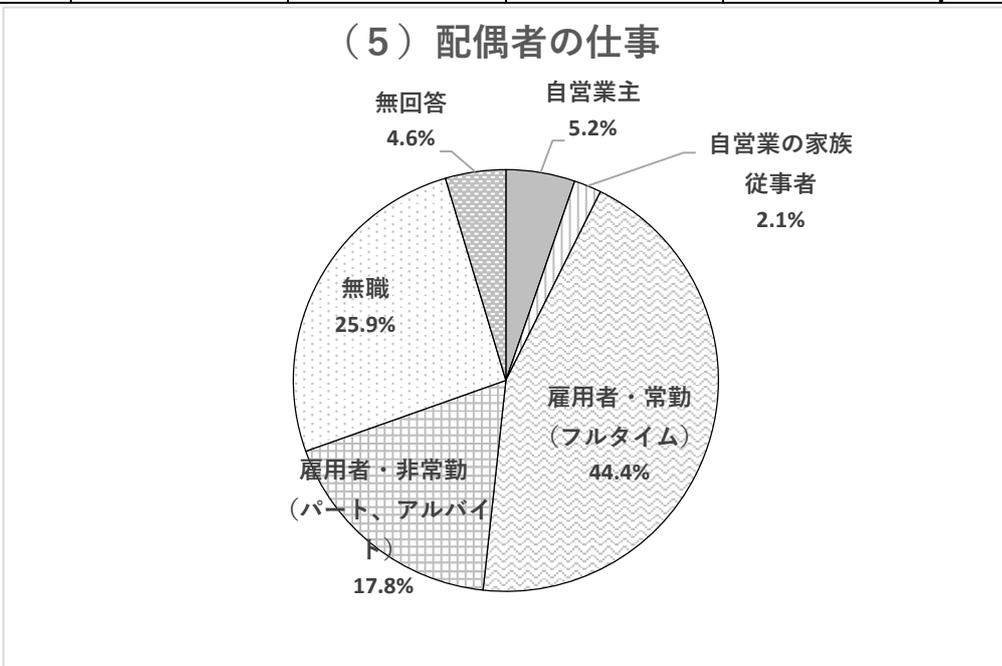
(4) あなたは結婚していますか

未婚	既婚	離婚・死別	無回答	総数
71	286	34	11	402



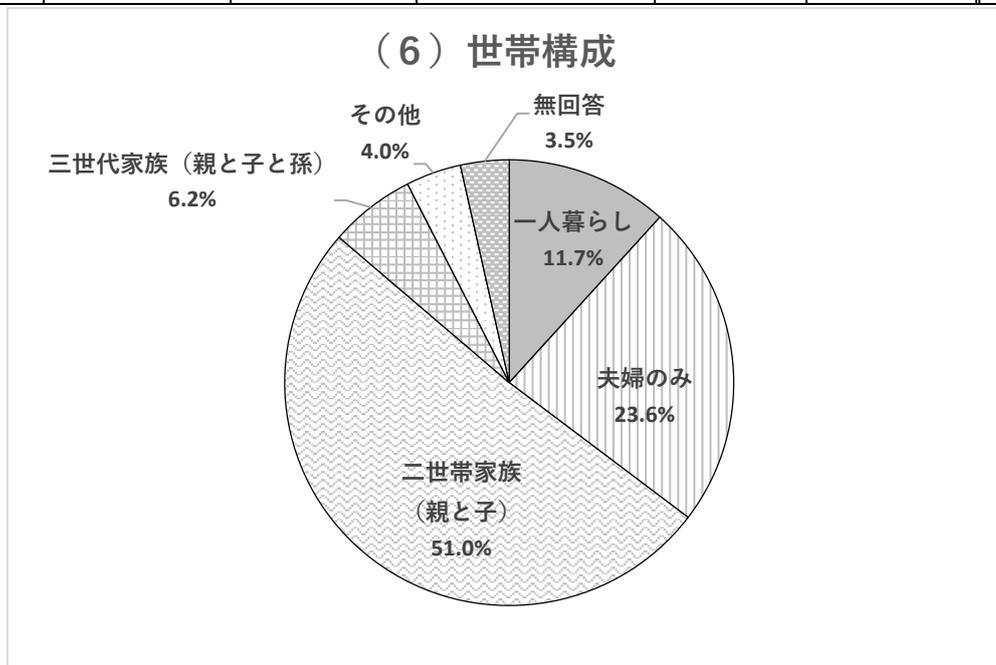
(5) あなたの配偶者の雇用形態は

自営業主	自営業の 家族従事者	雇用者	無職	無回答	総数
15	6	178	74	13	286



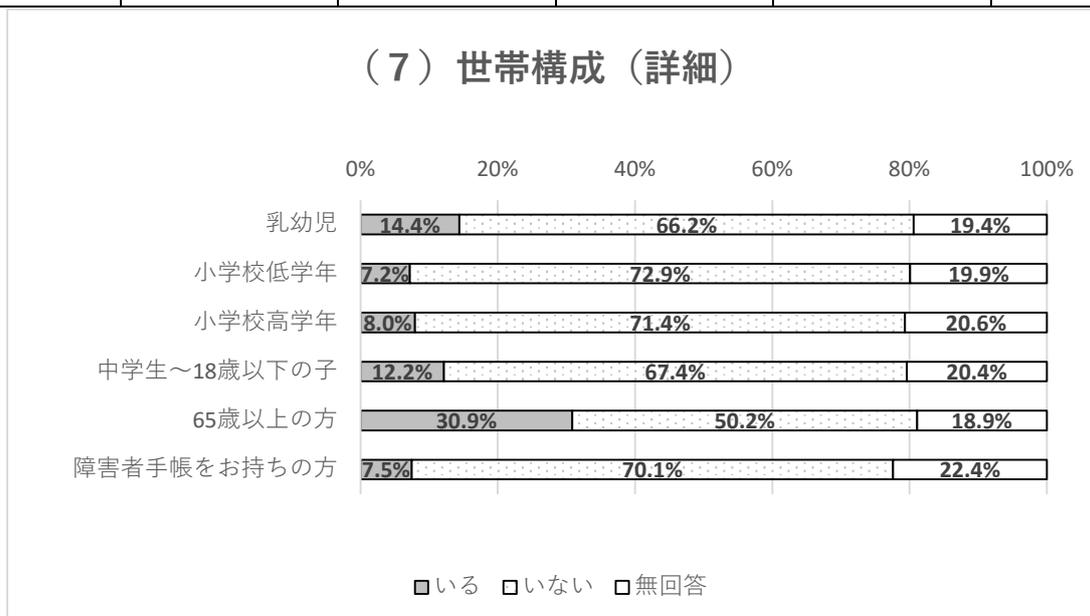
(6) あなたの世帯構成はどれですか

一人暮らし	夫婦のみ	二世帯家族 (親と子)	三世帯家族 (親と子と孫)	その他	無回答	総数
47	95	205	25	16	14	402



(7) ご家族の中に、次にあてはまる方はいますか

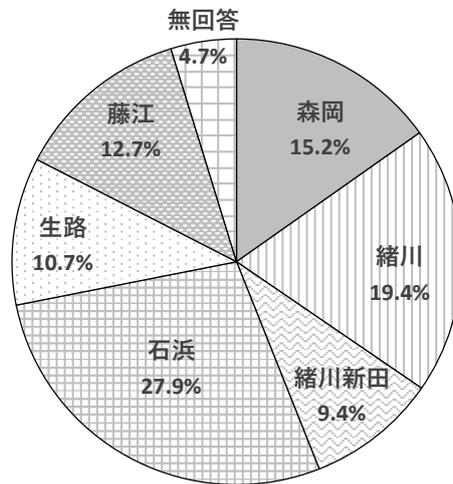
乳幼児	小学校低学年	小学校高学年	中学生～18歳 以下の子	65歳以上の方	障害者手帳を お持ちの方
58	29	32	49	124	30



(8) あなたのお住まいの地区は

森岡	緒川	緒川新田	石浜	生路	藤江	無回答	総数
61	78	38	112	43	51	19	402

(8) 居住地区



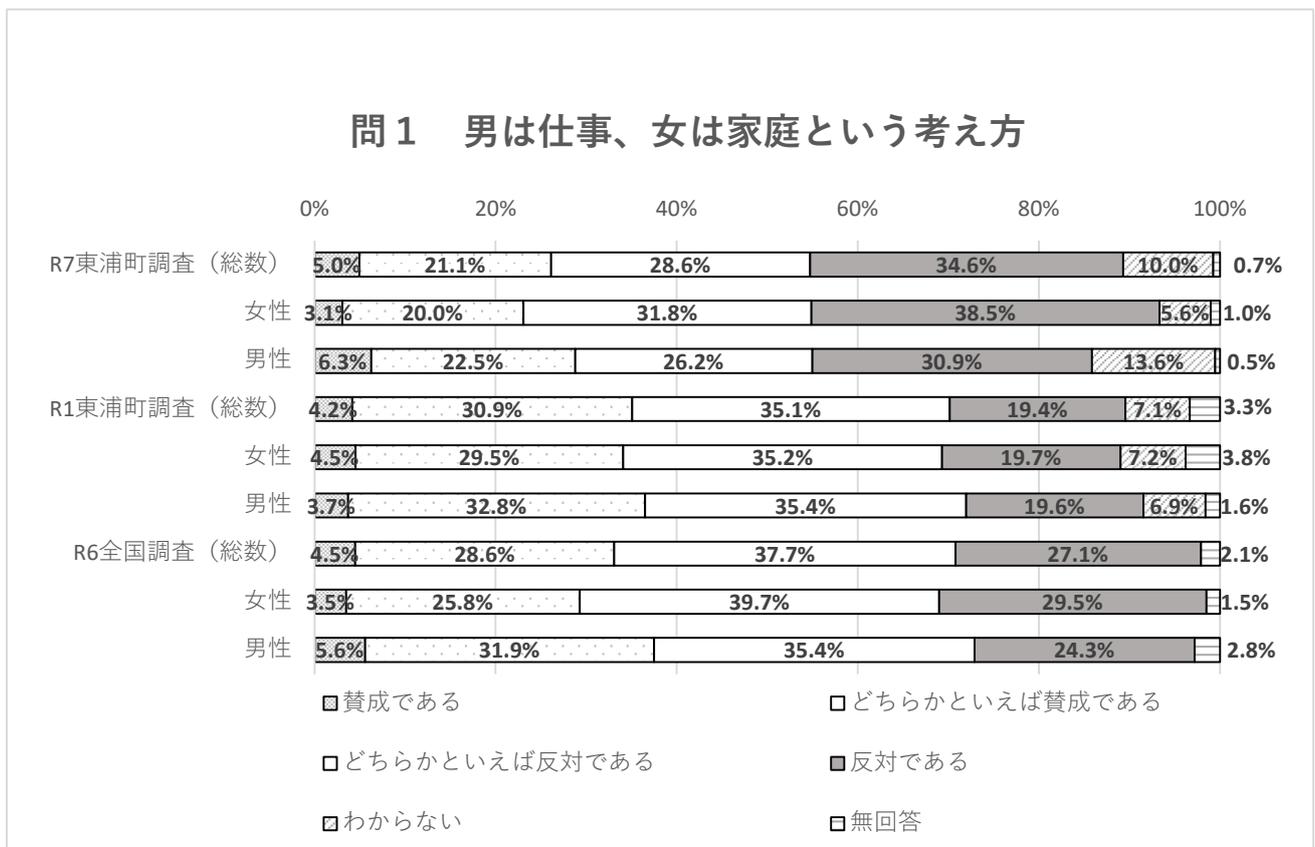
3. 調査の結果

(1)「男女共同参画」の意識、家庭、地域活動について

問1 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのようにお考えですか。(単数回答)

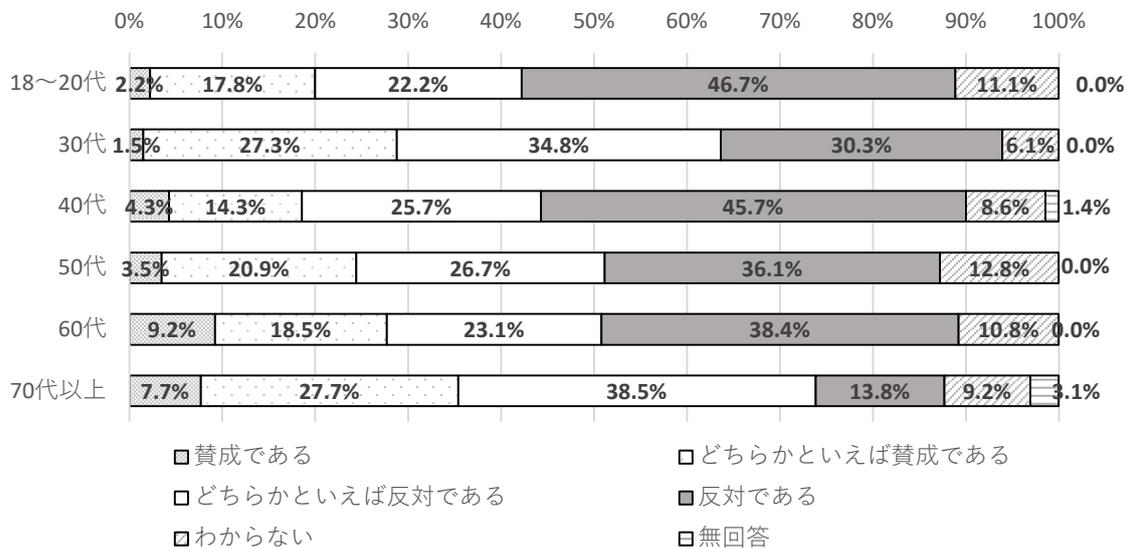
性別で見ると、男女ともに「反対である」の割合が最も高くなっています。また、賛成派（賛成である・どちらかといえば賛成である）は女性が23.1%、男性が28.8%、反対派（反対である・どちらかといえば反対である）は女性が70.3%、男性が57.1%となっており、前回調査と比較して、反対派の女性が15.4%増えたことから男女間での差が大きくなっています。

国の調査と比較すると、東浦町では「賛成である」と答えた人の割合は同程度となっています。



年代別で比較すると、全ての年代において「反対派」が「賛成派」を上回っていますが、70代以上においては賛成派が35.4%と最も多くなっています。また「賛成派」と「反対派」の差が大きいのは40代で、「賛成派」が18.6%、「反対派」が71.4%と、反対派が賛成派の約4倍の割合を占めています。

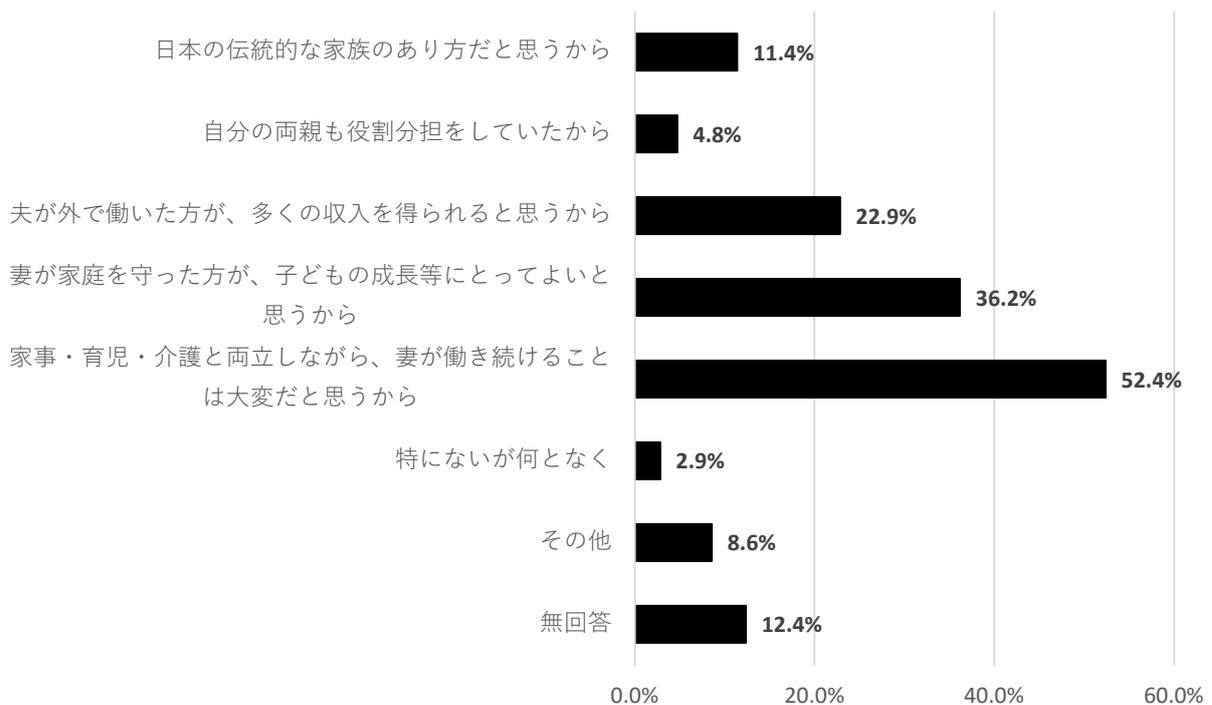
問1 男は仕事、女は家庭という考え方（年代別）



問2 問1で「賛成である」、「どちらかといえば賛成である」と答えた方にお聞きします。それは、なぜですか。（複数回答）

「賛成派」の理由では、「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」と回答した人の割合が最も高く、次いで「妻が家庭を守った方が、子どもの成長等にとってよいと思うから」の割合が高くなっています。

問2 賛成とする理由



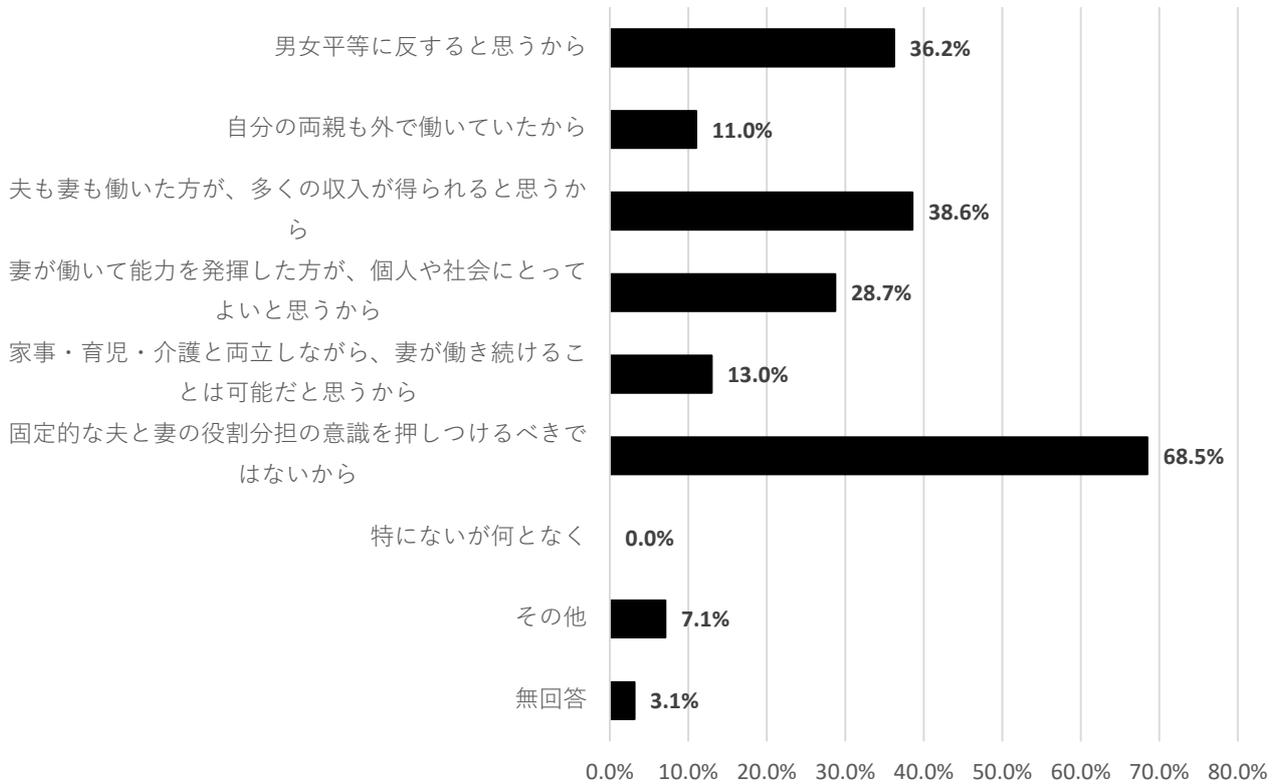
「その他」の記載内容

- ・各々の生活スタイルによって決めるだけのことであって、この言葉自体を知らない若年者も多いと思います。よって、この質問自体が男女差別からくる質問だと感じました（女性・50代）
- ・男女は逆でもいいが、特性を生かせばいいと思います。（男性・70代以上）
- ・夫婦双方が話し合っただけならどうとでもいい（男性・30代）
- ・様々な家庭環境があるので（男性・50代）
- ・子供が高校に行くお金かかるから（女性・40代）
- ・家事は家事、仕事は仕事でまとめてやった方が早いから。（答えたくない・どちらでもない・30代）
- ・収入によるが、役割が明確な方が生活地盤が固まっていいと思う。（男性・30代）
- ・男尊女卑の古い考えからではないが、男が一人で一家を養える程の収入があった上での条件にはなるが、その方が子供を産みやすいし育てやすいと思う（男性・50代）
- ・少子化対策になると思うから（男性・50代）
- ・共働きだと子どもと過ごす時間が減るので、両親またはどちらかの親が子どもと過ごせる環境がいいと思う、出産は男性には代われない役割なので女性が仕事から離れるのは自然な流れなのかと思う。（女性・30代）
- ・男が家庭、女は仕事でも良いです。役割を分担するのは効率的だと思います。（男性・30代）
- ・核家族が進み其々家庭の考え方がるので（女性・70代以上）

問3 問1で「どちらかといえば反対である」「反対である」と答えた方にお聞きします。それは、なぜですか。（複数回答）

反対派の理由では、「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押し付けるべきではないから」の割合が最も高くなっています。また、2番目に高い理由は「夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから」となっています。

問3 反対とする理由



「その他」の記載内容

- ・共働きでも言い訳ばかりで家の事は妻に全部押し付けて文句ばかりという男は多いと思うので、夫が家事等を行い妻が稼ぐにしろ、夫婦間のバランスが取れるなら無駄な拘りは捨てるべきだと考えています（男性・30代）
- ・妻がいるだけでは、子どもを育てるのに経済的な余裕がない。（男性・40代）
- ・家庭ばかりにしていると ストレスを溜めやすい 職場でもストレスは有ると思うが 双方で軽減できると感じる（男性・50代）
- ・育児を女性が担当すると女性の職場の男性に負荷がかかるから男女問わずでいいと思う（男性・40代）
- ・お互いに協力し合えばいいことだから（女性・50代）
- ・仕事でキャリアを積んできたから（女性・30代）
- ・夫でも妻でも関係なく家事をするべきであるから（男性・18～20代）
- ・今のこの世の中妻も働かないと子育てや生活はやっていけないのが現実だと思う。（女性・40代）
- ・得意な人が得意なものをしたらいいと思うから。（女性・30代）
- ・子供優先で決める（男性・50代）
- ・それぞれの事情や各自の得手不得手があるため（男性・60代）
- ・能力や才能がある方、やりたい事がある方はどんどん外に行けば良いと思う（男性・50代）

- ・家計状況や考え方などそれぞれの家庭に合わせていけば良いと思う（男性・30代）
- ・そもそも男性女性で物事を考えることこそ、男女格差が埋まらない原因（女性・40代）
- ・男女関係なく、やりたい事をやれるよう工夫すればいいと思うため。（男性・40代）
- ・人がどう思おうと自分は自分だから（女性・50代）
- ・わからない（女性・18～20代）
- ・お互いの得意不得意なことを認め合って、助け合っていくことが大切だと考えるため（女性・30代）
- ・その家それぞれだと思う（男性・30代）
- ・好きな人が好きなように話し合いをして決めれば良い（女性・30代）
- ・女性も働く事によって生きがいに繋がると思うから（女性・50代）
- ・女性の社会進出を推進することは良いことだと思うが、それが女性の負担になることもあるのでちらかといえば反対にした。（女性・30代）
- ・こうあるべきというより、働きたい人は働けばいいし、働きたくない人は働かなくていい。家庭にもよるし、個人にもよる。（女性・50代）
- ・家庭内の事は家族みんなで協力するべきだと思います。（女性・70代以上）

問4 社会や生活の中で、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。（単数回答）

「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が最も高いのは、男女ともに「政治や行政」となっています。（女性 80.0%、男性 68.2%）

「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の男女の差が最も大きいのは「家庭生活」の項目で、女性が66.2%に対し男性は47.1%となっており、19.1%の差があります。

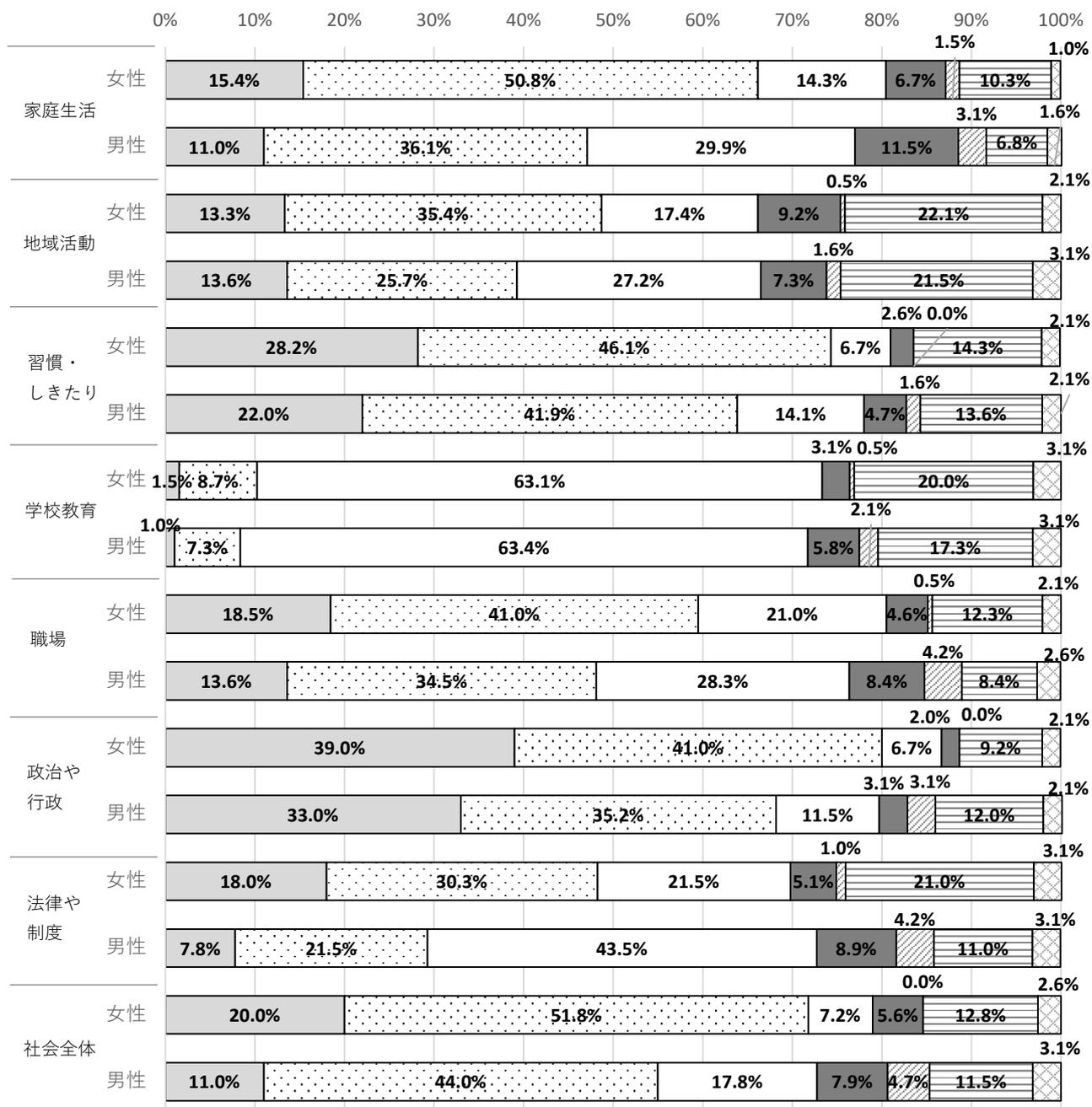
男女の地位が「平等になっている」の割合が最も高いのは、男女ともに「学校教育」の項目です。

「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合は最も低くなっており、女性が10.2%、男性が8.3%とほぼ同程度となっています。

「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の割合が最も高くなっているのは、女性では「地域活動」の項目で9.7%、男性では「家庭生活」で14.6%となっています。

「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の割合の男女差が最も大きいのは「職場」の項目で、女性が5.1%、男性が12.6%で7.5%の差があり、男性の回答割合は女性の2.4倍となっています。

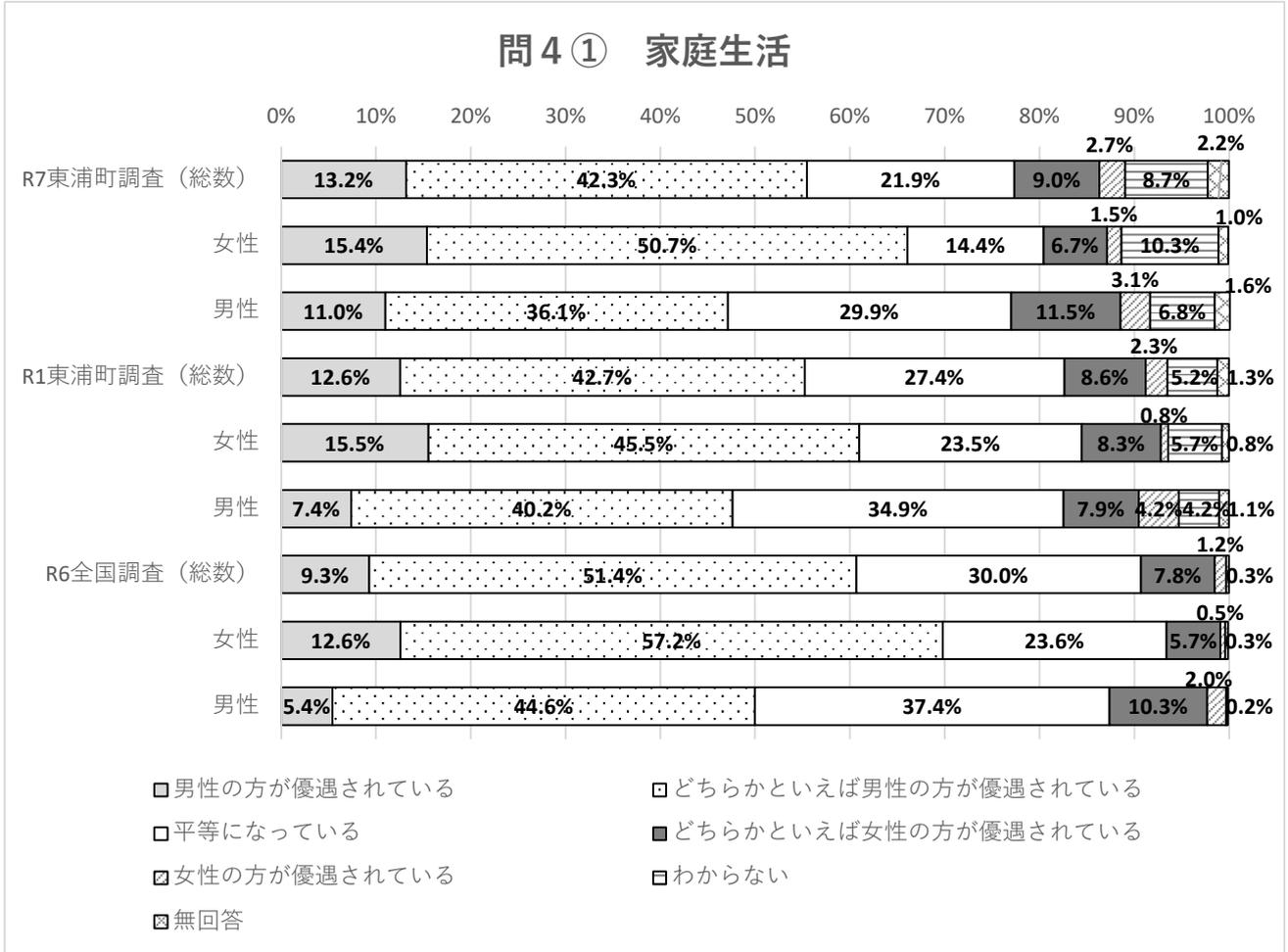
問4 男女の地位の平等感



- 男性の方が優遇されている
- 平等になっている
- 女性の方が優遇されている
- 無回答
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- わからない

①家庭生活では

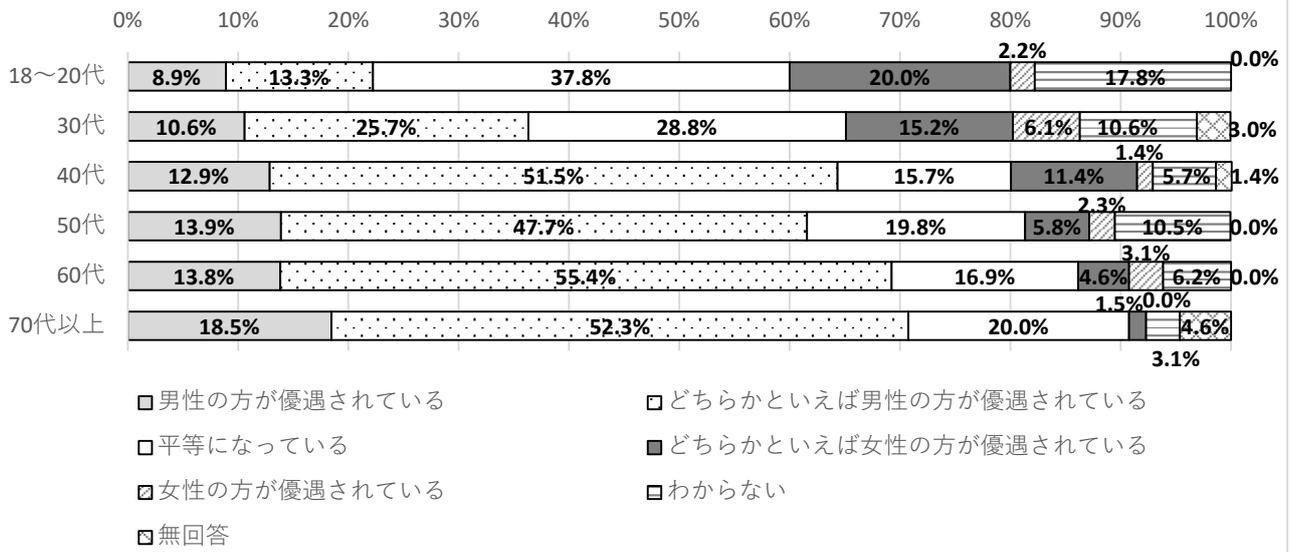
「家庭生活」の項目では、全国調査と比較して「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した割合が低くなっています。また、「平等になっている」と回答した割合は、全国調査と比較し8.1%低くなっています。「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の割合は、全国調査と同程度となっています。



年代別に見ると、「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合は、概ね年代が上がるるとともに高くなる傾向にありますが、「男性の方が優遇されている」の割合は70代以上で高くなっています。

「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた割合は18～20代が22.2%で最も高く、最も低い70代以上の1.5%の約14.8倍の割合を占めています。

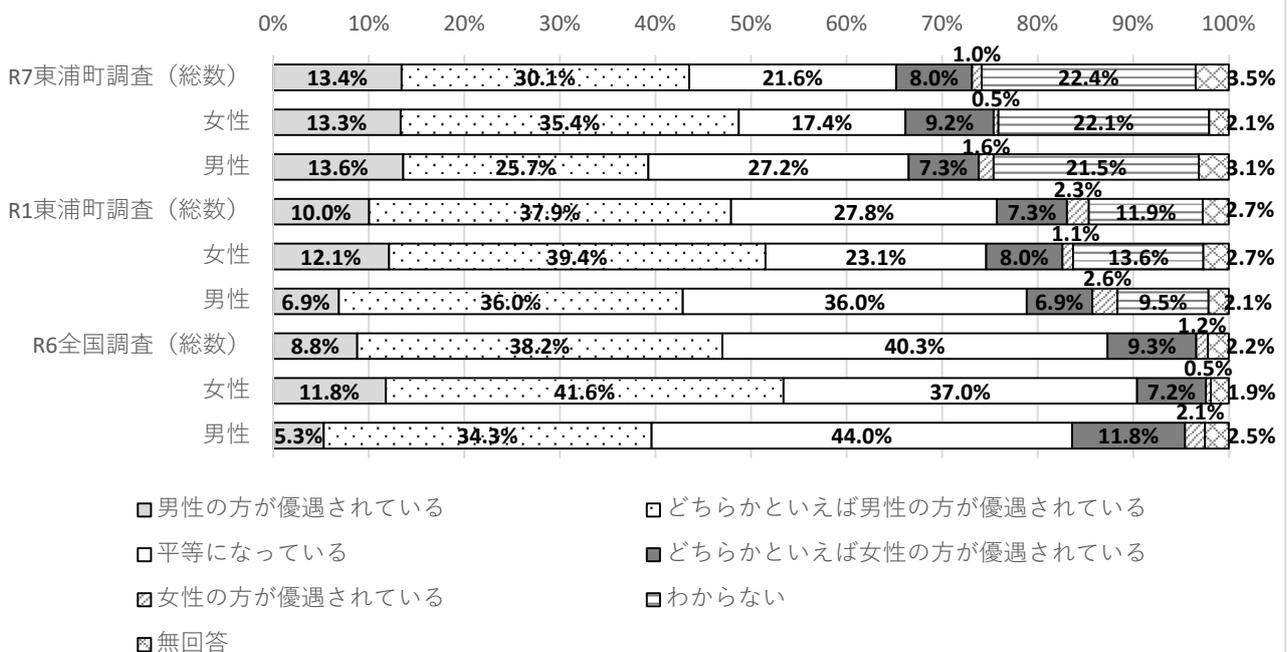
問4① 家庭生活（年代別）



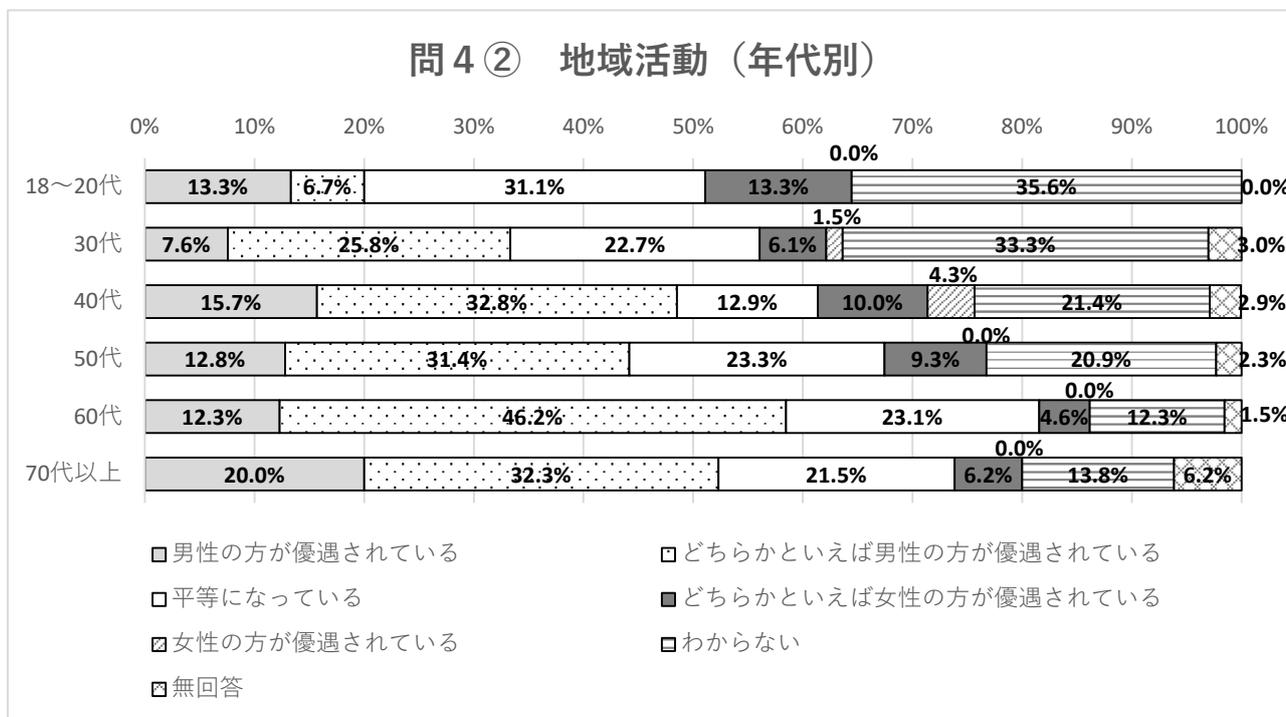
②地域活動では

地域活動の項目では、全国調査と比較すると「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した人の割合がやや低く、「平等になっている」と回答した人の割合についても18.7%低くなっています。また、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と回答した人の割合も、全国調査よりはやや低い傾向にあります。

問4② 地域活動



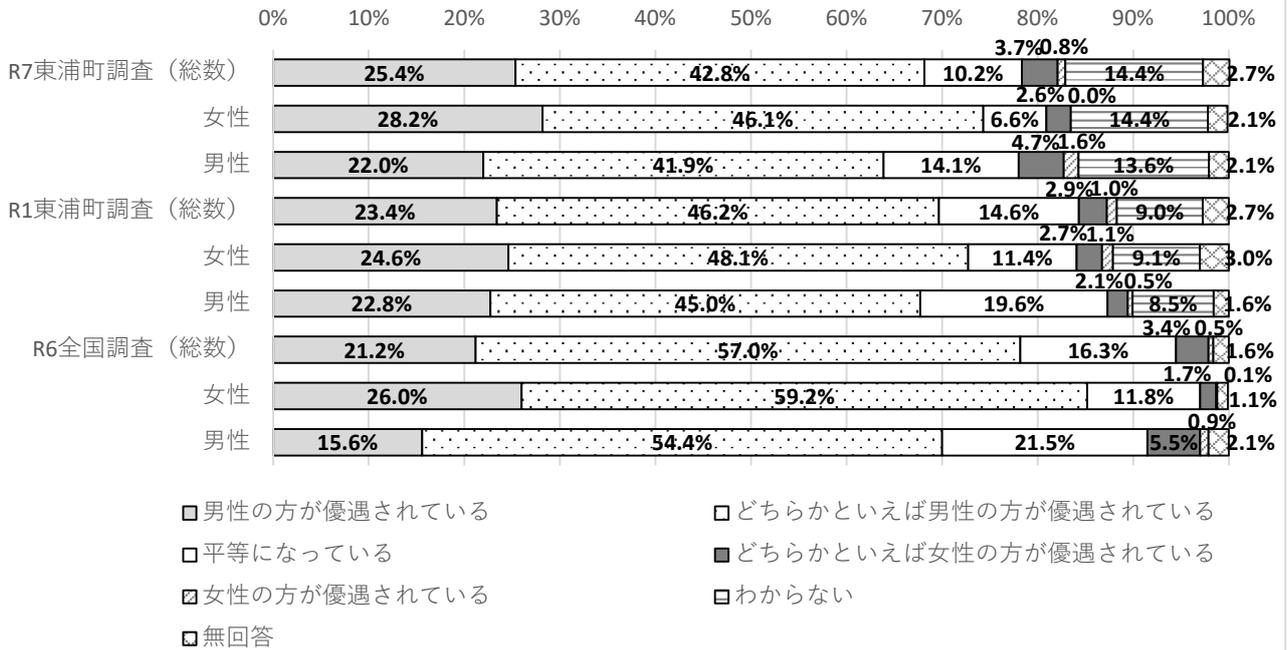
年代別に見ると、「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合が最も多いのは60代で、58.5%となっています。「平等になっている」と回答した割合は、40代が最も低くなっています。また、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた割合は40代で14.3%と最も高くなっており、4.6%と最も低い60代の約3倍になっています。



③習慣・しきたりでは

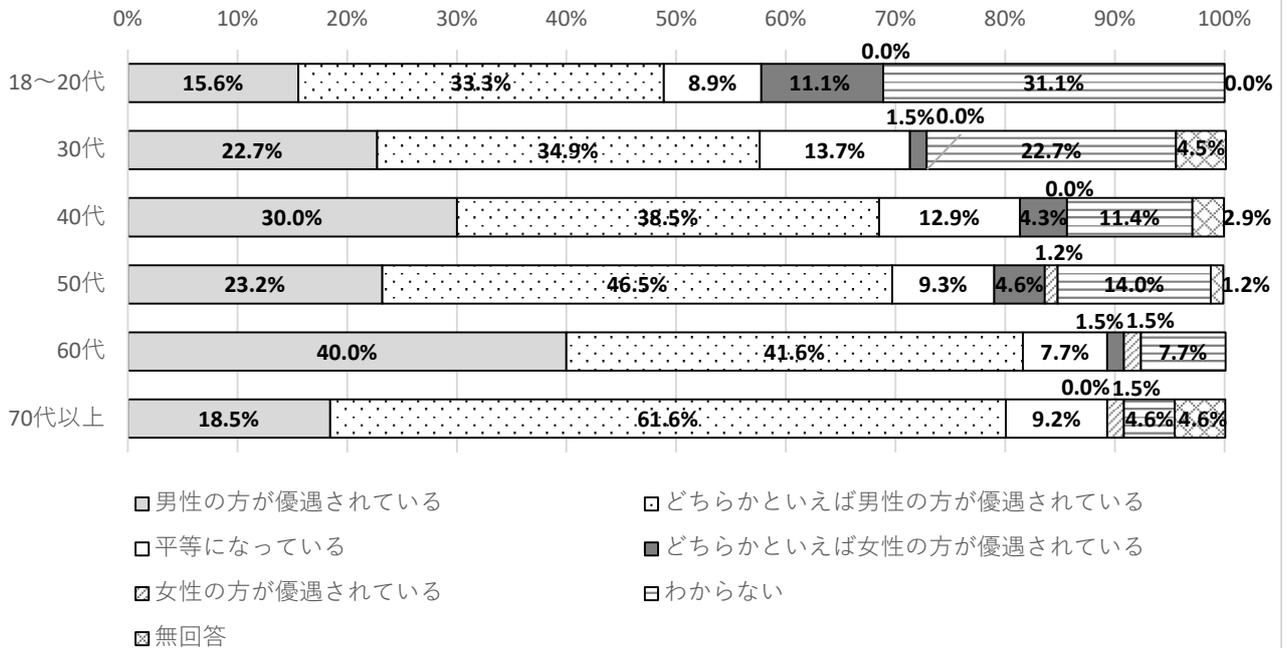
習慣・しきたりの項目は東浦町調査・全国調査ともに「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した人の割合が高くなっていますが、全国調査と比較すると10%の差があります。また、東浦町の前回調査と比較するとほぼ同程度となっており、「平等になっている」と回答した人の割合は前回より減少しています。「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と回答した人の割合は、全国調査とほぼ同程度になっています。

問4③ 習慣・しきたり



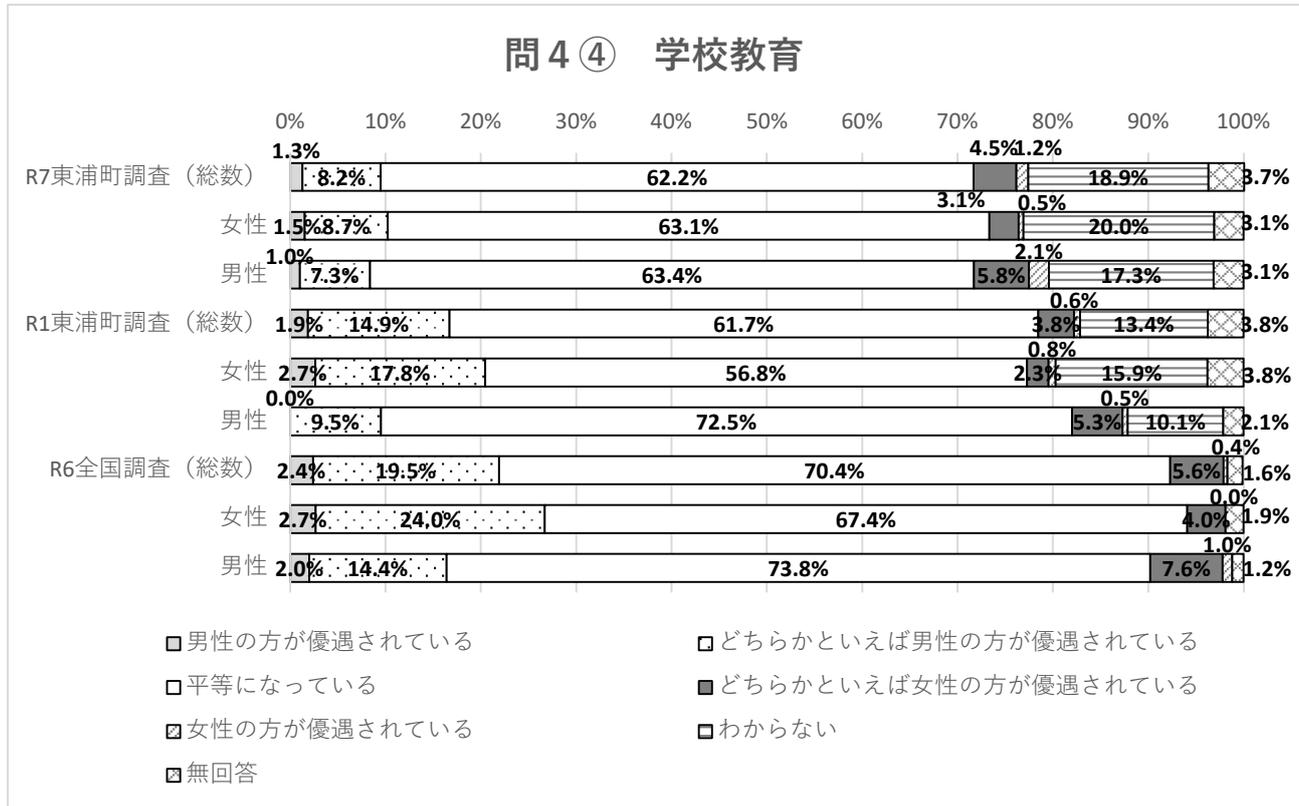
年代別に見ると、「男性の方が優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した人の割合は、60代でもっとも高くなっています。

問4③ 習慣・しきたり (年代別)



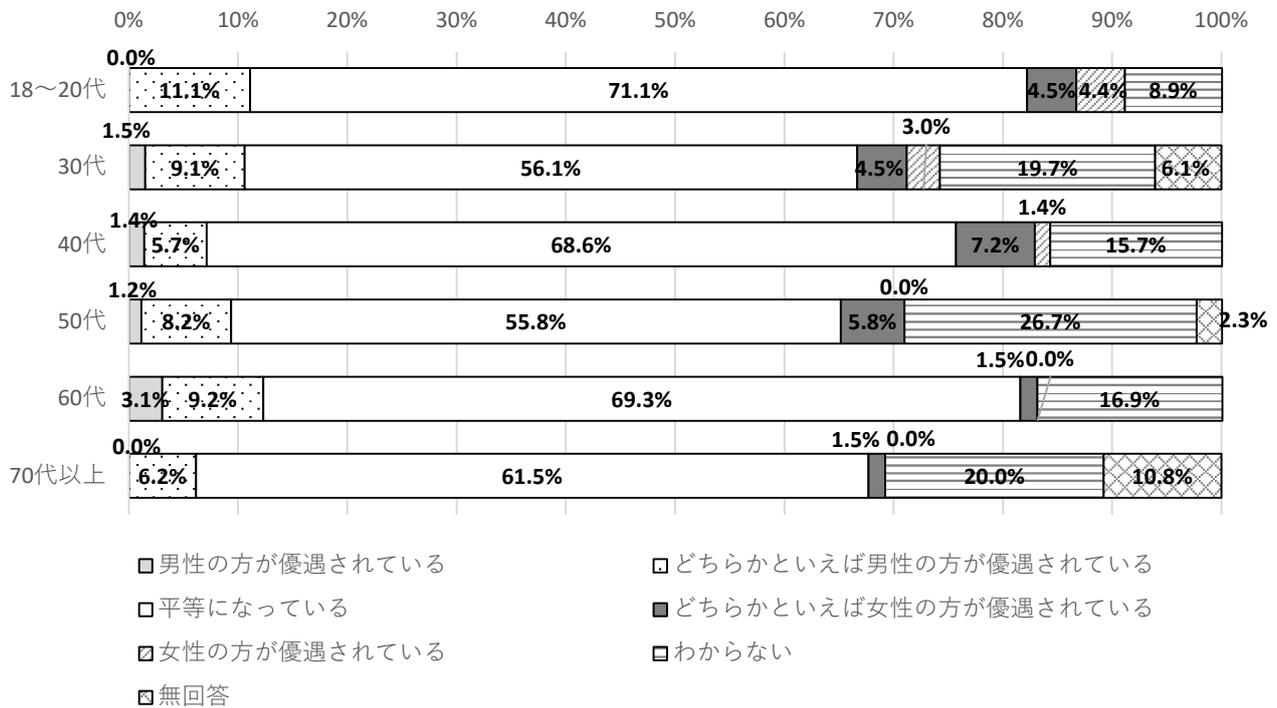
④学校教育では

学校教育の項目は、8項目中もっとも「平等になっている」と回答した人の割合が高くなっていますが、全国調査と比較すると8.2%低くなっています。また、前回調査と比較して「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した人の割合が7.3%減少し、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と回答した人の割合が1.3%増加しています。



年代別に見ると、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が最も高くなっているのは60代で、12.3%です。また、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の割合が最も高くなっているのは18～20代で、8.9%となっています。

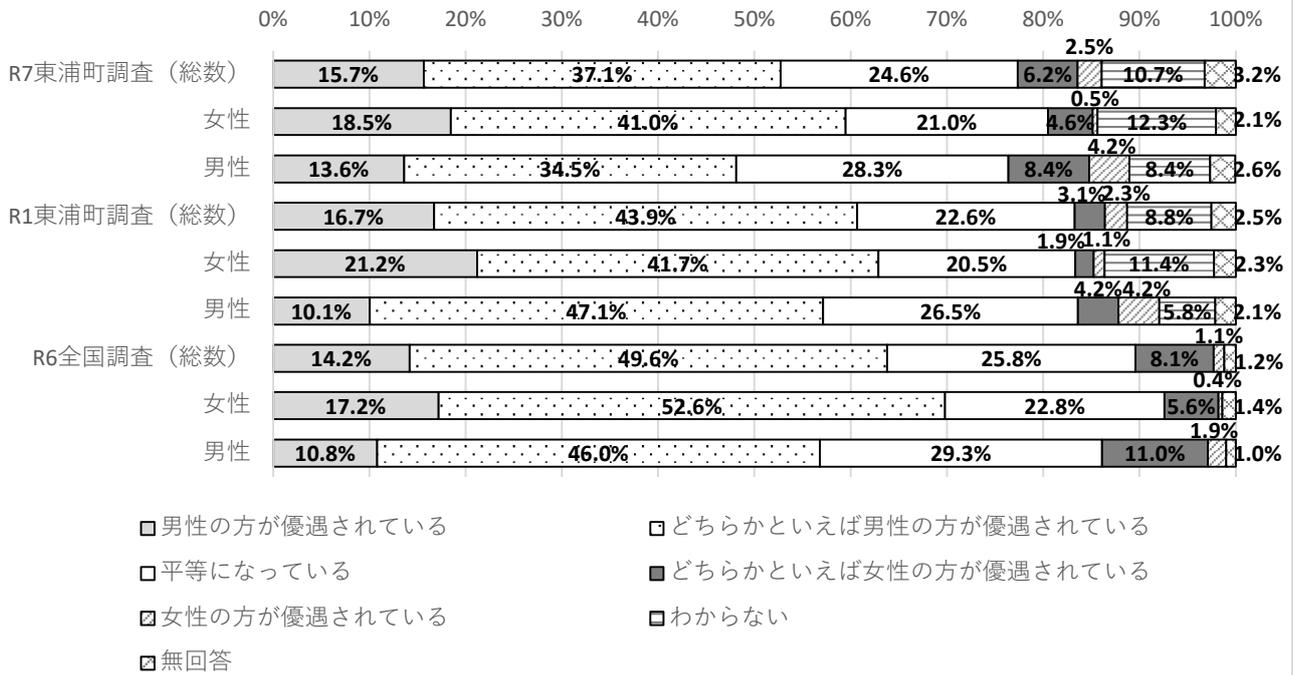
問4④ 学校教育（年代別）



⑤職場では

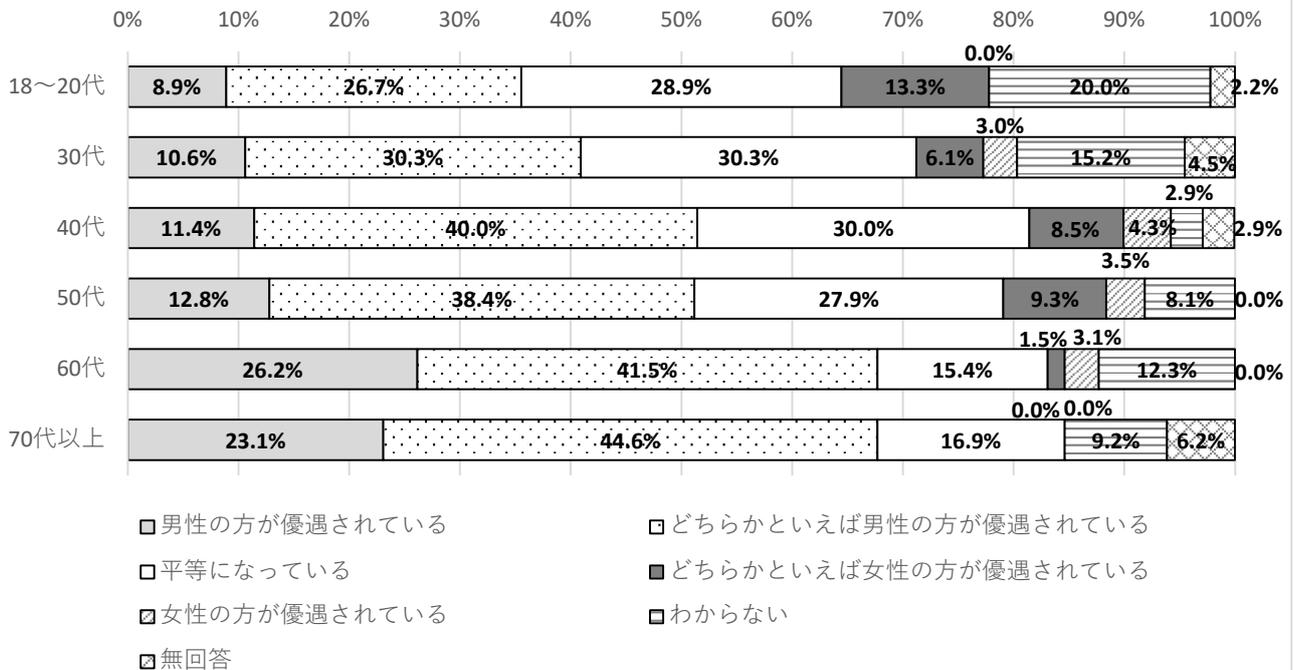
職場の項目では、前回調査と比較して「平等になっている」と答えた人の割合は増加していますが、全国調査と比較すると低い数値となっています。「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した人は、前回調査より7.8%減少しています。「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と回答した人の割合は、前回調査と比較すると3.3%増加しています。

問4⑤ 職場



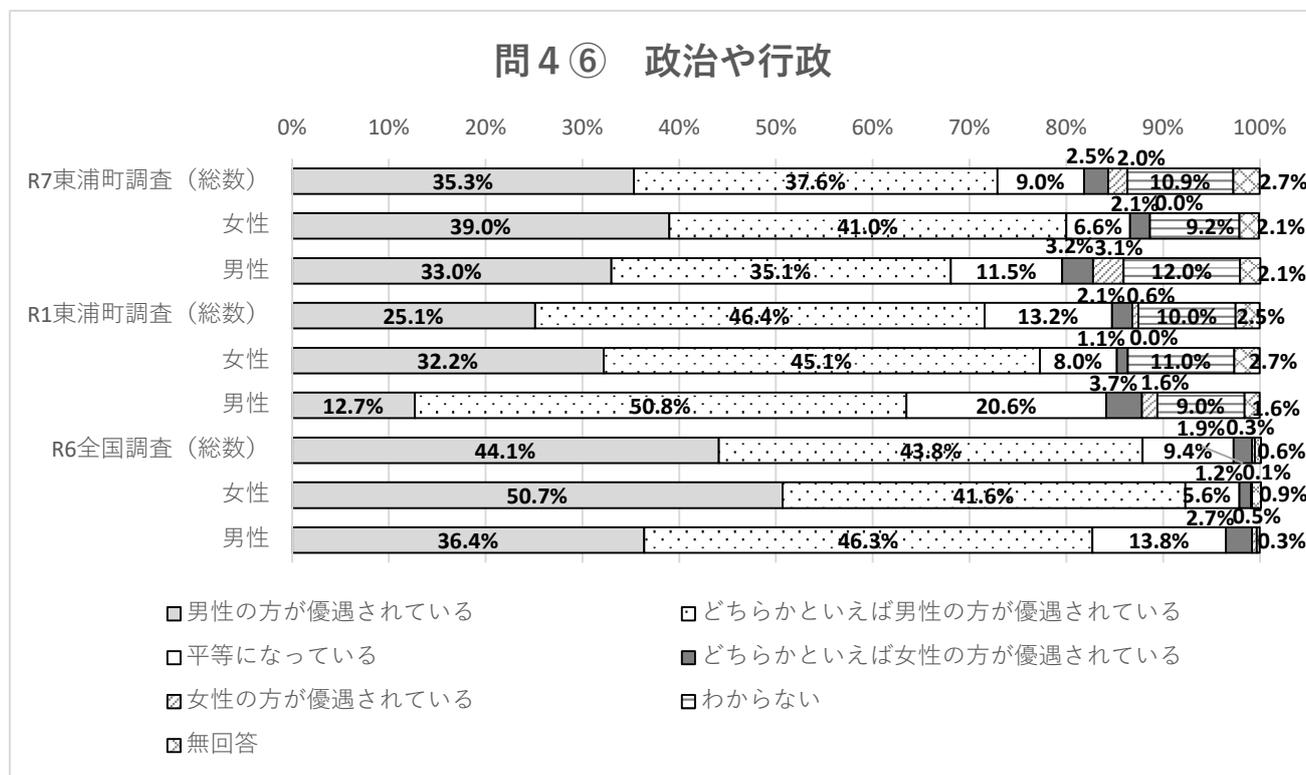
年代別に見ると、「平等になっている」と回答した人の割合は60代が最も低くなっています。「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した方の割合が最も高かったのは60代、70代以上となっています。(67.7%)

問4⑤ 職場 (年代別)



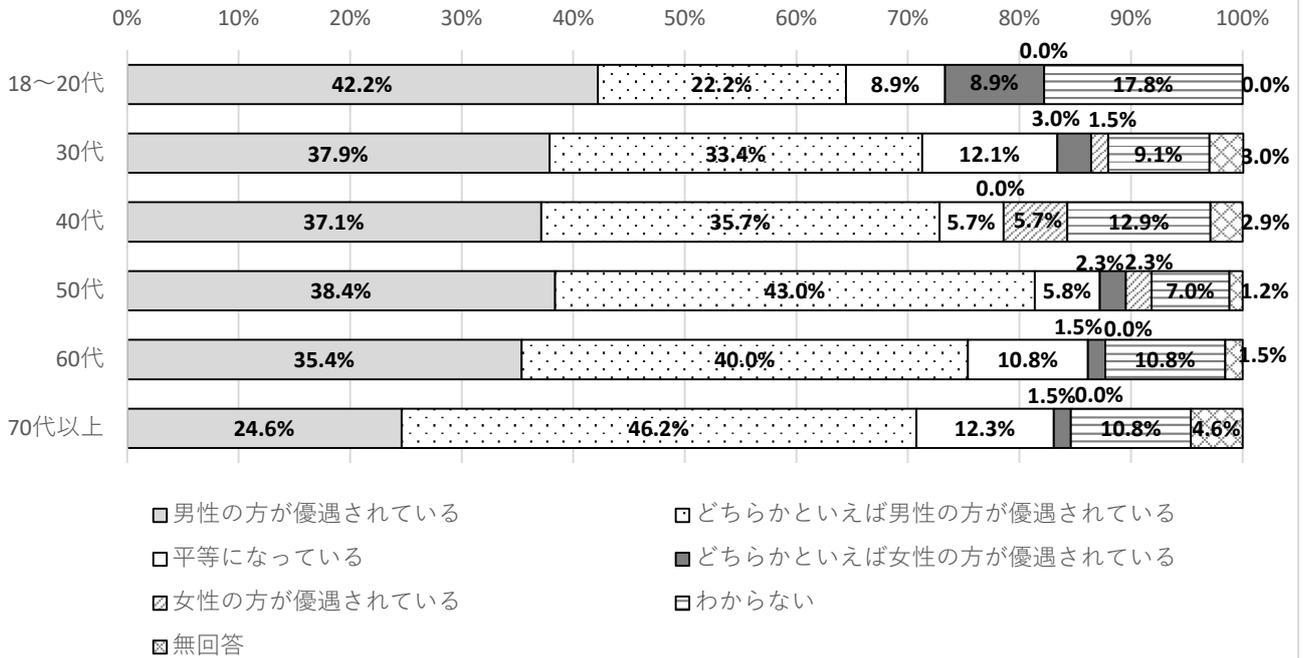
⑥政治や行政では

政治や行政の項目では、前回調査と同様「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した女性の割合が男性の割合と大きな差があります。「平等になっている」と回答した人の割合は男女で約2倍の差があります。なお、全国調査と比較すると、ほぼ同程度なっています。



年代別に見ると、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した方の割合は50代で最も高くなっています。「平等になっている」と回答した人の割合が最も高いのは70代以上の12.3%、最も低いのは40代の5.7%で、6.6%の差があります。

問4⑥ 政治や行政（年代別）

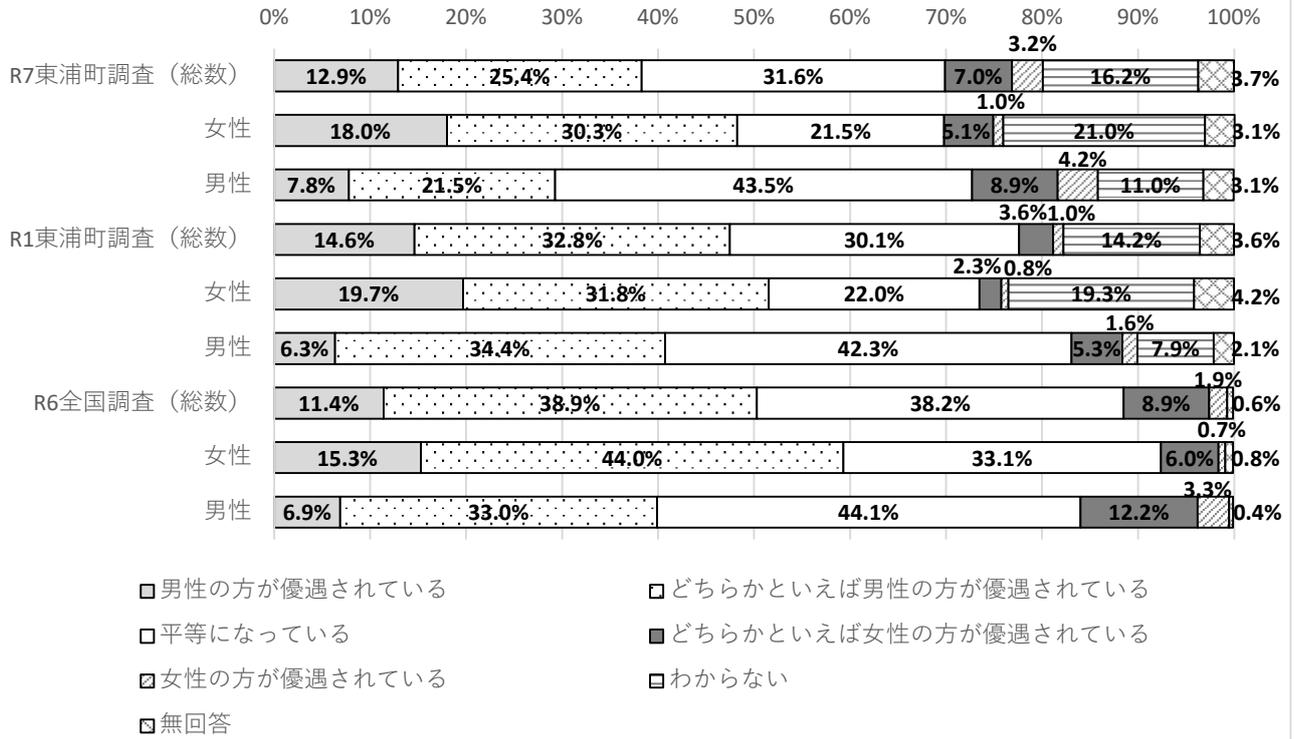


⑦法律や制度では

法律や制度の項目では、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した人の割合が前回調査より9.1%減少しています。「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した女性の割合は前回調査と同程度ですが、男性は11.4%減少しています。

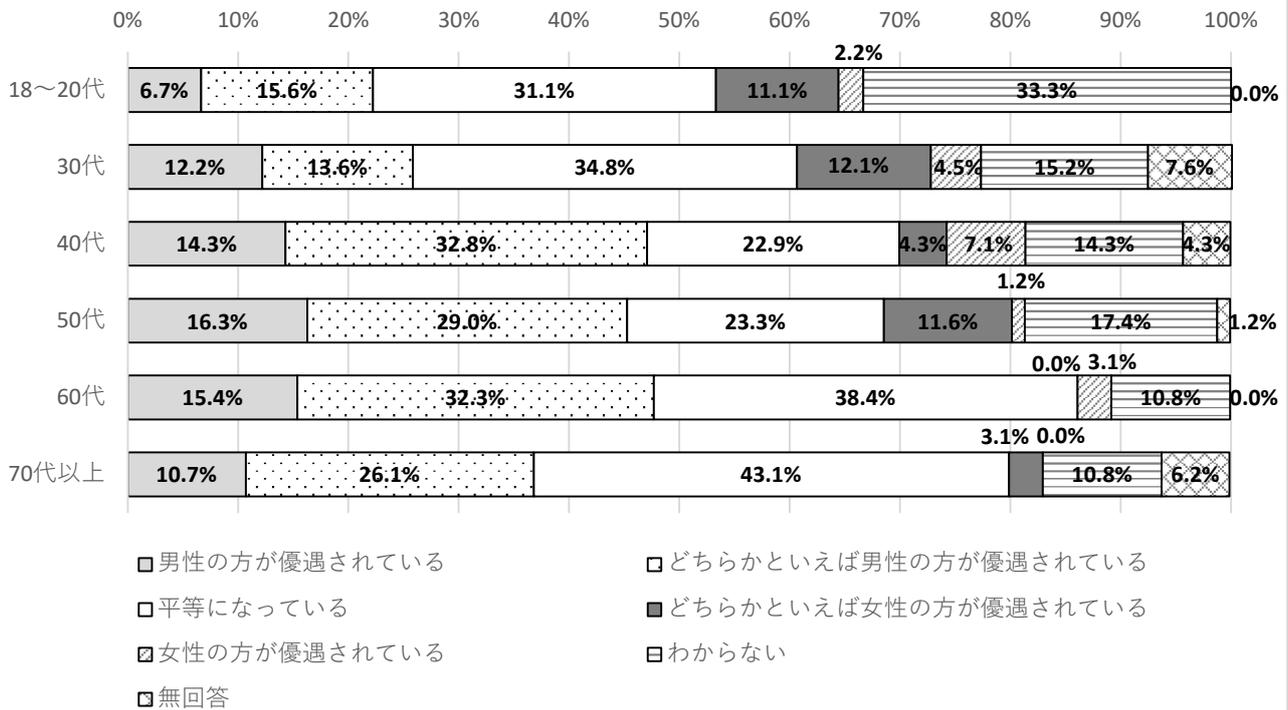
「平等になっている」と回答した人の割合は31.6%で前回調査と同程度となっており、全国調査の38.2%と比較するとやや低い数値となっています。

問4⑦ 法律や制度



年代別に見ると、18～20代では「わからない」と回答した人の割合が高く、全体の33.3%を占めています。「平等になっている」と回答した人の割合が最も低いのは40代で、最も高いのは70代以上となっています。「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した人の割合が最も高いのは40代となっています。

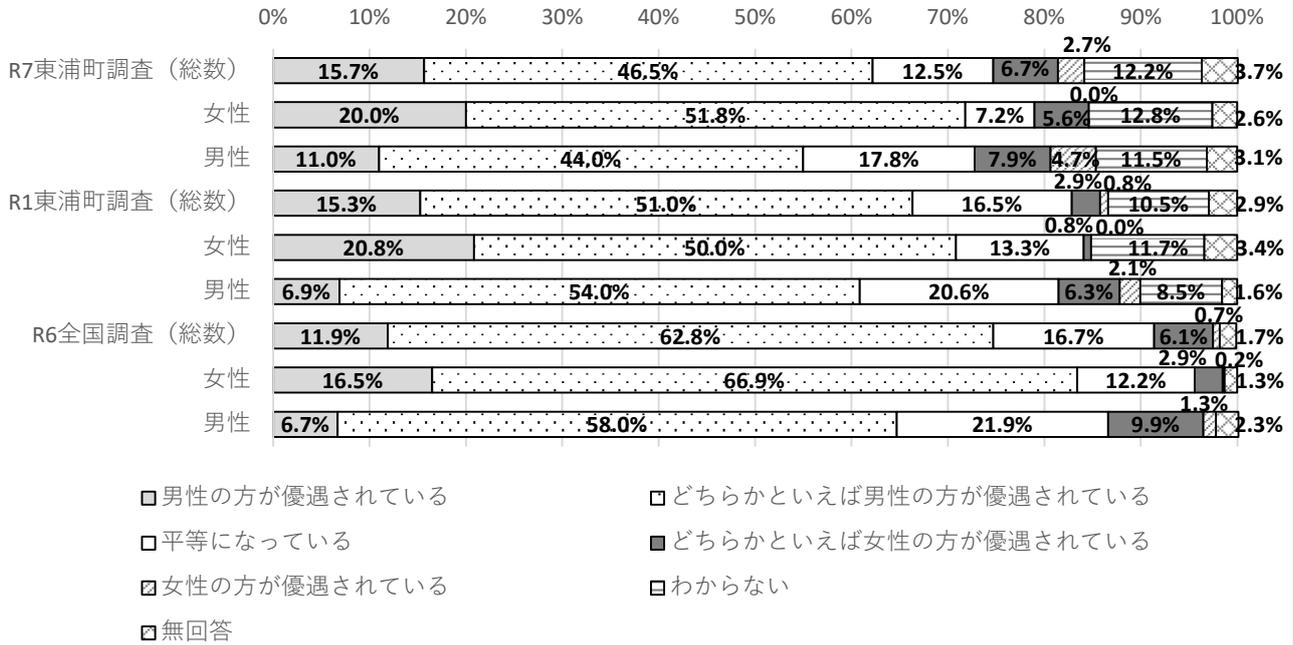
問4⑦ 法律や制度（年代別）



⑧社会全体として

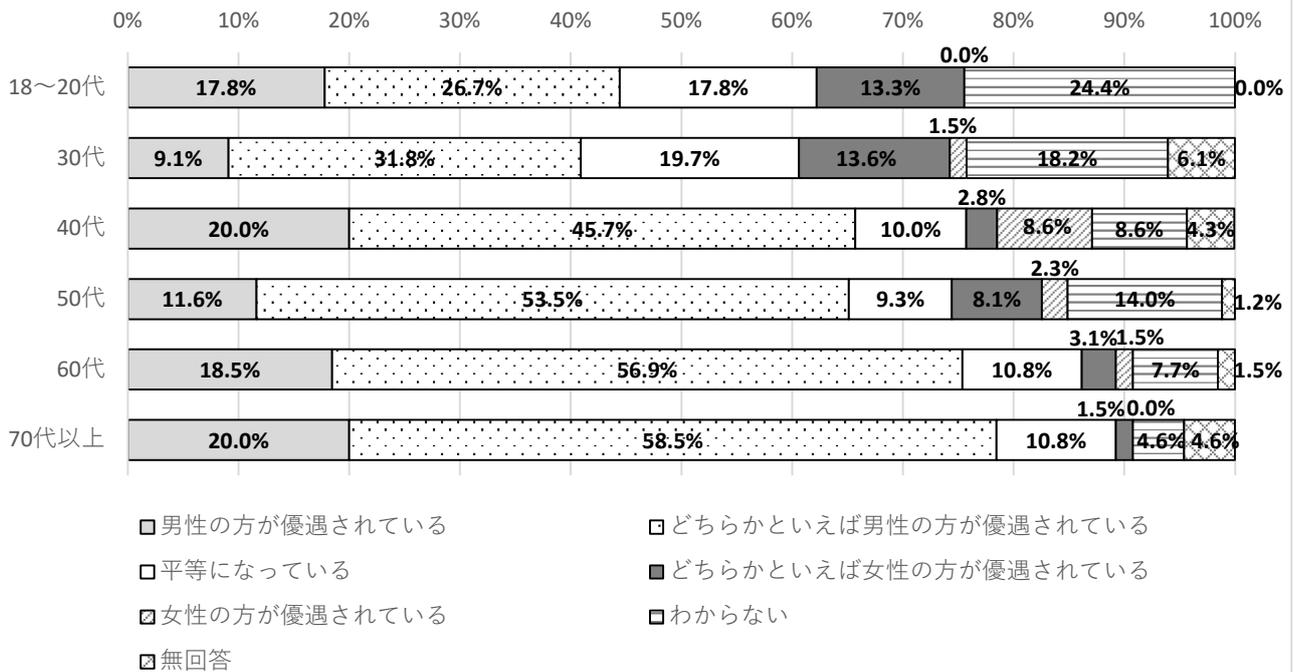
「社会全体」の項目では、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した人の割合が62.2%となっており、全国調査と比較すると、12.5%低い数値となっています。また、「平等になっている」と回答した人の割合は前回調査よりやや減少しており、全国調査と比較しても低い数値となっています。

問4⑧ 社会全体



年代別に見ると、「平等になっている」と回答した人の割合が最も低いのは50代の9.3%です。年齢が上がるにつれて「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答された方の割合が高くなり、年齢が下がるにつれて「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と回答された方の割合が高くなっています。

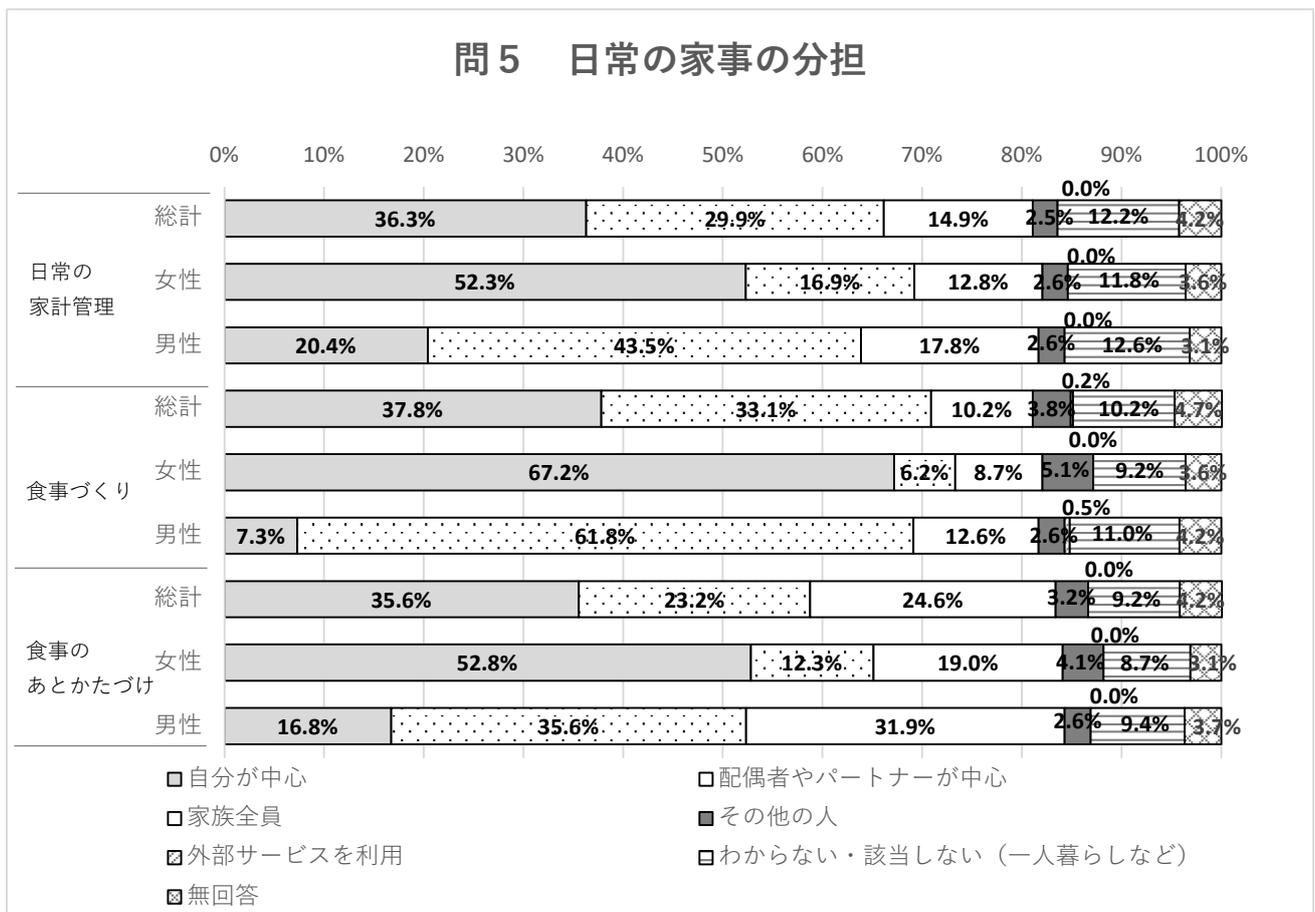
問4⑧ 社会全体 (年代別)



問5 あなたの家庭では、日常の家事の分担どのようにしていますか。(単数回答)

多くの項目において、女性が分担していると回答した割合が高くなっており、特に「食事づくり」の項目では60%以上、「洗濯」の項目では50%以上の方が女性が中心となって分担していると回答しています。男性が中心となって分担していると回答していた割合が男女ともに高かったのは、「ゴミ出し」でした。

「家族全員」と回答した人の割合がもっとも低いのが「食事づくり」で10.2%、もっとも高いのは「食事のあとかたづけ」「食糧品・日用品の買い物」の2項目で、24.6%となっています。「家族全員」の回答割合のうち、男女でもっとも差が大きいのは「掃除」の項目で、女性は16.4%、男性は30.9%と14.5%の差があります。



問5 日常の家事の分担



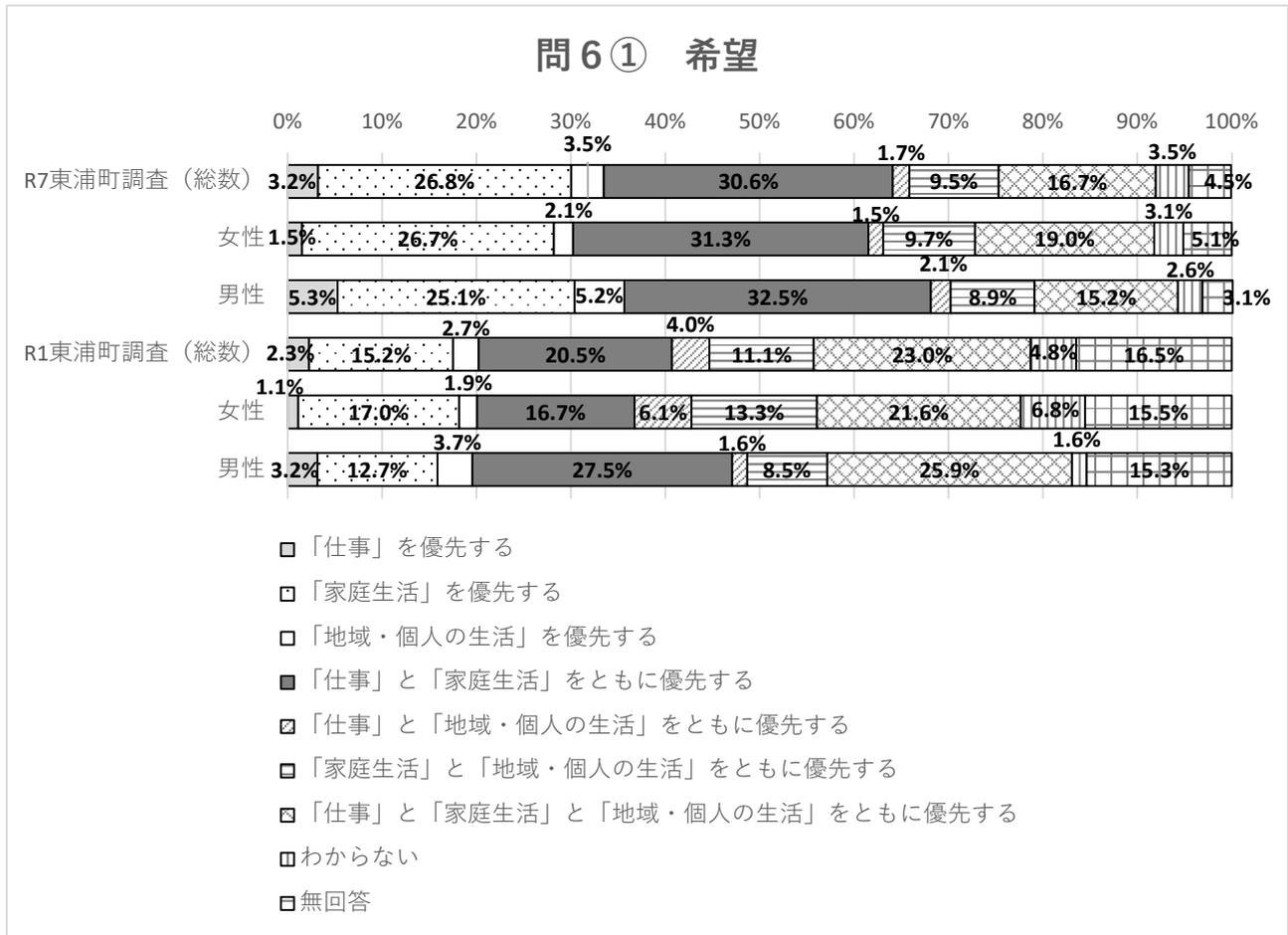
- 自分を中心
- 配偶者やパートナーが中心
- 家族全員
- その他の人
- ▨ 外部サービスを利用
- ▩ わからない・該当しない（一人暮らしなど）
- ▧ 無回答

問6 あなたは、生活の中で、「仕事」、「家庭生活（家事・子育て・介護等）」、「地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合い等）」のうち何を優先しますか。
（単数回答）

①希望

男女別に見ると、女性では「『仕事』と『家庭生活』をともに優先する」(31.3%)が最も高く、次いで「『家庭生活』を優先する」(26.7%)となっています。男性も同様に「『仕事』と『家庭生活』をともに優先する」(32.5%)が最も高く、次いで「『家庭生活』を優先する」(25.1%)となっています。

前回調査と比較すると、「『家庭生活』を優先する」と回答した方が11.6%増加しています。

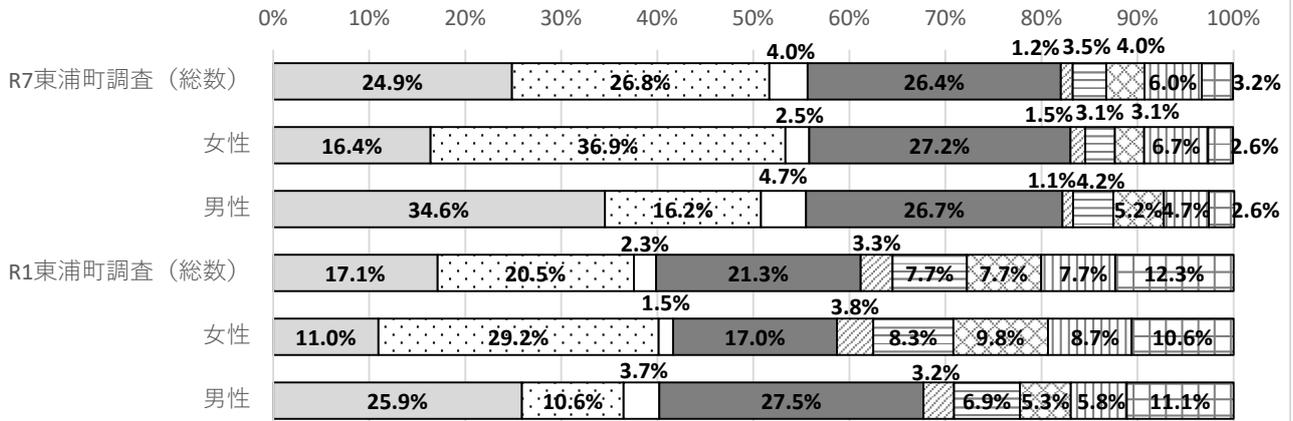


②現実

男女別に見ると、女性では「『家庭生活』を優先する」(36.9%)が最も高く、次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先する」(27.2%)となっています。男性では「『仕事』を優先する」(34.6%)が最も高く、次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先する」(26.7%)となっています。

男女での差が最も大きいのが「『家庭生活』を優先する」で、女性は36.9%、男性は16.2%と20.7%の差があります。

問6② 現実

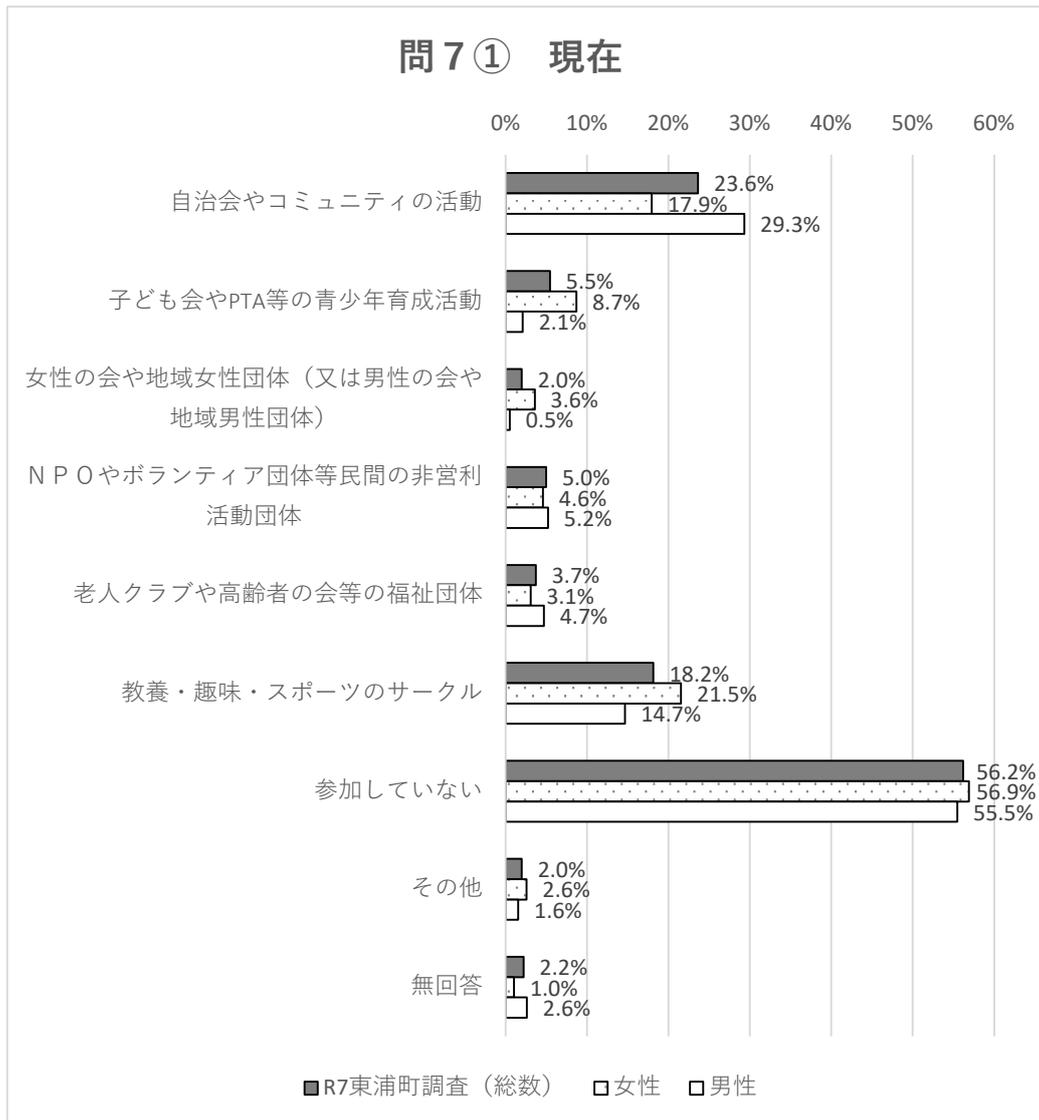


- 「仕事」を優先する
- 「家庭生活」を優先する
- 「地域・個人の生活」を優先する
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先する
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先する
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先する
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先する
- わからない
- 無回答

問7 あなたは、次のような地域活動に参加していますか。また、今後参加したいと思う地域活動はありますか。（複数回答）

①現在

男女ともに「参加していない」が最も高くなっています。女性では次いで「教養・趣味・スポーツのサークル」（21.5%）、男性では次いで「自治会やコミュニティの活動」（29.3%）となっています。男女の差が最も大きいのが「自治会やコミュニティの活動」で、女性は17.9%、男性は29.3%と11.4%の差があります。



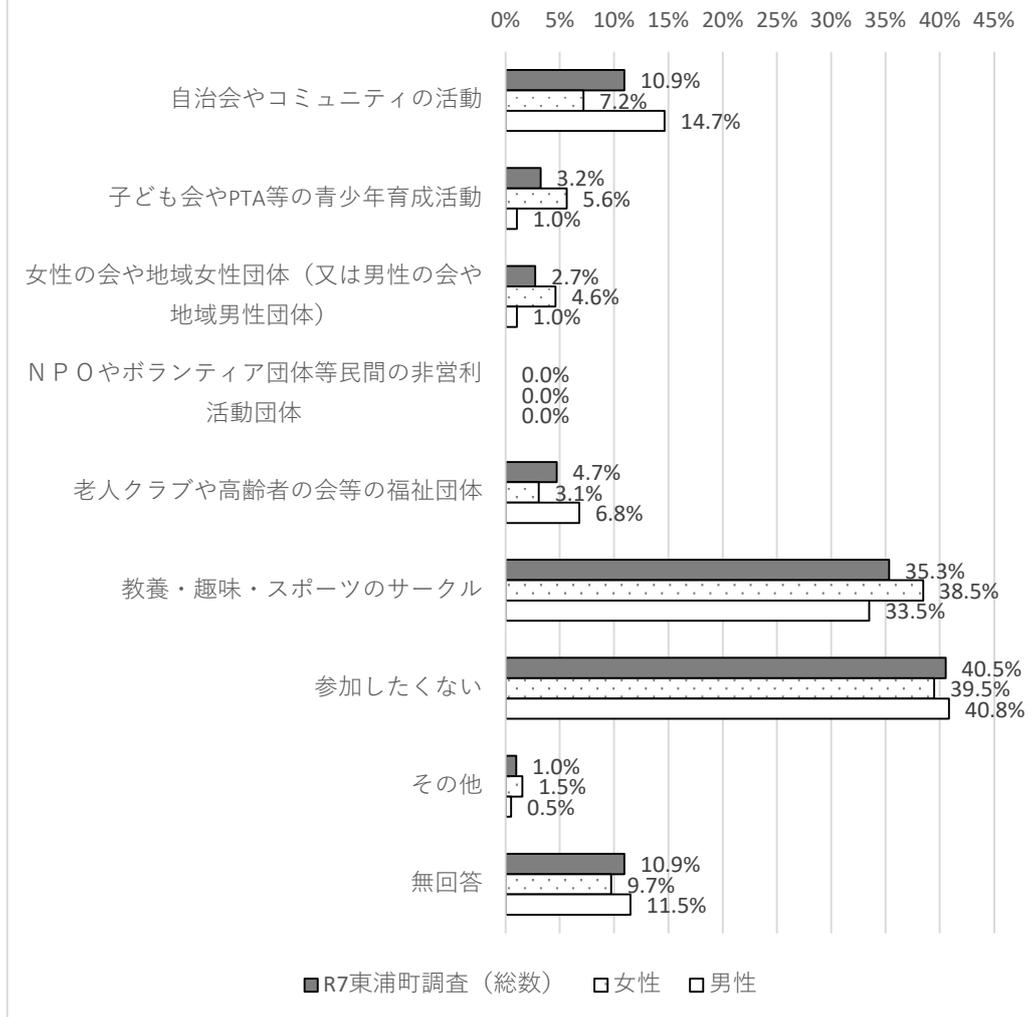
「その他」の記載内容

・以前は参加していたが、今はしていない。(女性・50代)

②今後

女性では「参加したくない」(39.5%)が最も高く、次いで「教養・趣味・スポーツのサークル」(38.5%)となっています。男性も同様に「参加したくない」(40.8%)が最も高く、次いで「教養・趣味・スポーツのサークル」(33.5%)となっています。男女の差が最も大きいのは「自治会やコミュニティの活動」で、女性が7.2%、男性が14.7%と7.5%の差があります。

問7② 今後

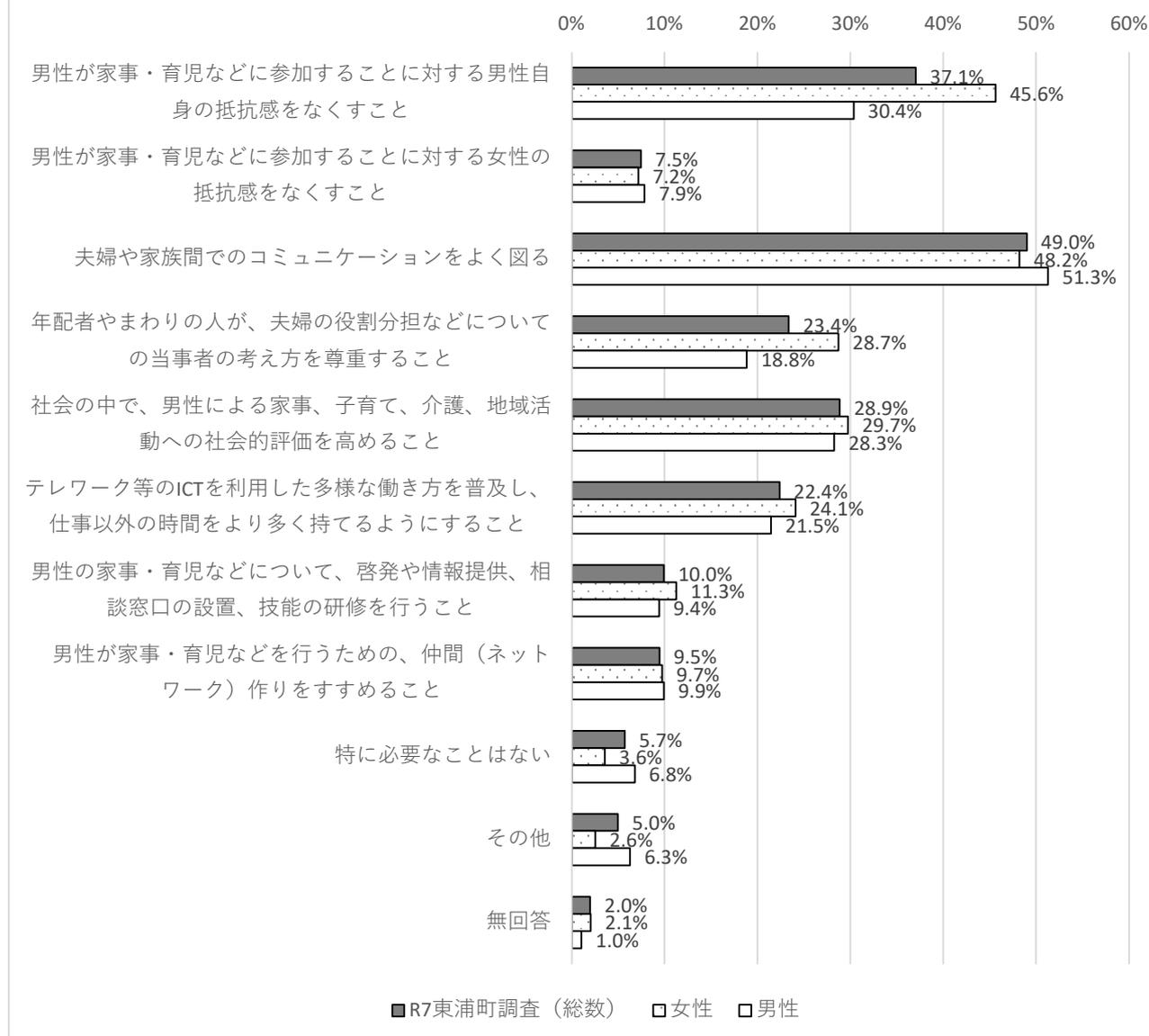


問8 あなたは、男性の家事、育児、介護、地域活動への参加をすすめるためには、どのようにしていけばよいと思いますか。(複数回答)

女性では「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る」(48.2%)が最も高く、次いで「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(45.6%)となっています。男性も同様に、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る」(51.3%)が最も高く、次いで「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(30.4%)となっています。

男女の差が最も大きいのは「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」で、女性では45.6%、男性で30.4%と、15.2%の差があります。

問8 男性の家事、育児、介護、地域活動への参加



「その他」の記載内容

- ・パートナーに怒られてやらなくなったり中途半端な仕事をしたりなどの、恐らく当人の勤務中には絶対にしないであろう舐めた態度を改めさせる。(男性・30代)
- ・男性の意識、認識を変える事が優先する気がします。(女性・60代)
- ・参加する必要はない(男性・40代)
- ・男性の労働時間を減らす(男性・30代)
- ・職場と家族間のコミュニケーション(男性・50代)
- ・企業に勤めていたら無理(男性・60代)
- ・それぞれだと思うから(答えたくない/どちらでもない・不明)
- ・サラリーの補償(男性・50代)

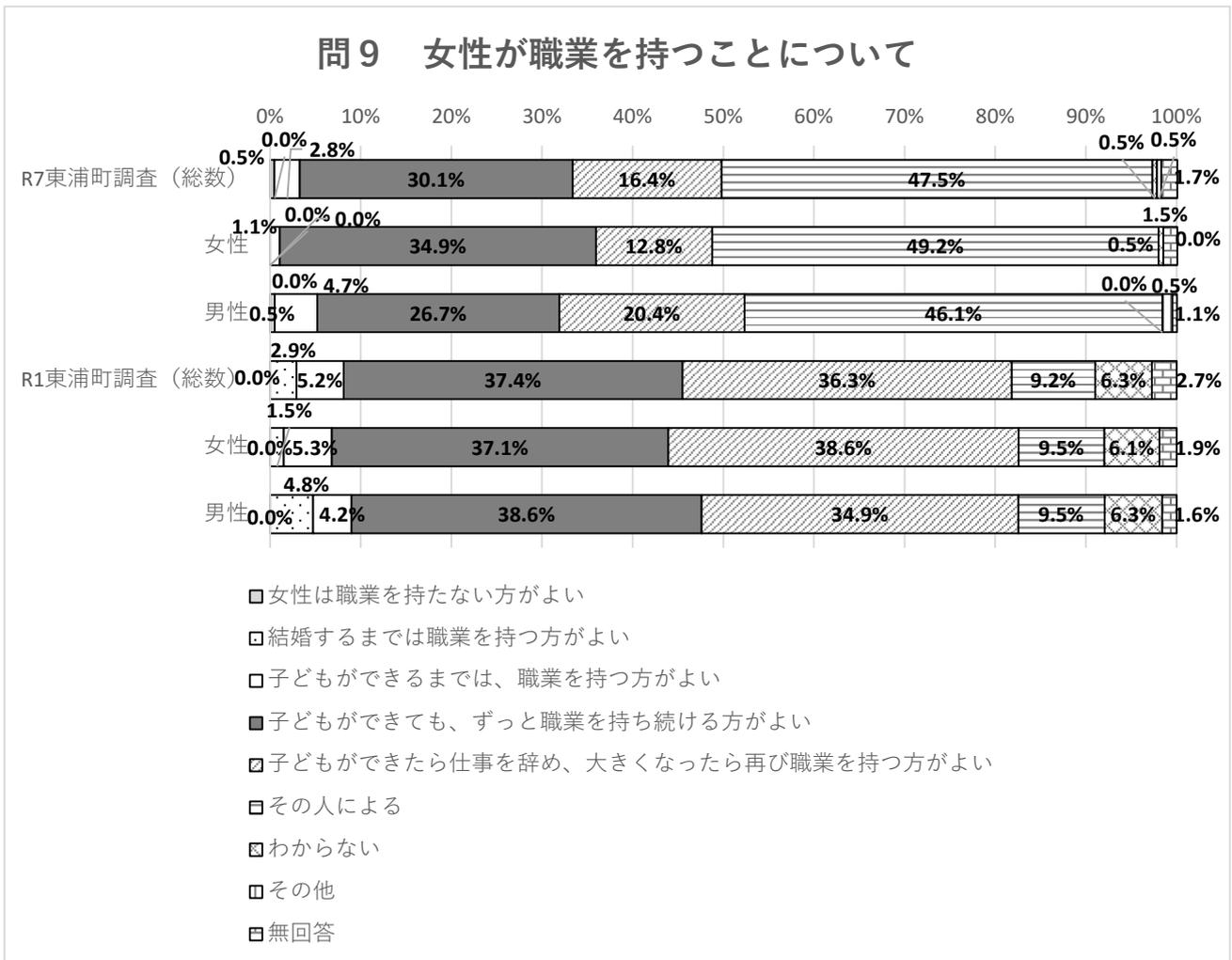
- ・生活費の保証（男性・50代）
- ・地位活動は無理都合よく休め無い（男性・30代）

(2) 仕事について

問9 一般に女性が職業を持つことについて、あなたはどのようにお考えですか。（単数回答）

「その人による」（47.5%）の割合が最も高く、次いで「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」（30.1%）となっています。前回調査と比較すると、「その人による」と回答した方が38.3%増加しています。

「子どもができるまでは、職業を持つ方がよい」と回答した人の割合は2.4%減少し、「結婚するまでは職業を持つ方がよい」と回答した人は男女ともに0%でした。



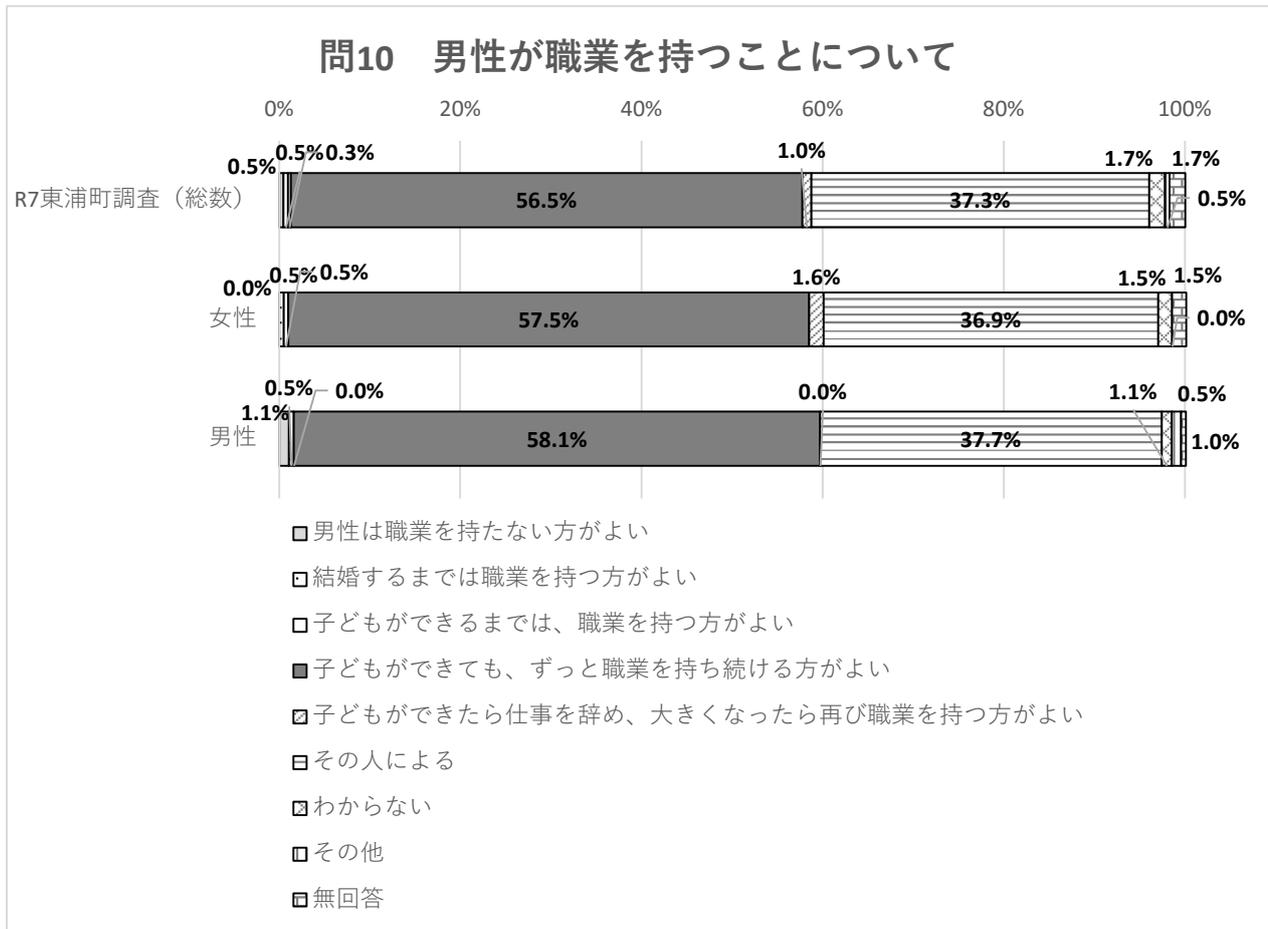
「その他」の記載内容

- ・生活出来れば必要ない（男性・70代以上）
- ・基本的には仕事を続けるには賛成だが働くのは本人なので（男性・50代）
- ・個人の意見を尊重すべき（女性・60代）

- ・収入が少ないから仕方がない（男性・60代）
- ・子供優先で夫婦で決める（男性・50代）

問10 一般に男性が職業を持つことについて、あなたはどうお考えですか。
（単数回答）

「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」（56.5%）の割合が最も高く、次いで「その人による」（37.3%）となっています。男女の回答差はほとんどありませんでした。問9の回答と比較すると、「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」と回答した割合について、26.4%の差がありました。



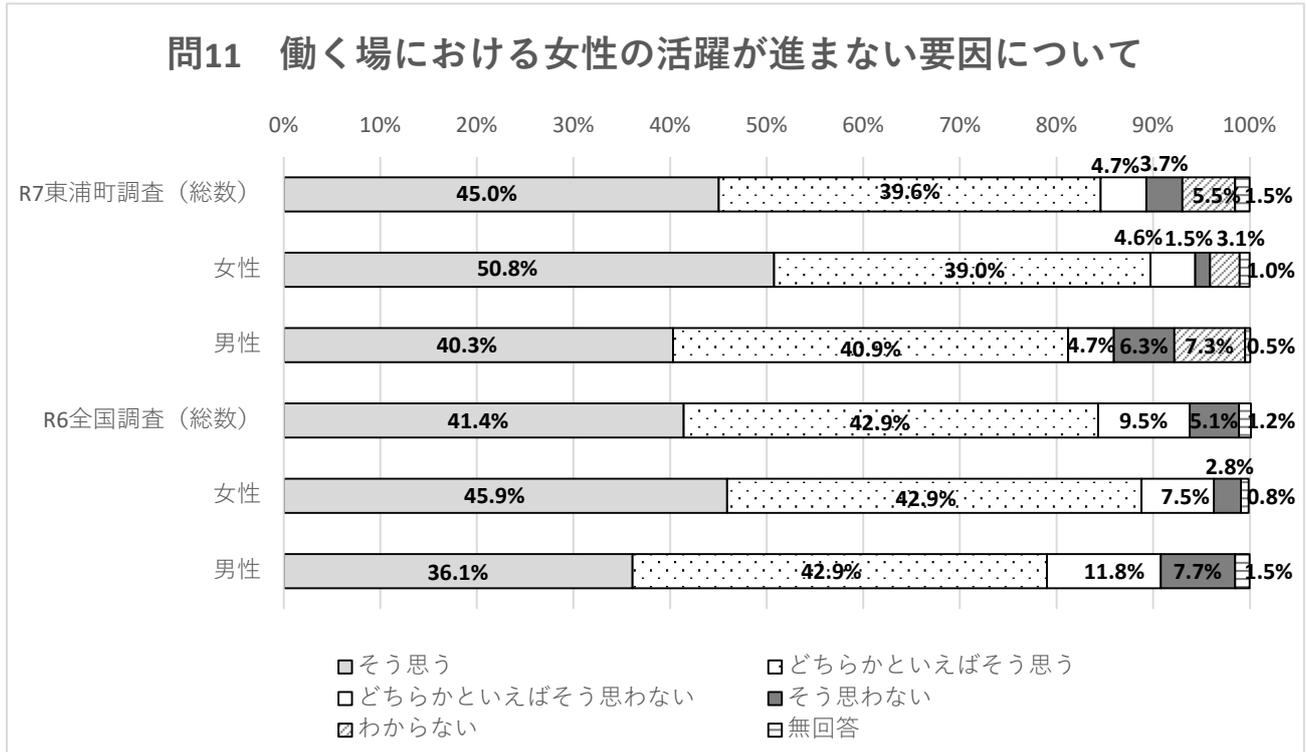
「その他」の記載内容

- ・現実、世間は男が働いて収入を得る考えだから（男性・50代）
- ・生活が成り立つなら性別を意識する必要はない（女性・60代）
- ・普通の男性は働かざるをえない（男性・60代）
- ・子供優先で夫婦で決める（男性・50代）

問 11 育児や介護、家事などに女性がより多くの時間を費やしていることが、働く場における女性の活躍が進まない要因の一つだという考え方がありますが、あなたはこの意見について、どう思いますか。(単数回答)

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた方が男女ともに 80%以上となっています。(女性 89.8%、男性 81.2%) 男女の差が最も大きいのは「そう思う」で、女性は 50.8%、男性は 40.3%で 10.5%の差があります。

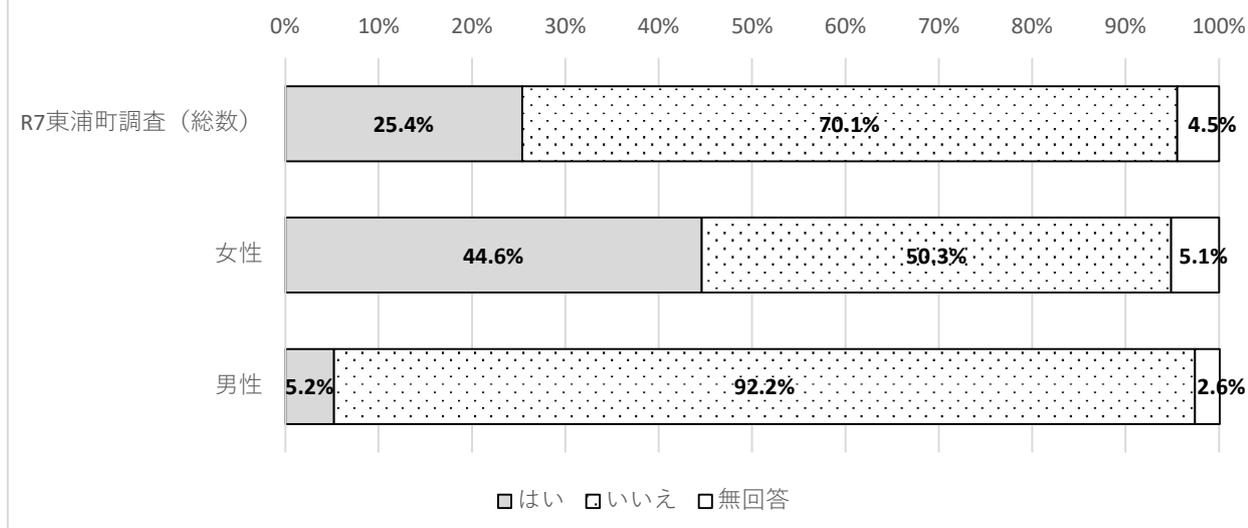
また、全国調査と比較すると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した方は同程度となっています。



問 12 あなたは、これまで（現在を含む）働き続けたいけれど、働くことができなかったことがありますか。(単数回答)

「はい」と答えた人の割合には大きく男女差が見られ、女性が男性の約 8.5 倍となっています。

問12 働くことができなかったこと



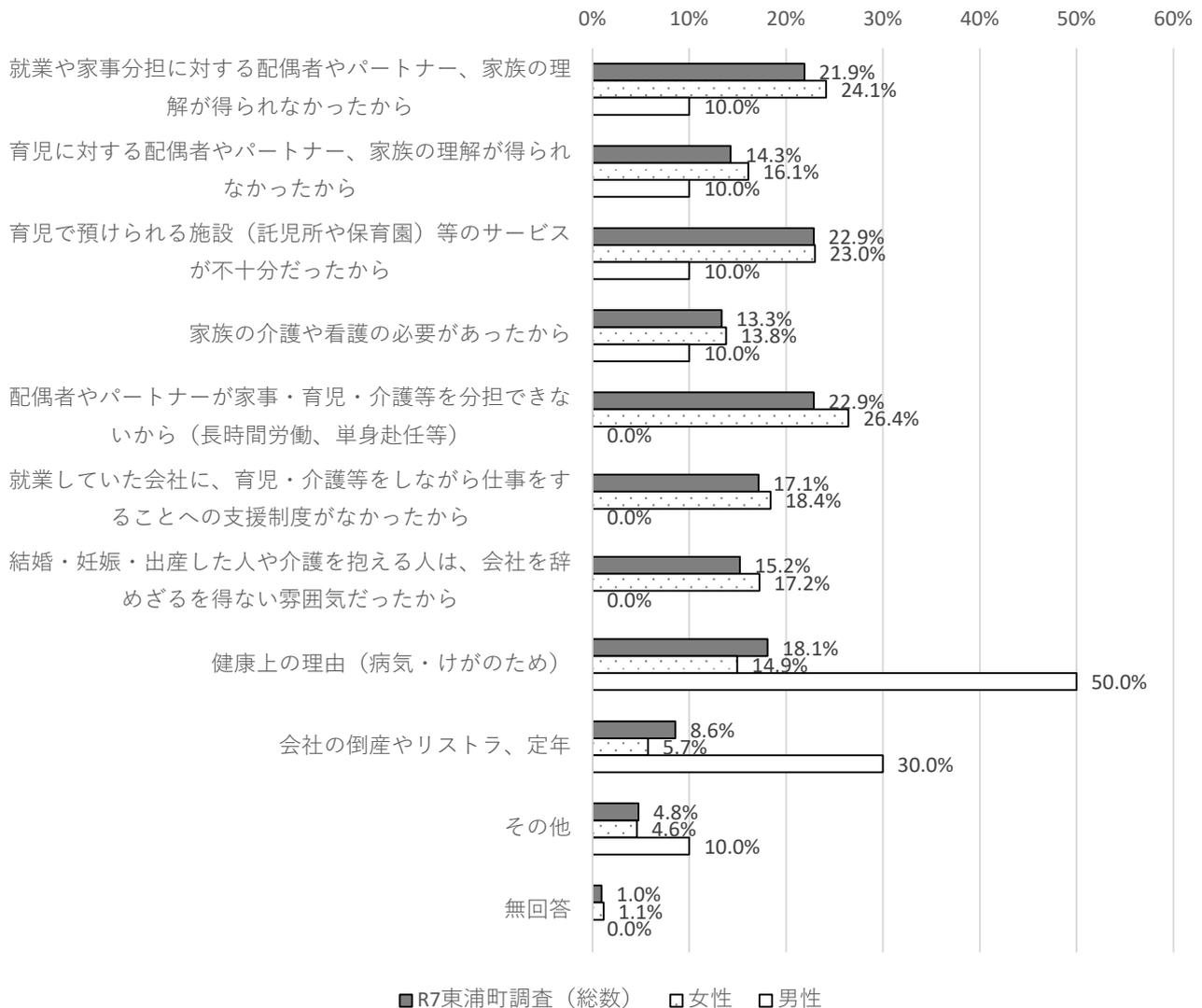
問13 問12で「はい」と回答した方にお聞きします。働き続けたいけれど、働くことができなかった理由は何ですか。（複数回答）

女性では「配偶者やパートナーが家事・育児・介護等を分担できないから（長時間労働、単身赴任等）」（26.4%）が最も多く、次いで「就業や家事分担に対する配偶者やパートナー、家族の理解が得られなかったから」（24.1%）となっています。

男性では「健康上の理由（病気・けがのため）」（50.0%）が最も多く、次いで「会社の倒産やリストラ、定年」（30.0%）となっています。

男女の差が最も大きいのが「健康上の理由（病気・けがのため）」で、男性が50.0%に対し女性が14.9%と、男性が女性の約3倍となっています。

問13 働くことができなかった理由



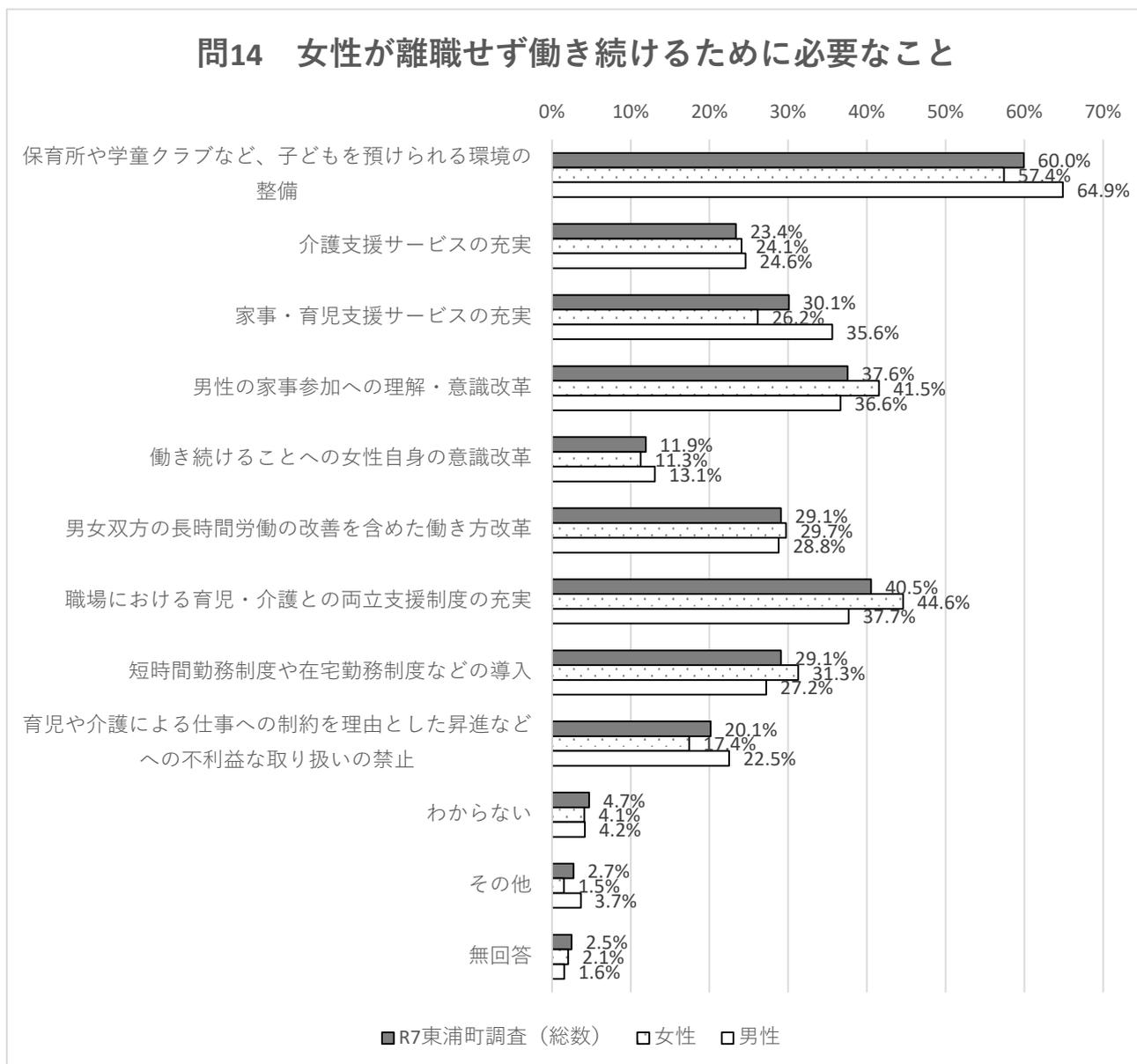
「その他」の記載内容

- ・引っ越し（女性・40代）
- ・研究留学から戻って定職につけなかった（男性・30代）
- ・家族の事情、職場の重圧（女性・50代）
- ・結婚で地域が変わり、これで良いと思って居た。（女性・60代）

問 14 働き続けたい女性が離職せず同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思いますか。（複数回答）

男女ともに、「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」と回答した人の割合が最も高くなっています。（女性57.4%、男性64.9%）2番目に高くなっている項目についても男女同様に「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」となっています。（女性44.6%、男性37.7%）

男女で最も回答割合の差が大きいのが「家事・育児支援サービスの充実」の項目で、女性が26.2%に対し男性が35.6%と、9.4%の差があります。



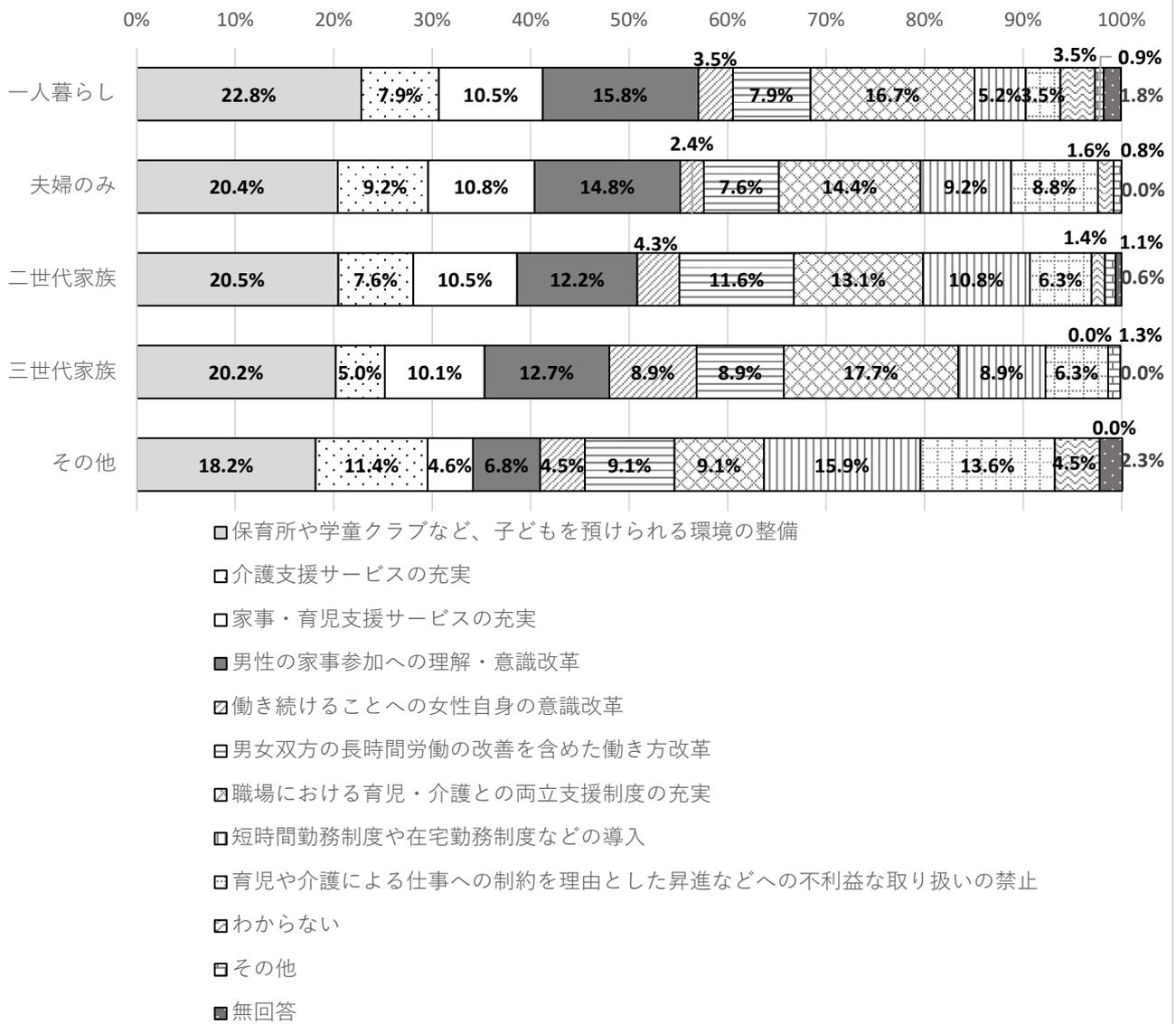
「その他」の記載内容

- ・男性が会社を休んでも、評価を下げない社会（男性・40代）
- ・家庭・社会・職場におけるコミュニケーション。一人一人の物事に対する柔軟性、寛容性が問われる。制度のせいにするのが問題。（女性・50代）
- ・そもそも男女平等、家庭、家族を推進している行政にうんざりしています。町中をみても家族割、子供割サービス沢山あるのに男女1人暮らしの人達は全く関係ありません。だから結婚も出来ない（答えたくない/どちらでもない・不明）
- ・全体的にまだ以前の男性優位が大小あれ根強よく残っていると感じます。男性の意識改革の取り組みがなされていないと思います。（女性・60代）
- ・お金の補償（男性・50代）

- ・産休の女性がいるが同僚の負担が大きすぎるのでココから解決しないとダメ（男性・60代）
- ・生活費の補填（男性・50代）
- ・両親の応援（男性・40代）
- ・仕事を続けられる環境を一緒に作れる人と結婚する（親と同居できる人や主夫になってくれる人等）など計画的に人生を決めることを学ぶ場や、出会いの場があるといいと思う（女性・30代）
- ・育休中でも男性の3倍以上の年収を確約させるか、社会保障等で補償すれば男性が働かなくても良くなるので、家事参加出来る。もしくはベーシックインカムで男も働かなくても良くなるようにし、参加で補償を加算するシステムにする。する（男性・30代）

世帯構成別に見ると、いずれの世帯構成でも「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が最も高くなっています。「男性の家事参加への理解・意識改革」の項目は「一人暮らし」で最も高く、「一人暮らし」「夫婦のみ」「三世帯家族」「二世帯家族」の順に割合が高くなっています。

問14 女性が離職せず働き続けるために必要なこと (世帯構成別)



回答者の居住地区別に見ると、どの地区においても「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が最も高くなっています。「男性の家事参加への理解・意識改革」は藤江地区での割合が最も高く（18.1%）、最も低い緒川新田地区（9.2%）の約2倍となっています。「働き続けることへの女性自身の意識改革」は森岡地区で最も高く（6.2%）、最も低い生路地区（1.6%）の約3.8倍となっています。

問14 女性が離職せず働き続けるために必要なこと (地区別)



- 保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備
- 介護支援サービスの充実
- 家事・育児支援サービスの充実
- 男性の家事参加への理解・意識改革
- 働き続けることへの女性自身の意識改革
- 男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革
- 職場における育児・介護との両立支援制度の充実
- 短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入
- 育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取り扱いの禁止
- わからない
- その他
- 無回答

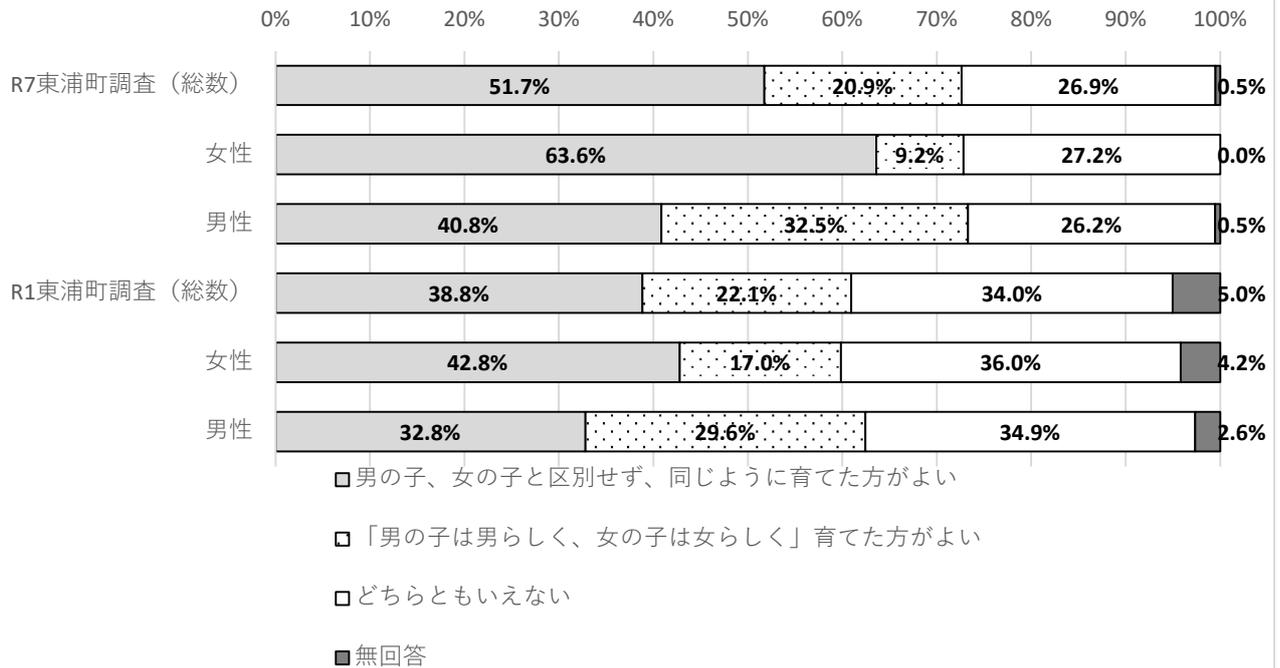
(3) 子どもの教育について

問15 あなたは「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という育て方についてどう思いますか。(単数回答)

総数では「男の子、女の子と区別せず、同じように育てた方がよい」(51.7%)が最も高くなっています。前回調査と比較すると、「男の子、女の子と区別せず、同じように育てた方がよい」と回答した方は12.9%増加しています。

男女別に見ると、女性の方が「男の子、女の子と区別せず、同じように育てた方がよい」と回答する割合が高く(女性63.6%、男性40.8%)、22.8%の差があります。

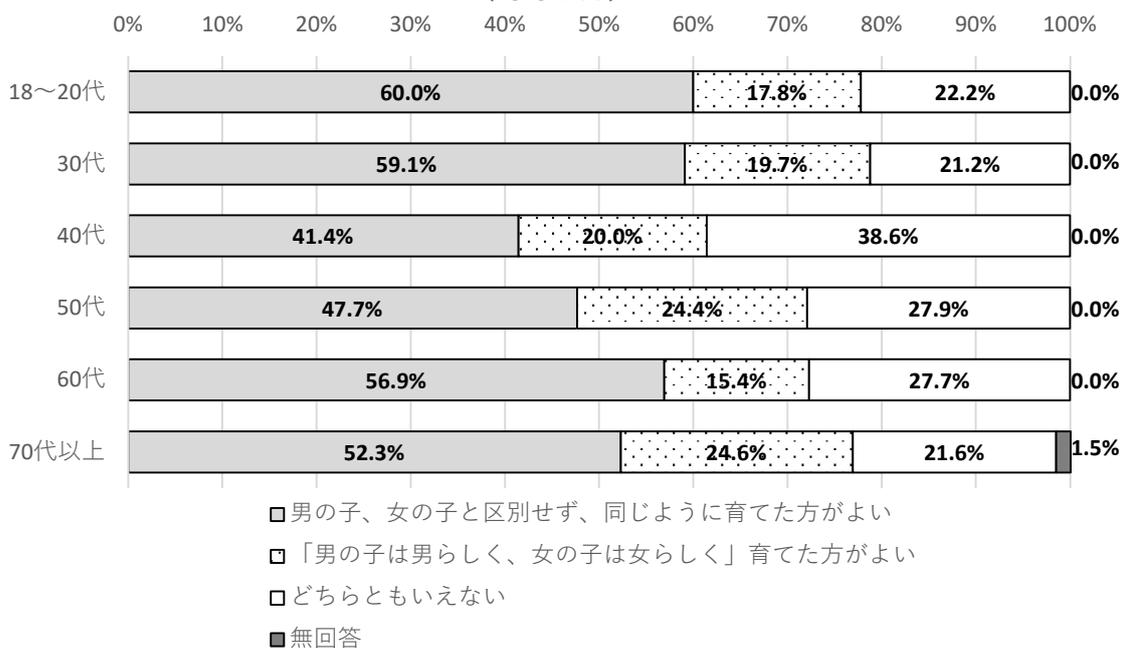
問15 「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という育て方



年代別に見ると、「男の子、女の子と区別せず、同じように育てた方がよい」と回答した割合は18～20代で最も高く（60.0%）、最も低い40代（41.4%）と比較して18.6%の差があります。

『「男の子は男らしく、女の子は女らしく」育てた方がよい』と回答した割合は70代以上で最も高く（24.6%）、最も低い60代（15.4%）と比較して9.2%の差があります。

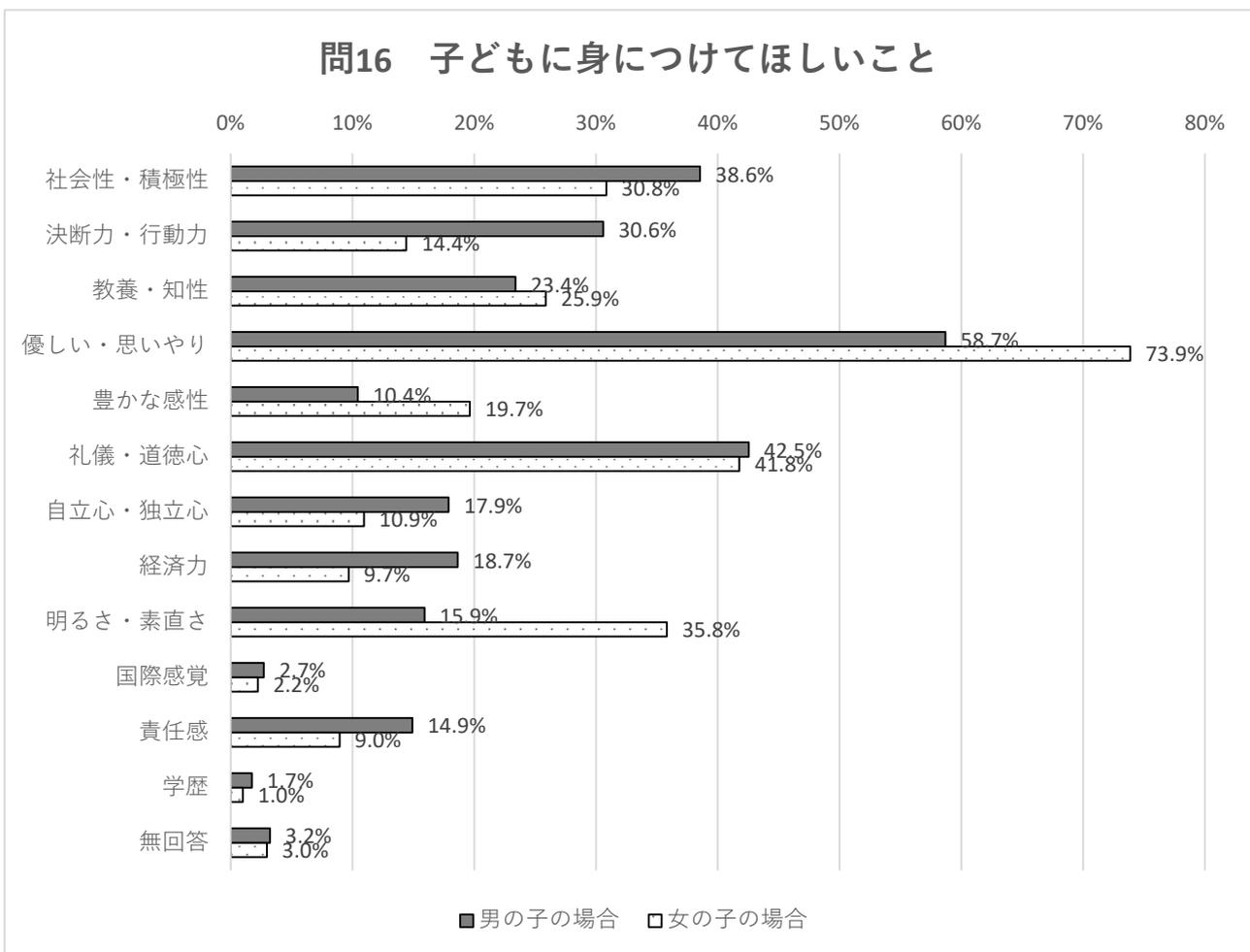
問15 「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という育て方 (年代別)



問 16 あなたは、子どもに対し、どのようなことを身に付けてほしいと思いますか。

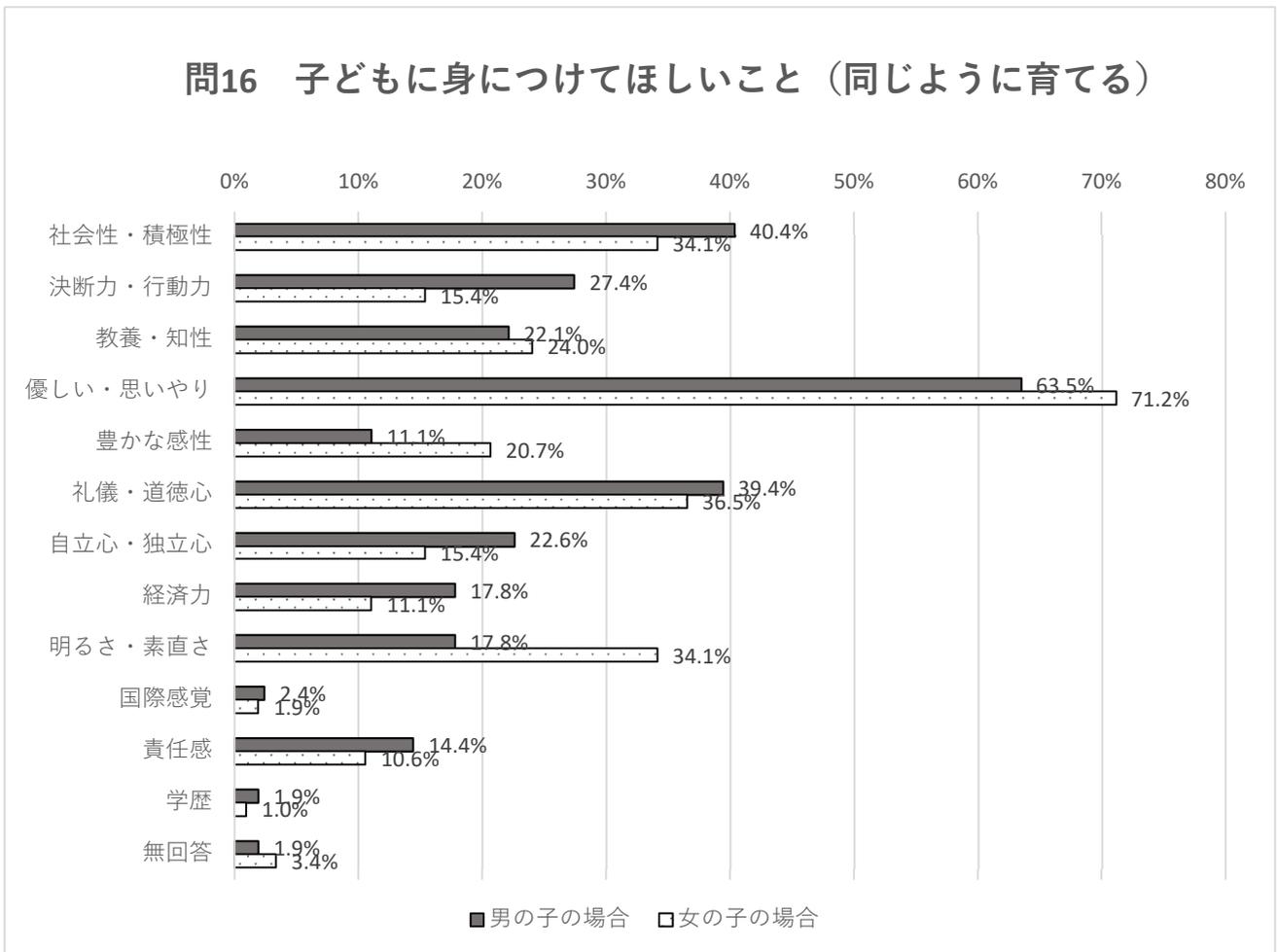
子どもに身に付けてほしいことは、「男の子の場合」、「女の子の場合」とともに「優しい・思いやり」と回答した人の割合が最も高くなっていますが、「男の子の場合」(58.7%)と「女の子の場合」(73.9%)では15.2%の差があります。また、男女ともに次いで高いのは「礼儀・道徳心」ですが、こちらは「男の子の場合」(42.5%)、「女の子の場合」(41.8%)の差は0.7%と、それほど大きくありません。三番目に高いのは、「男の子の場合」は「社会性・積極性」(38.6%)、「女の子の場合」は「明るさ・素直さ」(35.8%)となっています。

「男の子の場合」と「女の子の場合」の差が大きい(10%以上)項目は、差が大きい順に「明るさ・素直さ」(「男の子の場合」15.9%、「女の子の場合」35.8%、差19.9%)、「決断力・行動力」(「男の子の場合」30.6%、「女の子の場合」14.4%、差16.2%)、「優しい・思いやり」(「男の子の場合」58.7%、「女の子の場合」73.9%、差15.2%)となっています。



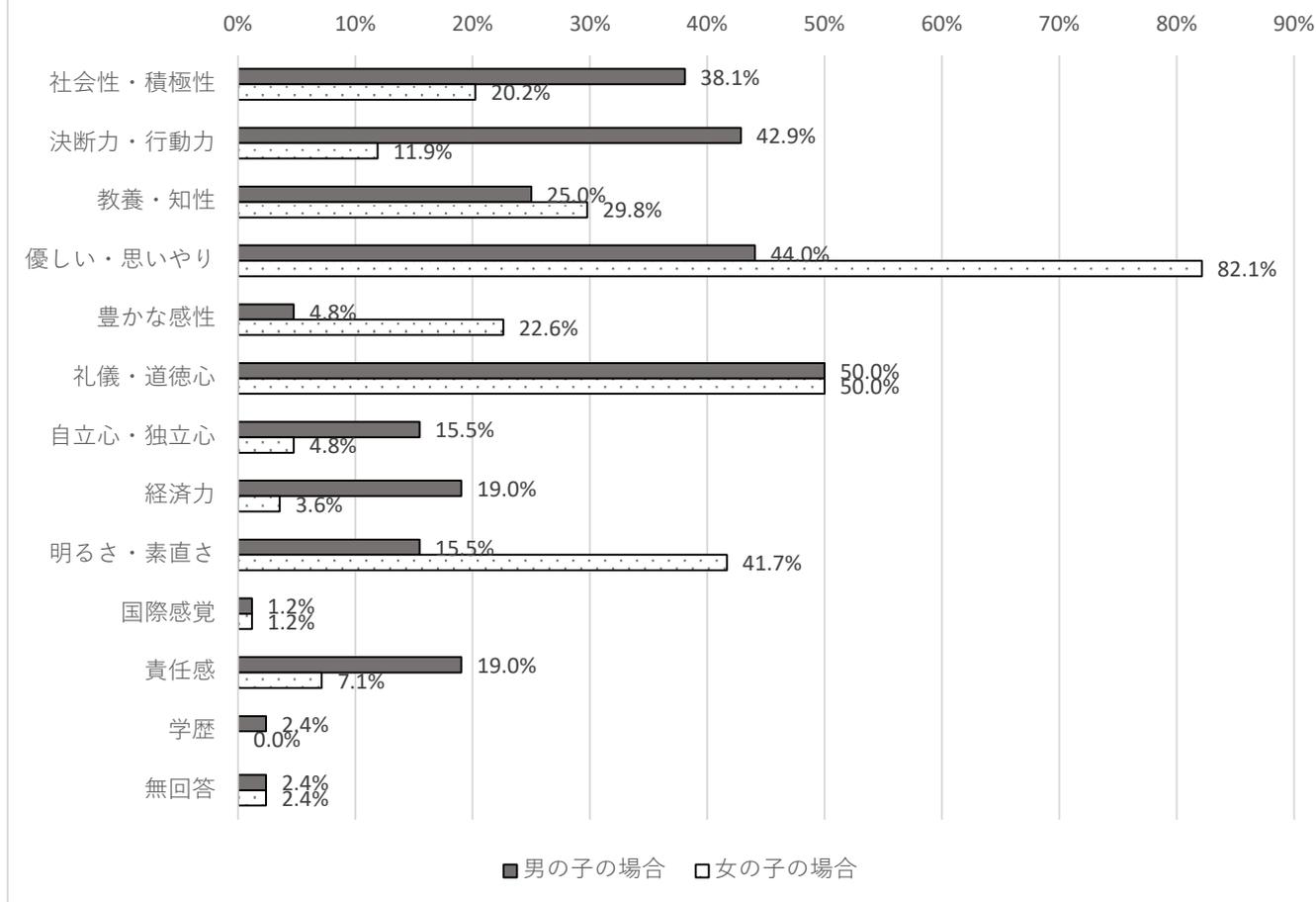
問 15 「あなたは『男の子は男らしく、女の子は女らしく』という育て方についてどう思いますか」にて「男の子、女の子と区別せず、同じように育てた方がよい」と回答した人と「『男の子は男らしく、女の子は女らしく』育てた方がよい」と回答した人に分けてみると、「同じように育てた方がよい」と回答した人でも、「男の子の場合」、「女の子の場合」とともに「優しい・思いやり」が最も高くなっていますが、「男の子の場合」(63.5%)と「女の子の場合」(71.2%)を比較すると7.7%の差があります。

また、「明るさ・素直さ」についても、男の子の場合（17.8%）と女の子の場合（34.1%）を比較すると16.3%の差があります。



問15「あなたは『男の子は男らしく、女の子は女らしく』という育て方についてどう思いますか」にて『男の子は男らしく、女の子は女らしく』育てた方がよい」と回答した人では、「男の子の場合」は「礼儀・道徳心」（50%）、「女の子の場合」は「優しい・思いやり」（82.1%）と回答した方の割合が最も多くなっています。「礼儀・道徳心」の項目では「男の子の場合」と「女の子の場合」で割合に差はありませんが、「優しい・思いやり」の項目では「男の子の場合」（44.0%）と「女の子の場合」（82.1%）では38.1%の差が見られます。同様に、「決断力・行動力」、「明るさ・素直さ」の項目において、「男の子の場合」と「女の子の場合」の回答に20%以上の差が見られます。

問16 子どもに身につけてほしいこと（男らしく、女らしく）



(4) DV（家庭内暴力）について

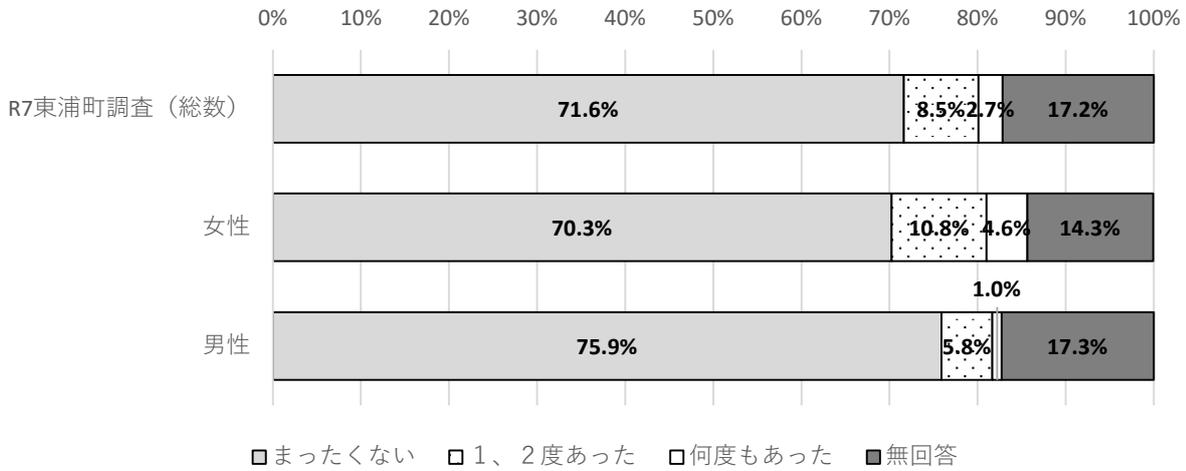
問17 これまで結婚したことのある方（婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦も含む。）や交際相手がいる（いた）方にお聞きします。

あなたは、これまで配偶者や交際相手から次のようなことをされたことがありますか。（単数回答）

①身体的暴力（例えば、なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行）

「身体的暴力」は「1、2度あった」「何度もあった」を合わせた割合（11.2%）が「心理的攻撃」の次に高くなっています。男女別にみると、「1、2度あった」「何度もあった」と回答した人は女性の方が男性より8.6%高くなっています。（女性15.4%、男性6.8%）

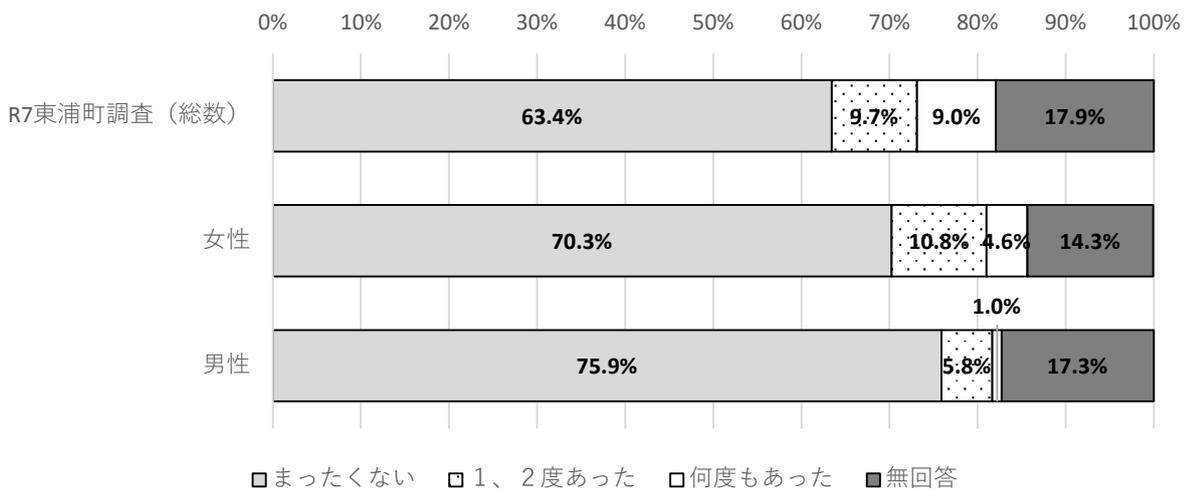
問17① 身体的暴力



②心理的攻撃（例えば、人格を否定するような暴言、交友関係や行先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの心理的嫌がらせ、あるいは自分もしくは自分の家族が危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫）

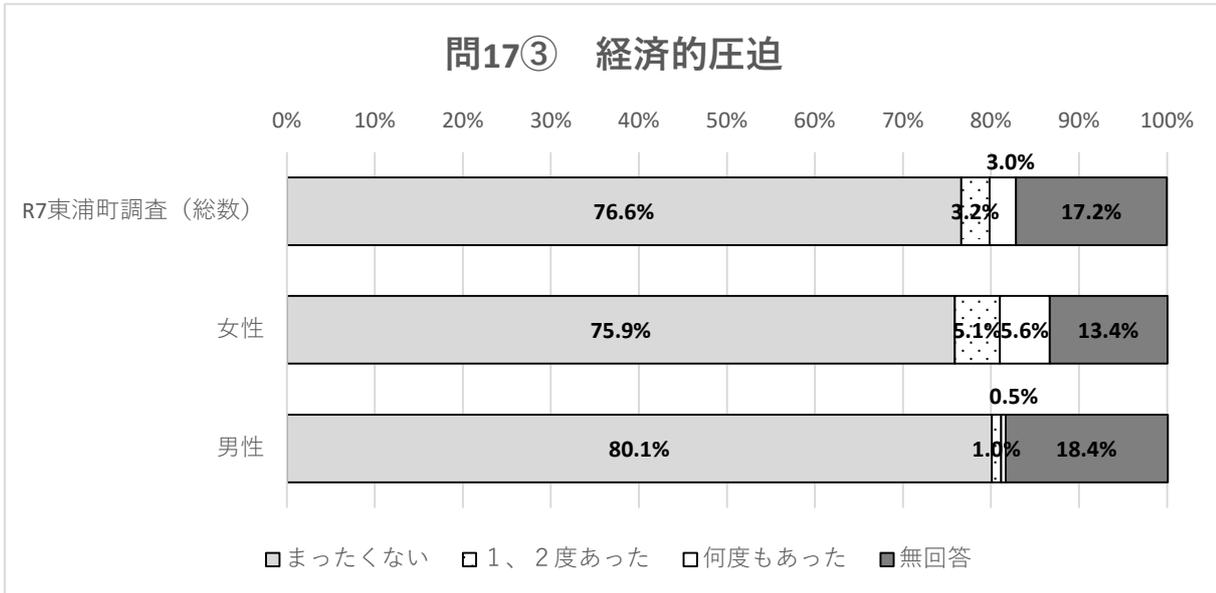
「心理的攻撃」は「1、2度あった」「何度もあった」を合わせた割合（18.7%）が最も高くなっており、特に「何度もあった」と回答した人の割合は問17の4項目の中でもっとも高くなっています。男女別に見ると、「1、2度あった」「何度もあった」と回答した方の割合は男性より女性のほうが高くなっています。

問17② 心理的攻撃



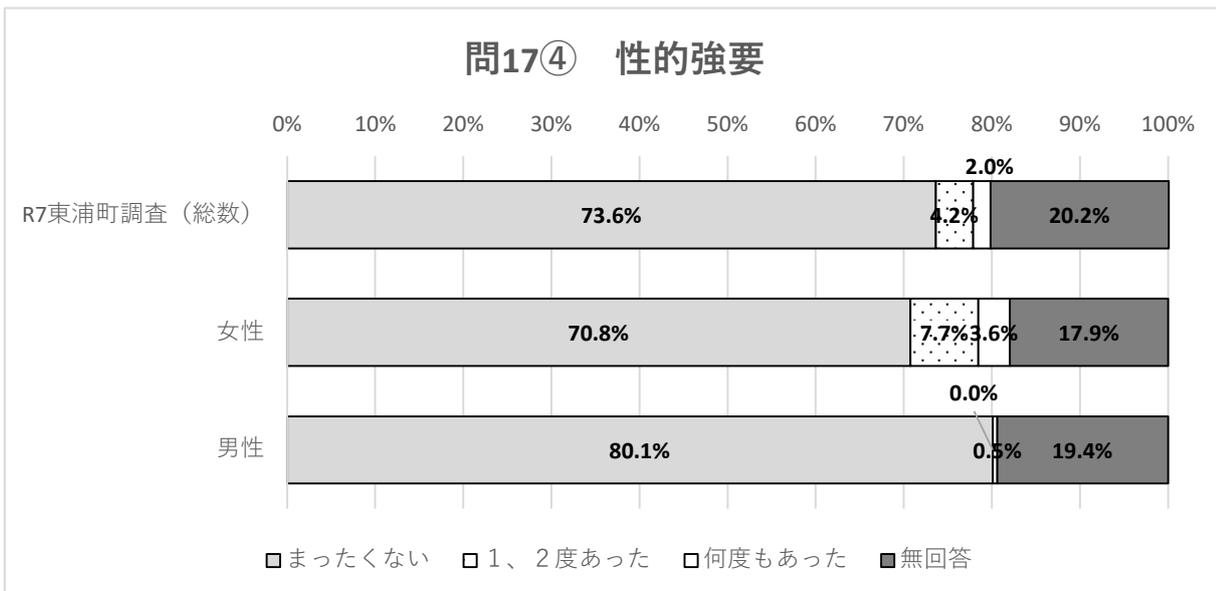
③経済的圧迫（例えば、生活費を渡さない、給料や貯金を勝手に使われる、外で働くことを妨害されるなど）

「経済的圧迫」は問17の4項目の中では「1、2度あった」「何度もあった」と回答した人の割合は「性的強要」と並んで最も低くなっています。男女別にみると、「1、2度あった」「何度もあった」のどちらの回答も女性の方が割合が高くなっています。



④性的強要（例えば、嫌がっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ映像等を見せられる、避妊に協力しないなど）

「性的強要」は、「1、2度あった」「何度もあった」と回答した人の割合が「経済的圧迫」と並んで最も低くなっています。男女別に見ると、女性は11.3%、男性は0.5%で10.8%の差があります。

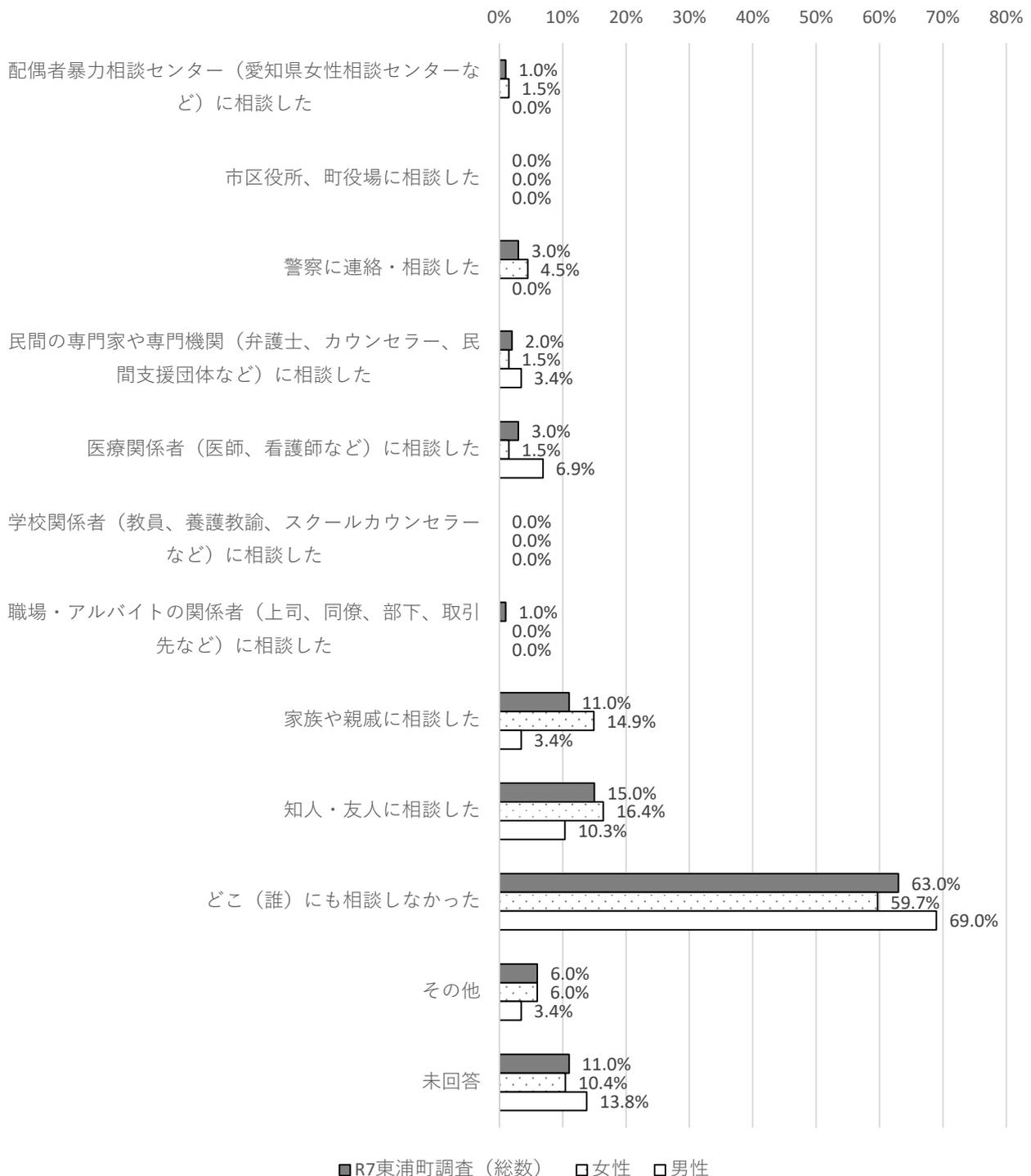


問 18 問 17で「1, 2度あった」「何度もあった」と回答した方にお聞きします。あなたは、配偶者や交際相手から受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(複数回答)

男女ともに、「どこ(誰)にも相談しなかった」と回答した人が最も多くなっていますが、男性の割合が69.0%、女性の割合が59.7%と、9.3%の差があります。

相談した先で最も多いのは女性の場合は「知人・友人」(16.4%)、次いで「家族や親戚」(14.9%)となっており、男性の場合は「知人・友人」(10.3%)が最も多くなっており、次いで「医療関係者(医師、看護師など)に相談した」(6.9%)となっています。

問18 相談した先

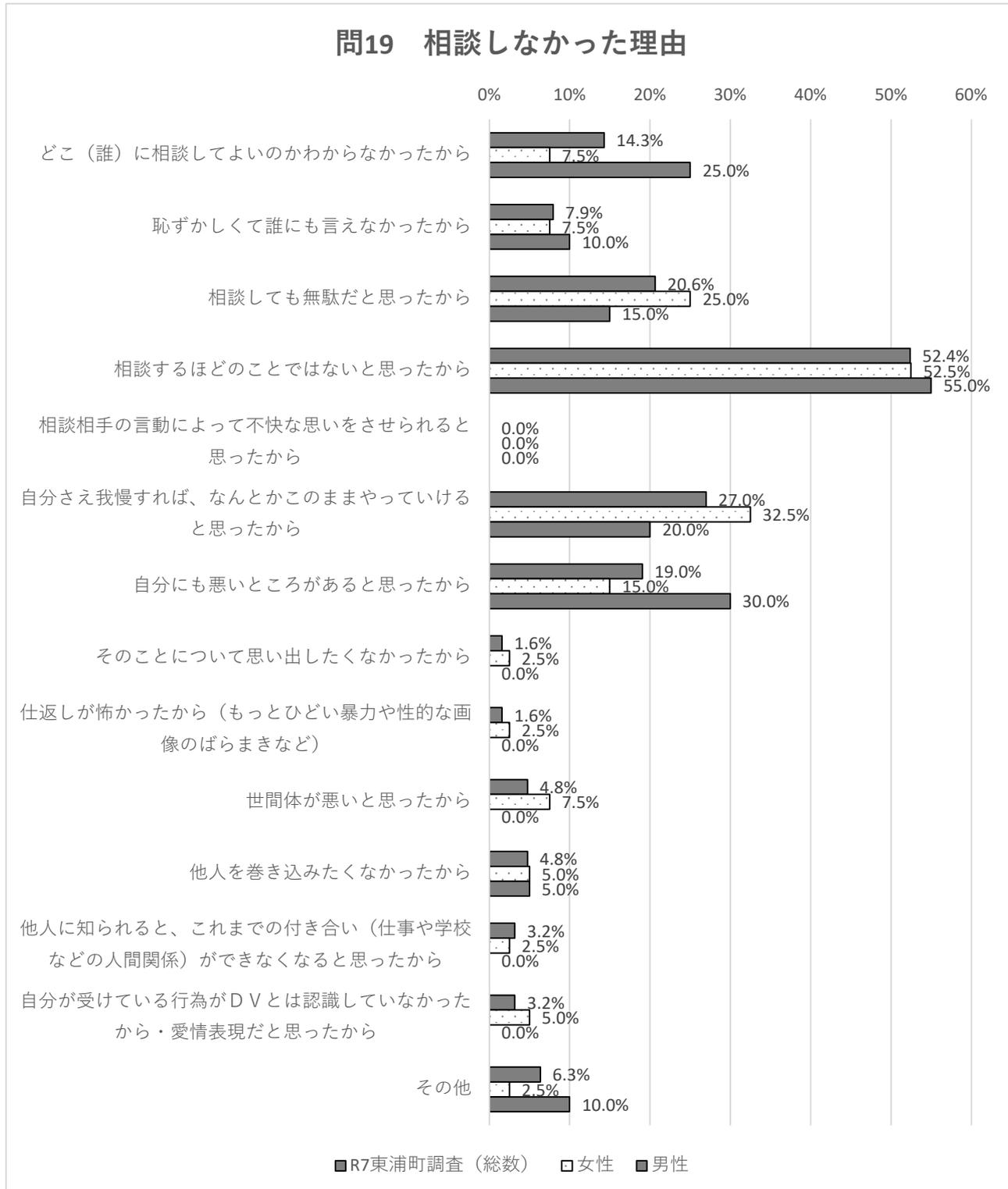


「その他」の記載内容

- ・ 反対にしかえしをした。（女性・70代）
- ・ 私は男の為妻から受けた事は無いですが座布団を投げ付けた事は有ります（男性・70代）
- ・ 相談というより友だちに愚痴を聞いてもらった。（女性・50代）

問19 問18で「どこ（誰）にも相談しなかった」と回答した方にお聞きします。相談しなかったのはなぜですか。（複数回答）

相談しなかった理由としては、男女ともに「相談するほどのことではないと思ったから」（女性52.5%、男性55.0%）が最も多くなっています。女性では「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」（32.5%）が、男性では「自分にも悪いところがあると思ったから」（30.0%）が次に多くなっています。



「その他」の記載内容

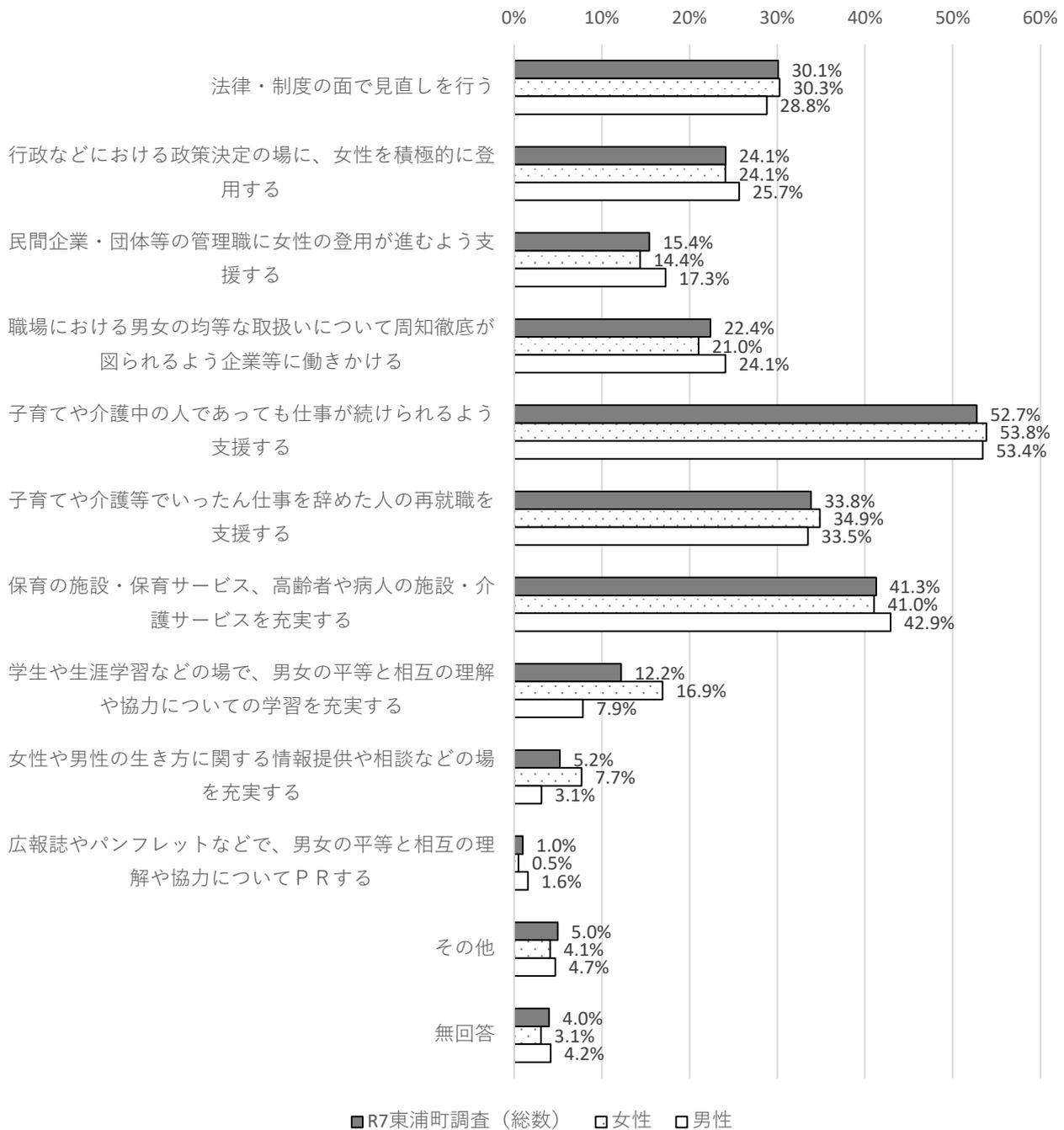
- ・なんとなく（男性・40代）
- ・めんどくさい（男性・40代）
- ・自分で解決（離婚）出来たから（女性・60代）

（5）男女共同参画について

問 20 男女共同参画社会を実現するために、行政は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（複数回答）

行政が今後力を入れていくべきこととして、最も割合が高いのは男女ともに「子育てや介護中の人であっても仕事が続けられるよう支援する」（女性 53.8%、男性 53.4%）となっています。2番目に高い回答も、男女ともに「保育の施設・保育サービス、高齢者や病人の施設・介護サービスを充実する」（女性 41.0%、男性 42.9%）となっています。

問20 行政が今後力を入れていくべきこと



「その他」の記載内容

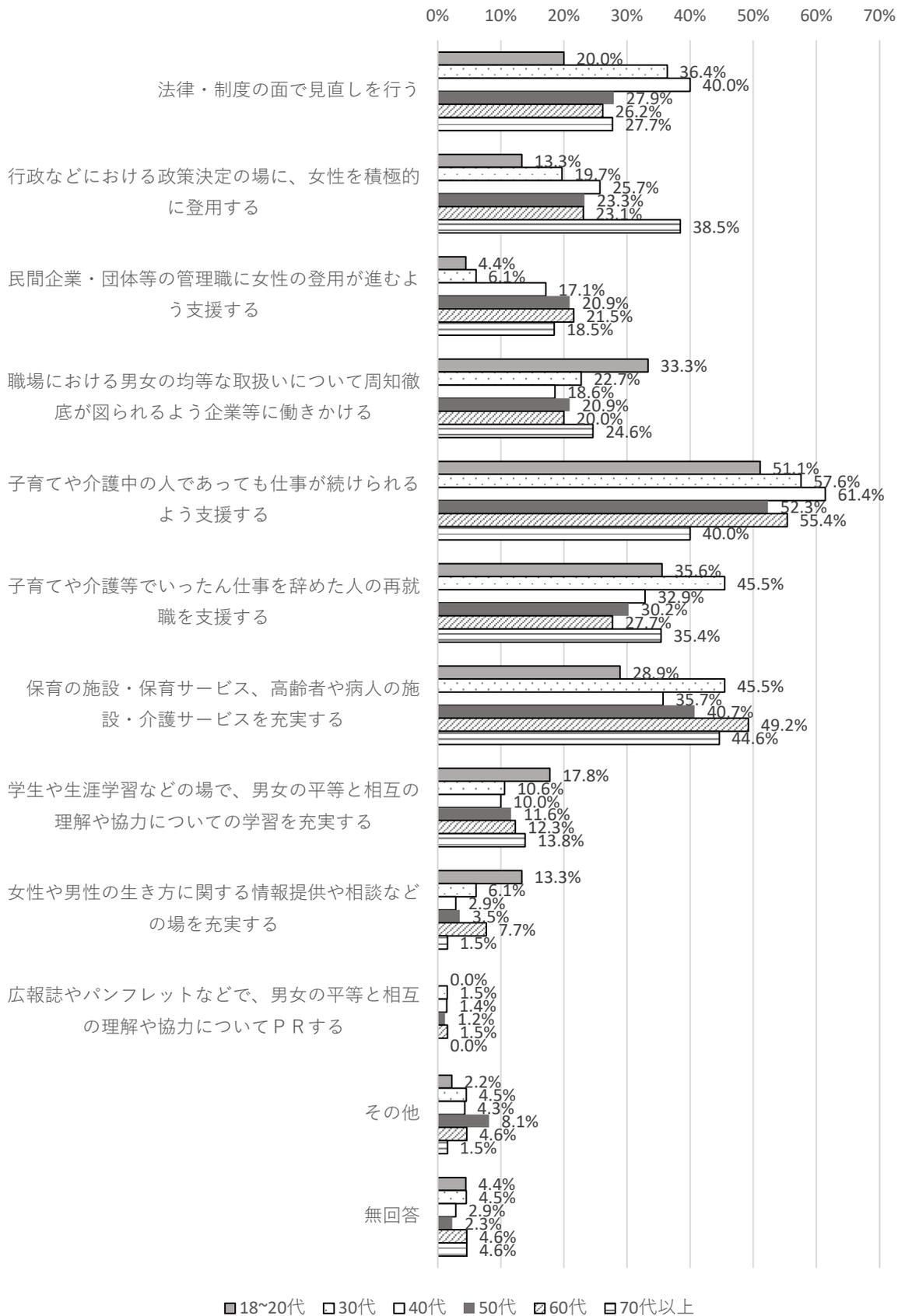
- ・必要性に応じて、納得して進め、理解を求める（男性・70代以上）
- ・配偶者の意識改革（女性・60代）
- ・そもそもなんでもかんでも男女平等にこだわるのは無理があります。（答えたくない/どちらでもない・不明）
- ・正しい意識改革をする事が、結局早道になると思う（女性・60代）

- ・税金を減らす（男性・40代）
- ・職種の収入差別をなくして欲しい。保育士、栄養士は給料が低く、工場系は基本的に高く、なぜ？と思う。（女性・50代）
- ・性差に得意不得意あるのだからそれを伸ばせば良い（答えたくない/どちらでもない・30代）
- ・男性も育児休暇を必須で取得するよう働きかける（女性・50代）
- ・世代によってすごい年金の不公平を20年前に戻す（男性・60代）
- ・女性を使えば評価が上がること自体が問題だと思うから。（答えたくない/どちらでもない・不明）
- ・保育や介護の現場で働いている人の給料を上げる（女性・40代）
- ・女性自身の 依存的感覚の排除するように社会全体の仕組みを変えていく もちろん賃金 社会的立場を平等にした上ででの事（女性・60代）
- ・法律を整備したり、それに伴う予算を組んでお金をかける必要はない。才能や能力のある方を男女問わず雇用すれば良いだけ（男性・50代）
- ・教育認定時である3歳児が保育園に入れない状況をさっさと解消してほしい。（男性・30代）
- ・本人のやる気と家族のサポート次第だから（女性・50代）
- ・男女平等の給料（女性・40代）
- ・金銭的補償をして働いても働かなくても良い心に余裕のある状況を作り出す（男性・50代）
- ・適切な労働環境 安定した収入 男女ともに働く・働かないが選択できる社会（男性・30代）

年代別に見ると、18～20代、30代、40代、50代、60代では「子育てや介護中の人であっても仕事が続けられるよう支援する」が最も高くなっており（18～20代で51.1%、30代で57.6%、40代で61.4%、50代で52.3%、60代で55.4%）、70代以上では「保育の施設・保育サービス、高齢者や病人の施設・介護サービスを充実する」（44.6%）が最も高くなっています。2番目に高い項目は18～20代では「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」（35.6%）、30代、50代、60代では「保育の施設・保育サービス、高齢者や病人の施設・介護サービスを充実する」（30代で45.5%、50代で40.7%、60代で49.2%）となっています。また、40代では「法律・制度の面で見直しを行う」（40.0%）、70代以上では「子育てや介護中の人であっても仕事が続けられるよう支援する」（40.0%）の項目が次いで多くなっています。

世代間の差が最も大きいのは「行政などにおける政策決定の場に、女性を積極的に登用する」で、最も高い70代以上は38.5%であるのに対し、最も低い18～20代は13.3%と、25.2%の差があります。

問27 行政が今後力を入れていくべきこと（年代別）



問21 あなたは、次の言葉を知っていますか。(単数回答)

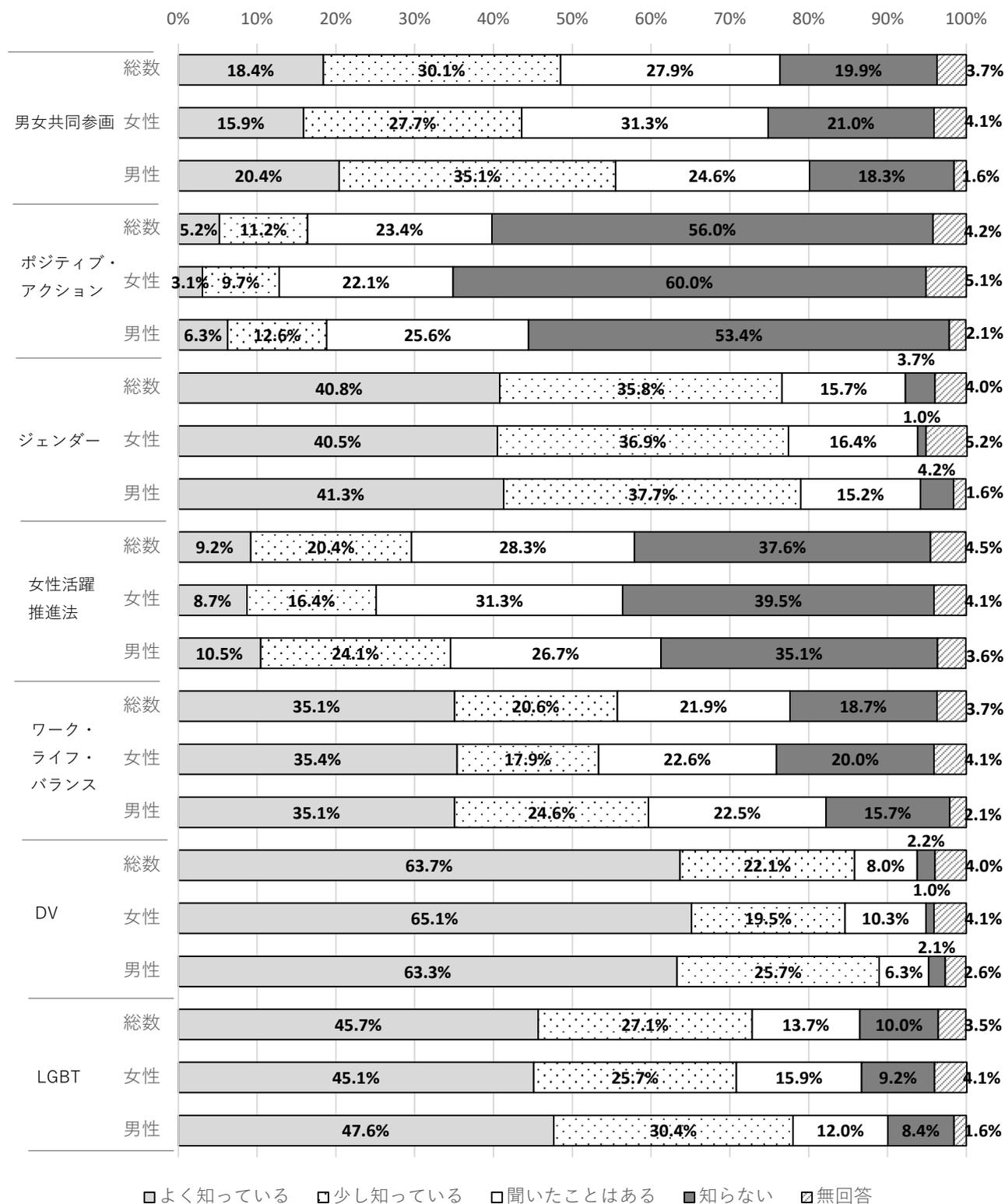
男女共同参画に関する用語のうち、もっとも認知度が高いのは「DV」で、「よく知っている」が63.7%、「少し知っている」が22.1%と、85.8%の人が「知っている」と回答しました。

最も認知度が低いのは「ポジティブ・アクション」で、「よく知っている」(5.2%)、「少し知っている」(11.2%)と、「知っている」と回答した人は16.4%でした。

「LGBT」については、「よく知っている」(45.7%)、「少し知っている」(27.1%)を合わせた「知っている」と回答した人の割合が72.8%となっており、「DV」に次いで「知っている」とした人の割合が2番目に高くなっています。

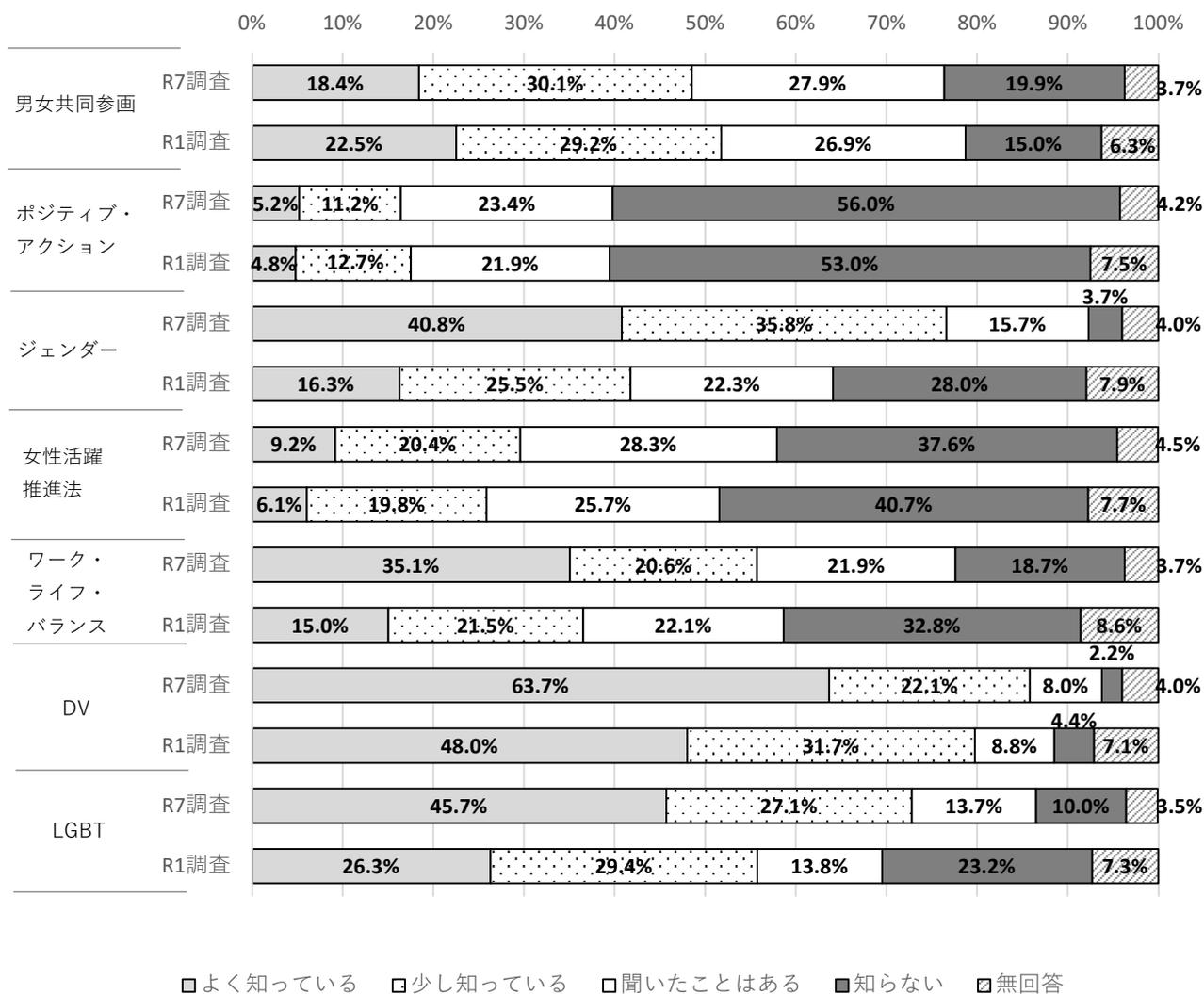
男女別にみると、用語の認知度にもっとも差があるのが「男女共同参画」で、女性では「よく知っている」「少し知っている」を合わせた割合が43.6%、男性では55.5%と11.9%の差があります。

問21 男女共同参画の用語の認知度



前回の調査と比較すると、男女共同参画に関する用語の認知度は全体に向上しています。「よく知っている」「少し知っている」と回答した人の合計は、「ジェンダー」の項目では34.8%、「ワーク・ライフ・バランス」の項目では19.2%、「LGBT」の項目では17.1%増加しています。

問21 男女共同参画の用語の認知度（前回との比較）



自由記載欄回答

番号	性別	年齢	回答
1	男性	70代以上	男は仕事中心 女は家事、介護が女性らしい仕事と思う。すぐれた才能（医者、学者等）ある方は生かしてほしい。女は仕事に就かなくて生活できる世間に国に改善進めてほしい。共稼ぎしなくて生活出来る国めざして下さい。
2	女性	70代以上	男女平等と言えど、やはり女性の方が家事・育児のほとんどを担っていると思います。だから女性のパート勤めが多いのだと思います。
3	女性	70代以上	60才で定年して勤めていた職場での男女差別はなかったですし今生活している所でも自治会での活動など男女平等です。女性の意見も取り入れてもらえるし特にありません。
4	女性	70代以上	地域のコミュニテイ活動について、スクールガードに参加して、20年になります。（小学校）始めは、「入ってくれないかと言われて」参加しました。子供たちの完気な顔と声を聞いていると私の心もおだやかになります。子供たちの安全と健康に、すこやかにと思う毎日です。男女の区別なく、やれることが、続けられる意義だと思っています。
5	男性	70代以上	男女といわず人は平等が基本（福沢諭吉）
6	男性	70代以上	積極的に外部と交流することが必要。こちらは男性が優先、こちらは女性優先であっても良いと思う。平等ということを強調しすぎず、各家庭で話し合っ決めてれば良いと考える。しっかりとした線引はむしろもの事をあやふやにする。
7	女性	70代以上	チョイ出でも車を利用する人が多くなったため親しくする機会がなく淋しい。子供をつれて散策中でも親はケータイを見ながらとか、公園でも親はベンチにすわりケータイに夢中…これでは子供が可哀そう…
8	女性	70代以上	身体がちがうように心の使いかたがちがいます。男は身体を使った力の強さがあります。女は心が細やかです。相手に合せること出来ます。男女平等といっても小さな時から育つことによって出来上った部分は身につけています。平等は両方が同じ物事に合った時にこれだよと思った時に感じます。そこから始まると思います。男が力でおさえても女はその下からうむ力が有ります。両方合せて男女平等と思います。

9	男性	30代	さらなる町の政策をお願いします。
10	女性	40代	今の40代以下の男性は、共働き、家事分担、育児にも協力的な人が多い印象。ただ、男性側の長時間労働、女性の賃金の低さ等で、必然的に女性の家庭内の役割が大きいように思う。その背景として、職場の理事等のトップ層は高齢の男性がほとんどで、麻生太郎もしかり、専業主婦が当たり前の世代の男性陣がトップにいる限り、本当の意味での男女平等なんて程遠いと思う。そして、キャリアを積んで管理職になった40.50代女性は、独身か親のサポートがある等の環境に恵まれた人が多い印象で、核家族の女性がキャリアアップする大変さを真に理解することは難しいと思う。このような状況に東浦町という自治体は何ができるのか、よく分からない。子育てや介護等の支援に自治体独自の施策を施行するのでしょうか。第3次の前の成果も、第3次の内容もよくわかっていない中、誰のための目標達成なんのでしょうか。この事業の中長期的なアウトカムを明確に示して欲しい
11	男性	30代	正直なところ、世界平和と男女平等は人類には無理だと感じています。手の届く範囲で思いやりを持つのが精一杯です。
12	男性	60代	強制ではない。人それぞれの選択。適材適所。新たな命は他に任せないと男性女性の生物学的な役割の違いがある以上男女平等はない。未来への人類継続性もありえない
13	男性	60代	働きたいが、家庭の事情で働く機会を得られず埋もれている女性はいる。労働力として埋もれている女性が社会に出られるような政策を政治や行政に求めたい。
14		30代	男女平等でもまだまだ男女平等ではない
15	女性	30代	昔スポーツをやっていた経験があります。ニュースで、男性がジェンダーを主張し女性が出る種目に参加し、優勝したとありました。心は女性かもしれませんが、体は男性なので勝てる訳ないです。ジェンダーをスポーツに持ち込むのであれば、ジェンダー枠を作ったほうがいいと思ったし、出場した方の自己満足で男女平等とはほど遠いなと感じました。
16	女性	50代	質問が多すぎ 回答が面倒になる

17	女性	50代	男女平等だからといって、ゴミの収集を女の子に任せるのは、どうかと思いました。
18	女性	50代	動物的に男女平等はありえない。男だから女だからという考えた方は通用しない。男女問わず、それぞれの形があってよい。他者の選択を認めあえる社会、後押し可能な社会になればよい。そのために制度を整え、より自分らしく生きやすい社会にしていくために、選択の幅を増やしていくことを行政や政治家たちに期待します。
19	男性	70代以上	男女平等を積極的に進めると少子化や人口減少になる。
20	男性	50代	質問が多い
21	女性	50代	男女が同じように働くことで、育児に支障が出るのが最も心配。保育園等に預けたら、平日は2、3時間しか子どもと過ごす時間がない。労働力不足もあり、働く夫婦は増えるのだろうが、育児中の人は考えてほしい。
22	男性	50代	お疲れ様です。東浦町は 保育園など手厚いと思う。高齢者は 分からないけど。集めたアンケートが反映される事を望みます。
23	女性	60代	男女平等と言って、女性管理職など器用するなど進んでる企業もありますが、形から整えても結局、中味の理解、認識が正しくされてないと、女性は男性の感じない悩みを抱えたり不利な環境におかれて、本当の意味の平等はないと思います。家庭でも男性側の認識がされてないと、皺寄せは女性にきます。反面、女性も依存性で逃げる意識から、自分も社会的含め責任を持ち行動する必要があることを学び得ることで、平等が成り立つ事を知る事が大切なのでは？と感じます。自立（自律含む）している女性には、今以上に制度を充実させ、整えるのは有用と思います。
24	女性	60代	個人が持つ平等意識が一番大切だと思います。個人の意識改革に係る事業展開を期待します。
25	男性	40代	会社生活においてはいろんな家庭事情があると思うが、女性社員（子供あり）がいるところの負荷は男性にかかり続けていると思う そのためその仕組みが変わらないようなら男性優位の社会で女性の活躍はただの理想だと思う

26	男性	40代	私の会社では、進んでいます。女性の離職率も低いです。東浦町役場では窓口の多くを女性が担う一方で、腕を組み監視とも取れるような役職者の男性が多く拝見します。今回の質問にしても、そもそも東浦町としての状況や、取り組み、プラスもマイナスも意見を出した上で回答する仕組みにしなければ、例が少なく、知識がない市民からすると途中で回答をやめてしまうのではと思うくらい、回答のポイントがわかりにくいです。男女参画のまえに、市民サービスの向上を、市民目線にたった取り組みをお願いします。(こちらのフォームで、何名くらいの職員さんが試されたのでしょうか。平日16時までと開庁時間を短縮したことで、市民サービスが低下してませんか。)回答の確認画面で、何を確認して良いのか分かりません。設問の大項目のみとした理由がわかりません。男女参画以前の問題です。
27	女性	18~20代	男女共同参画社会の実現には、どちらが優遇されているかの観点よりも各自が抱える問題の解決に取り組むべきだと考えている。
28	女性	50代	女性は化粧や、生理や、男性よりお金がかかるし、生理痛休暇とかもとれないし、仕方ないことと思わず、休みは取れないにしても薬代とか女の子に対する配慮は欲しいものです。
29	男性	60代	男女平等しすぎて 女性が優遇され 男性が不要となる時代に徐々になってきている 少子高齢化時代
30	男性	18~20代	今は男女平等が進んでいるため、差がなくなるよう活動してほしいし、自分自身もできることをしていく。
31	男性	30代	夫婦両方ともフルタイムの働きをしていると仕事と家庭の両方からストレスがたまるので、一人の人間が仕事と家庭の両立させるのはほとんどの人間ができないことだと思う。
32	女性	60代	私と娘の夫婦関係は、時代と共に大きく変化していると感じています。亭主関白が当たり前の時代に比べて、娘夫婦は、子育ても、家事も本当に対等に協力しあい 収入も大きく変わらず経済も2人分の収入でさきやかでは有りますが満足の行く生活だと思えます。しかしその為に 子育てのフォローが欠かせない日々でもあります 近くに親やフォローする助けが無いと、中々難しいのが現実だと思えます 収入が少し減少しても、子育て中の仕事時間に配慮がある期間をもう少し柔軟に得る事や、行政の中に地域で子育てが出来る工夫がもっと増えることを願っています
33	女性	40代	配偶者は家事や育児に協力的だが、仕事上どうしても妻である私の方が中心になってやらないと回っていかない。

34	男性	60代	女性は、結婚や出産を機に家事、子育てに専念するものだという昔からの考えを持つ人も多いかと思う。有能な女性が多い中、また人手不足といわれる中で女性においても社会で永く活躍していくべきと思う。女性が出産により退職してしまうのは子育ての問題が多いと思う。乳児から小学校の低学年くらいまで安心して子供を預けることができる施設が必要であるし、産休、育休を取得しても女性が不利にならないようなしくみが必要である。雇用や給料も男女の差別をなくし女性にも経済力が上がれば、仮に子育てのために退職するにしても夫が退職してもいいのではないか。
35	男性	70代以上	女性を優遇することが男女平等だと思われるところがある。
36	女性	70代以上	年功序列ではなく、能力のある男女が上に立つべきである。
37	男性	50代	工場勤務です。職場で思うことは期間工ですが女性の採用が増えています。ただ職場のよっては女性を配置するのが難しい所があります。以前に比べると改善が進みましたが作業環境がよろしくない場所夏は暑い・冬は寒い等。完全に平等は難しいのかなと思います。
38	女性	30代	政治や政策その他決め事など、節々に男性が優位になるように感じる。
39	女性	30代	昔のような男尊女卑思想より、かなり男女平等思想が根付いてきていると感じるが、男女平等という言葉が独り歩きしすぎているところもあると感じる。男性にしか出来ない事もあれば、女性にしか出来ない事もある。男性・女性それぞれ出来ることや特性を理解して認め合って尊重していく事が必要だと思うし、全てを型にはめずに尊重して、協力して生活していくことも必要だと思う。全ての人々が男性・女性・ジェンダーなど関係なく助け合って生きていければ、全ての人が生きやすくなるのになと思っている。

40		30代	一人一人が違うなんて小学生でも知ってる事実を外野がわざわざ”性差”などと無理やりカタに当てはめて、敢えて生きにくい世界へ突き進んでて滑稽だなと笑 男だから稼がなきゃいけない訳でもなければ、女だから家事しなきゃいけない訳でもない。能力に枷が付いている制度なら取り払う努力はすべきだと思いますが、どう生きれば上手く回せるか？を考え無しに異性や社会のせいにするのは、思考回路が悪いんじゃないですかね。女性が現場で活躍してる光景も見かけるし、家事が得意な男性も居るでしょう。色々失敗続きの欧州と比較して、日本の割合の低さがそんなに重大と捉えているなら欧州に引越してもされた方が有意義な人生歩めますよ。こんな当たり前の事に使ってる時間あるなら子供(次世代)のための整備でもしたら？くらいしか思ってないです。
41	男性	18~20代	男性目線の偏った質問だと感じました。
42	男性	60代	職場では男性の方が重労働を押しつけてられて体や精神の負担が違いすぎる この現状を解決するのが最優先だ
43			男女平等は難しい。
44	女性	40代	まさに旦那にアンケートさせてやりたい。一時期、仕事が忙しくなって食事作りが疎かになった日から無視され続け、今は毎日残業だけど週末に作り置きしている。頭が昭和で止まっている。世の中が変わってもうちの旦那は家事を半分とか、やらないだろうなー。
45	男性	30代	下手に女性の割合を何%、男性の割合を何%とするのは余計な軋轢が生じるだけなのでやめた方がいいのではと感じる。
46	女性	40代	ここだから書くけど私は男女平等は難しいと思っています。なので男女共同参画もあまり推進する気持ちが少ないです。
47	女性	40代	男女平等とはいうものの、まだまだ会社においても男性社会を感じる場面があります。家庭では、早く家に帰った方がご飯担当と決めても残業で遅くなっても結局ご飯を作るのは妻が多く、それは職場の女性メンバーも同様との声が多かったです。お互いに納得していればそれで良いと思いますが、同じように働いていて女性が家事をする、ような雰囲気はまだ社会全体にあるような気がします。

48	男性	60代	1947年までは法律上も男尊女卑でほとんどの国民は女性を含めそれが当たり前だと思っていた。今現在の私たちの人権意識ではそれはおかしいと誰もが思うでしょうが、当時は思わなかったわけです。一番大きな原因は、教育にあると感じます。一種の「洗脳」なのでしょうね。その後、徐々に意識は変化してきましたが、男女が同じレベルになったとは言えません。特に一般企業の役員や管理職の男女比は、国会議員数よりはるかに深刻かと思います。なんていうことを申しましたが、男と女には生物学的に違いがあります。一番は女性しか子供を産めないことです。もし女性が自身の人生観に従い、男性と互して活躍するため、あるいは自身の自由を謳歌するために子供を設けない選択をするならば（もうしているが……）、日本は近々に間違いなく滅亡します。子供は産むものではなく、工場で生産するものという時代に早々になれば、滅亡は避けられるかもしれませんがね？
49	男性	70代以上	仕事については まだまだ男女平等とは 言い難い（仕事内容にもよるが）家庭では若い人ほど男女平等化が進んでいると思う
50	女性	30代	男女関係なく、やりたいことをやりたい人ができる世の中になるといいと思います。女性全員が共働きをしたいわけじゃ無いし、社会進出をしたいわけじゃ無いです。男性も同じだと思います。女性だからって家事や育児が得意なわけじゃ無いです。男の子だから力持ちってわけじゃ無いです。女の子でも力仕事が好きなのはいます。男とか、女とか、言っているうちは本当の平等は訪れないと思います。
51	男性	70代以上	男女平等は前提であり、その上で、比率で評価するだけでなく、その人がその人の所属する場でふさわしい評価をされているかも公表出来るといい。
52	女性	18～20代	夫婦ともに働いていて、子どもができるのを機に仕事をやめるのは妻が多いのはなぜなのかいつも疑問に思っています。産むまでは母のお腹で育つため、そうなるのは必然かもしれませんが。旦那さんの方がお金の稼ぎがいいからという理由が多いのであれば、金銭的な優遇があるのかなと思います。そうではなく、同じ仕事量をし、同じくらいのお給料をいただいた上で、奥さんが家庭内の役割を多く担うのであれば、意識改革に重点を置くべきだと思います。

53	女性	30代	保育園の給食代が負担になったり負担が増えすぎる
54	女性	50代	男女平等はもちろんですが、それでも男性の方が得意なこと、女性の方が得意なことがあると思うので、それぞれがお互い補いあって支え合っていく社会を望みます。昔ながらの良き日本の風習も忘れたくないと思います。
55	女性	60代	今の日本は 何十年も昔の価値観を引きずっている 意識改革がなされていないのに 行政とか企業とか口先ばかりばかりでは 何も解決しない 何もかもが不平等で 苦虫をかじるような日々の暮らし それに甘んじるしかない現実 例えば一番ひどいのは同じ女性の立場でも強く思うのは 年金 40年以上 子育てしながら苦しい思いしながら社会保険料払い続けていたのに 一銭も払ってない専業主婦の遺族年金とほぼ変わらない もしくは低い人だっている 一番問題なのは もらう立場の人が当たり前のごとくもらっている この遅れている感覚 年金は払った人だけもらえる権利にすべき声を大にして言いたい 第3号被保険者制度即刻廃止してもらいたい 保険料払ってない人まで面倒見てるから 若い人も社会保険庁もお金がないと嘆く 国会議員も思っても 言えば票が取れなくなるから誰も言わない 嫌になる 日本に生まれた事 本当に嫌になる
56	男性	70代以上	以前より、男女平等についての考え方が社会に広まってきたが、まだまだ平等とは行かない面がある。しかし、男と女は身体の構造が基本的に違うので、何もかも平等ではなく、人間の持っている男と女の違いは当然あると思う。
57	女性	70代以上	育ててもらったように育つ。大事に育ててもらうことで、相手にも思いやりが育つ。男女平等は、仕事先、職場状態の環境などで大きく違っている。
58	男性	40代	無理に男女平等を押し進めるのは理解出来ない。身体の作りが違うのだから、それに見合った役割がある方が健全だと思う。
59	女性	50代	男女は平等ではない

60	男性	30代	若い世代には平等意識が当たり前のようになると感じます。 家事育児に割く時間と労働時間はトレードオフであることと、出産は女性にしか行えず、出産に伴う休業が家庭内の男女の時間配分を固定化する要因だと思います。
61	女性	50代	男女平等と言われていますが、社会的にも家庭的にも程遠い 若い世帯では、家事分担等、育児、子育てにも積極的な男性も増えて来ている様に思いますが、そろそろ定年になる位の世代では、家庭内の家事、子育て、雑務全般は妻に丸投げ状態で、家でゴロゴロしてる男性が大半なのではないでしょうか。 日本に根強く残る男尊女卑は、まだまだ消えそうに無いでしょう。 男女共に、相手を敬い、認めて、感謝する心を育てていける社会になったら良いなと思います。
62	男性	30代	女性の社会進出の前提として、保育園の整備が必須。2歳の子供がいるが、現時点で3歳児の保育園受け入れができないという状況に衝撃を受けている。そもそも「三世代近居等定住促進補助金」という施策を行っており、自身も東浦町に2年前に引っ越してきて受給したが、定住に対する補助金を出しているにもかかわらずその三世代目が保育園に入れない状況になっているのは矛盾している。保育園に入れない児童がいる一方で保育料の補助があるようだが、保育料をきちんと徴収したうえで保育士に配分し、保育園に入れない児童が発生しないような取り組みをすべき。保育園に入れなかった場合は自宅保育に対する補助金を出すようだが、それだったら最初から住民税を徴収しないでほしい。行政の怠慢だと思う。町外の保育園に入れるしかない場合、それは他の自治体に丸投げしているだけで、遠方に通うことに対する助成金等も何もないという認識。何とかしてください。
63	女性	60代	女性が女性が、と言ってるうちは、実現しないと思う。 特別扱いしなくても良いようになってこそ、男女平等。

64	男性	30代	男女平等の動きが進んできているかと思いますが、全てが平等である必要はないと思います。男性らしさ、女性らしさを大切にする社会となるのがいいと思います。LGBTについて、配慮が必要な面はあるかと思いますが、トイレや風呂、スポーツなど性自認を優先するがあまり、他の人に影響が出るのはよくないと思います。体と心が不一致であることは、本人にしか分からず、客観的に体が男性が女性のエリアに入るのは恐怖しかないとします。スポーツにしても公平性が保てなくなります。どうしても身体的特徴で線引きしないといけないことはあると思うので、平等もいいですが平等にできない部分もあることを理解してもらうのも必要です。
65	男性	18~20代	男女平等という言葉そのものが存在している、使われる限りは平等な世の中ではないのだろうと思います。それぞれの性にしか出来ないことがあることも事実かとは思いますが、根本的には社会生活において男性だから女性だからあまり関係ないように思います。
66	男性	50代	男女平等が絶対的な正義で、昔ながらの在り方が絶対的な悪のような風潮に違和感を覚える。女性の社会進出を否定するものではないが、職場では男女平等ではなく、責任の軽い仕事を歓迎する女性が居ることには目を向けていない。そういう女性の声は男女平等などを大きな声で叫ぶ人の影に隠れてしまってませんか？また女性の社会進出が晩婚化、少子化にも関係あると思える
67	女性	18~20代	日本は同調圧力の強い国だと思います。男女平等に向けた政策や取り組みが制定されても、その存在を知らないまま周りの圧力に押し流されて不平等に屈している人がいるのではないのでしょうか。ジェンダーに関する、学習指導要領に新しく盛り込まれるテーマや内容があれば、企業でも講習を行うことが働く人々の「知る」ことにつながると思います。
68	男性	40代	男女について、平等にすべき事や平等にできることはあると思いますが、出来ないもしくは平等にし難いことはあると思います。全てを平等にするのではなく、色々な道を選ぶことが出来るもしくはし易い社会になれば良いと思います。女性でも専業主婦が良いと思う人もいます。世間が女性が社会に出るのが当然という様な意識になって、専業主婦より働きながら家事や子育てしている方が立派だという風潮があってはいけないと思います。

69	女性	50代	性別に関係なく働き続けられるような社会であればいいのと思います。子育ても介護も、社会全体で見守れるような寛容な社会であればいいのと思います。
70	女性	40代	女性が働く時代であるため、もっと男性も育児や家事をやるべき！その為に職場の子育て支援はとても重要だと思う小学校の無駄な行事は見直すべきであるし、働いている家庭が増えている中、PTAとか強制されるのもおかしいと思うわざわざ、仕事を休んでまで参加しなければならない。今の時代にあっていない事がたくさんある。見直すべき。
71	女性	50代	仕事に対しては男女平等が理想だが、育児 子育てに関しては母親がしっかり見てあげたほうがいいと思う。出産は男女平等には出来ないし、個人差はあると思うが子供を思う気持ちは母のが強いのと思うので。私は出産も子育ても母親の特権だと思って楽しんでやったので、平等じゃないって感じたことはありませんでした。ただ家事はもっと男が協力すべきだと思います。
72	男性	40代	少数意見を聞くことは大切であるが、すべてが正しいわけではない何が正しいことはきちんと把握する必要はある
73	女性	18~20代	女性にしか子供が産めないように、生物上の違いがあるのに男女平等を良しとする考えが浸透し過ぎるのも怖いです。男性と同等の働きを求められる世の中になれば女性は子供を産まなくなると思います。
74	女性	40代	保育園の頃、女の子はピンクと決めつけず、青でもいい、という日頃からそのような取り組みをしたり、学校の制服も特にスカートじゃなきゃダメとかはないのでこのような時代に子供を尊重することは良いことだと思います。
75	女性	30代	近年は、仕事において、女性が働きやすいようにサポートすることが増えている気がします。企業でも女性の部長が増えたように感じます。子供がいる女性はテレワークをして、子供の送り迎えで途中で抜けてもいいように、配慮しているようです。私は専業主婦なので、主人を通して聞いた話ですが。働きやすさは、制度よりも人間関係が大事だと思います。理解してくれる上司や仲間がいるかどうかだと思います。家庭については、各家庭で話し合いができていれば、どんな形でもいいと思います。どんな時も助け合い、思いやりがあれば上手くと思います。男女平等という言葉を使うことで、男女のどちらがどうなのかと、より比べてしまうような気がします。偉そうに意見を述べてしまいましたが、何かのご参考になれば幸いです。

76	女性	30代	女性が働き続けるためにもっと気軽に保育園に預けられるようになるといい。保育園がネックで第二子、第三子を産むのを躊躇してしまう。
77	女性	30代	男女平等がうたわれ共働きが増えているが、保育園や学童に預けられる子どもの中には子どものことを見る余裕がないのかと思える家庭もある。家庭や子どもをかえりみる余裕がないほど働かなければ生活できない世の中はおかしいと思う。男女問わず、家庭で過ごす時間をもっととれるようになってほしい。
78	男性	30代	男女ともに働く・働かないの選択ができる社会が望ましいです。現在は共働きでなければ、十分な収入が得られず、子どもを産み、育てるという選択ができません。産後、夫婦ともに育児に時間をかけるのか、仕事をするのかを選べる世の中であってほしいです。どちらかが働く選択をするのであれば、もう一人は専業主婦主夫あるいは時短などを選択できるような安定した収入があってほしいです。男女平等を考えるなかで、物価高や国民に還元されていない税金、治安悪化など、現在の日本が抱える問題にも焦点を当て、国民全員が安心した生活を送れるような国になってほしいです。
79	女性	30代	女性の社会進出を進めるために産後も働きやすい環境を整えることが大切だと感じる。
80	女性	30代	男女平等をよく耳にするが男女とか性別で別けるのでは無く一人一人のニーズを優遇した方が長く続けて働けると思う。例えば主婦の方は子供が熱出たら直ぐに休める、正社員の場合は風邪をひいてしまった!高熱がある直ぐに休める、お腹が痛くなったら休める、その他 長期欠勤は駄目ですが理由があるなら 介護等もそうですけど休める風潮に社会が変わらないと女性の活躍だ一どうのこうのといっても誰も働きません!男性も女性もみんなが休めるそういう社会が必要だと思います!
81	女性	70代以上	後期高齢者 2 世帯ですので家事同じようにして欲しいですが気が向く時だけなにごと私の仕事になっている 平等であって欲しい
82	女性	30代	男女を全く平等にすることは不可能だと思う。男女の身体的な違いを考慮しつつ、それぞれ色々な選択肢が持てる世の中になってほしいと思う。女性の社会進出が男女平等につながるかは疑問に思う。専業主婦でも家の中で活躍できていればいいと思うし、選択肢があることが大切だと思う。
83	男性	70代以上	女性自ら世に出て欲しい。

84	女性	70代以上	活躍が見えてこない
85	男性	18~20代	男女平等に関して、性別に基づいて考えるのではなく個々の状況や環境に応じて平等になるようにするべきであり、性別の差異だけを見ることに違和感を感じている
86	男性	60代	未修学の園児だけではなく、小学生も含めて昼間に子供を預ける施設がないと女性の社会進出が進まないのではないのでしょうか？女性の社会進出だけが進むと、少子高齢化がより進み、年金制度にも大きな影響があります。町として、何ができるか、様々な層から人を集めてプロジェクトを作り、考えさせてはいかがでしょうか？
87	女性	30代	町長は女性でも良いのではないのでしょうか。
88	女性	60代	<p>時間は取り戻せない不公平を感じています。子育てが終わり仕事復帰、日進月歩の職種、数十年のブランクに自身の機能的な衰えから来る不安とプレッシャー。男性は、数十年のブランクからの復帰経験は少ないと思います。仕事だけに集中出来る環境でしたら幸い、家事も当たり前やらなければならないとなりますと負担です。特に精神的な負担は大きいです。そして親の介護、感染症広まればデイも閉鎖する事もあり、結局自分都合で生きられる事は有りません。仕事をして無い間に、どんどん仕事のスキルは落ちます。自分も社会生活が減り自身の老化を感じます。</p> <p>夫婦のどちらかが家事育児に協力するという考えから卒業しましょう。どちらかが担うのでは無いから、どちらかが協力と言う表現には納得出来ません。どちらも生活、家庭を支え、当たり前で2人で子供を育てられる事が出来る世の中が良いと思います。</p> <p>両者の協力と譲歩が不可欠です。</p>
89	女性	50代	<p>一緒に住んでいなくても、高齢の親や障害者の兄弟がいます。自分の親や兄弟なので自分が面倒みるしかないのはわかっていますが、たまに苦しくなる時があります。かと言って、有料のサービスを受けられるようなお金はありません。でも、私が面倒みて、主人には働いてもらう。これが1番なのだと思います。一般的に言えば、男女はかならずしも平等ではないです。平等にはならないと思います。何を持って平等というのかにもよりますが、そもそも男と女は別です。平等平等と何でも平等というのは違うのかなと思います。ただ、女だから男だからという理由でできないことが増えるのは良くないと思います。</p>

90	女性	70代以上	高齢な男性ほど女性を軽視するように思います。
91	男性	40代	女性は妊娠出産がある時点で、仕事はどうしても休まなければならないし子供が小さい頃は熱が出たりで自分が満足出来る仕事が難しいと思います。なので男性の給料面をアップする事が1番良いと考えます。そして、共働きが当たり前になっている世の中で家事育児は女性負担が多いと考えます。子供を気軽に預けれる、男女共に稼げる、心の余裕が出来るような世の中になって欲しいと思います。
92	女性	70代以上	扶養控除の件 103万では妻は働き辛いと思います。パートにて時給が上がっているのでも扶養範囲での仕事は制限があると思う。働きたくても働けない事もあります。これも改正してもらわないと、女性の働きたいのに働けないとおもいます。
93	女性	70代以上	年齢的に男女平等と思っても無理があり昔からの考え方で生活した方が夫婦仲が保たれるなら仕方ないと思っています。男性は外で仕事、女性は家庭を守る。しかし私も子供に教育費がかかり正直なところ外で働きながら家事全般をしてました。私も男性に産まれたかった。と何度思ったことか・・・私達の年代の男性は自分の意見は曲げないのでこれからも今の生活状態で生活するのみです、今の若い夫婦は家事や育児も男性が参加し羨ましいと思う反面女性も社会に出て仕事をしてるので昔と今はやはり違うなあと思っています。家族、夫婦で話し合っって子供がしっかり育てくれたほうが良いと思います。

東浦町からのお願い

男女共同参画に関するアンケートにご協力ください！

東浦町では、2022年3月に「第3次東浦町男女共同参画プラン」を策定しました。このプランに基づき、性別にかかわらず、誰もが個性と能力を発揮できるまちづくりに向けた取り組みを進めています。

この調査は、第3次東浦町男女共同参画プランに掲げた目標の達成状況の確認や、今後の取組の見直しにあたって、町民の皆さまのお考えをお聞きするために実施するものです。調査票は町内にお住まいの18歳以上の方から1,500人を無作為に選び、お送りしています。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

2025年 10月 東浦町

回答にあたってのお願い

- あて名のご本人がお答えください。
- このアンケート調査は無記名回答方式ですので、名前を記入する必要はありません。また、調査結果は統計的に処理し、個人に関わる情報を公表することはありませんので、ご迷惑をおかけすることは決してありません。ありのままをご回答ください。
- 答えたくない質問については、とぼして回答してもかまいません。

この調査は、インターネットでご回答いただけます。

なお、郵送での回答を希望される場合は、調査票をお送りしますので下記問い合わせ先へご連絡をお願いいたします。

① インターネットで回答の場合

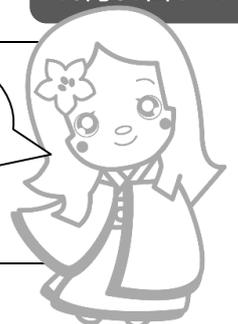


② 郵送での回答を希望される場合



- 不明な点や調査についてのお問い合わせ
東浦町役場地域創造部住民自治課
TEL： 0562-83-3111
FAX： 0562-84-6421
E-mail： juminjichi@town.aichi-higashiura.lg.jp

あなたの回答が
未来のまちづくりに
つながります！



「男女共同参画」の意識、家庭、地域活動について

問1 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのようにお考えですか。
次の中から1つを選んでください。

- | | |
|------------------|-------|
| 1. 賛成である | → 問2へ |
| 2. どちらかといえば賛成である | → 問2へ |
| 3. どちらかといえば反対である | → 問3へ |
| 4. 反対である | → 問3へ |
| 5. わからない | |

問2 問1で「1.賛成である」「2.どちらかといえば賛成である」と答えた方にお聞きします。
それは、なぜですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

- | |
|---------------------------------------|
| 1. 日本の伝統的な家族のあり方だと思うから |
| 2. 自分の両親も役割分担をしていたから |
| 3. 夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから |
| 4. 妻が家庭を守った方が、子どもの成長等にとってよいと思うから |
| 5. 家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから |
| 6. 特にないが何となく |
| 7. その他（具体的に： _____) |

問3 問1で「3.どちらかといえば反対である」「4.反対である」と答えた方にお聞きします。
それは、なぜですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

- | |
|---------------------------------------|
| 1. 男女平等に反すると思うから |
| 2. 自分の両親も外で働いていたから |
| 3. 夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから |
| 4. 妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとってよいと思うから |
| 5. 家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは可能だと思うから |
| 6. 固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから |
| 7. 特にないが何となく |
| 8. その他（具体的に： _____) |



問4 社会や生活の中で、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。①～⑧の項目について、あなたの考えに最も近いものをそれぞれ1つ選んでください。

項目	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない
① 家庭生活では	1	2	3	4	5	6
② 地域活動(自治会など)では	1	2	3	4	5	6
③ 習慣・しきたりでは	1	2	3	4	5	6
④ 学校教育では	1	2	3	4	5	6
⑤ 職場では	1	2	3	4	5	6
⑥ 政治や行政では	1	2	3	4	5	6
⑦ 法律や制度では	1	2	3	4	5	6
⑧ 社会全体として	1	2	3	4	5	6

問5 あなたの家庭では、日常の家事の分担をどのようにしていますか。①～⑨の項目について、それぞれ1つ選んでください。

項目	自分が中心	配偶者やパートナーが中心	家族全員	その他の人	外部サービスを利用	わからない・該当しない(一人暮らしなど)
① 日常の家計管理	1	2	3	4	5	6
② 食事づくり	1	2	3	4	5	6
③ 食事のあとかたづけ	1	2	3	4	5	6
④ 食料品・日用品の買い物	1	2	3	4	5	6
⑤ 洗濯	1	2	3	4	5	6
⑥ 掃除	1	2	3	4	5	6
⑦ ゴミだし	1	2	3	4	5	6
⑧ 子どものしつけや家庭教育	1	2	3	4	5	6
⑨ 家族の介護	1	2	3	4	5	6

問6 あなたは、生活の中で、「仕事」、「家庭生活(家事・子育て・介護等)」、「地域・個人の生活(地域活動・学習・趣味・付き合い等)」のうち何を優先しますか。「希望」「現実」それぞれについて、次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

項 目	①希望	②現実
1. 「仕事」を優先する		
2. 「家庭生活」を優先する		
3. 「地域・個人の生活」を優先する		
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先する		
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先する		
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先する		
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先する		
8. わからない		

問7 あなたは、次のような地域活動に参加していますか。また、今後参加したいと思う地域活動はありますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

項 目	①現在	②今後
1. 自治会やコミュニティの活動		
2. 子ども会やPTA等の青少年育成活動		
3. 女性の会や地域女性団体（又は男性の会や地域男性団体）		
4. NPOやボランティア団体等民間の非営利活動団体		
5. 老人クラブや高齢者の会等の福祉団体		
6. 教養・趣味・スポーツのサークル		
7. 参加していない・参加したくない		
8. その他（具体的に)		

問8 あなたは、男性の家事、育児、介護、地域活動への参加をすすめるためには、どのようにしていけばよいと思いますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。

1. 男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
2. 男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
3. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る
4. 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること
5. 社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動への社会的評価を高めること
6. 男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること
7. テレワーク等のICTを利用した多様な働き方を普及し、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
8. 男性の家事・育児などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと
9. 男性が家事・育児などを行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめること
10. 特に必要なことはない
11. その他（具体的に：
)

仕事について

問9 一般に女性が職業を持つことについて、あなたはどうかお考えですか。次の中からあなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。

1. 女性は職業を持たない方がよい
2. 結婚するまでは職業を持つ方がよい
3. 子どもができるまでは、職業を持つ方がよい
4. 子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい
5. 子どもができたなら仕事を辞め、大きくなったら再び職業を持つ方がよい
6. その人による
7. わからない
8. その他（具体的に：
)

問 10 一般に男性が職業を持つことについて、あなたはどのようにお考えですか。次の中からあなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。

1. 男性は職業を持たない方がよい
2. 結婚するまでは職業を持つ方がよい
3. 子どもができるまでは、職業を持つ方がよい
4. 子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい
5. 子どもができたら仕事を辞め、大きくなったら再び職業を持つ方がよい
6. その人による
7. わからない
8. その他（具体的に： _____)

問 11 育児や介護、家事などに女性の方がより多くの時間を費やしていることが、働く場における女性の活躍が進まない要因の一つだという意見がありますが、あなたはこの意見について、どう思いますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問 12 あなたは、これまで（現在を含む）働き続けたいけれど、働くことができなかったことがありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

1. はい → 問 13 へ
2. いいえ → 問 14 へ

問 13 問 12 で「1.はい」と回答した方にお聞きします。

働き続けたいけれど、働くことができなかった理由は何ですか。次の中から最もあてはまるものを3つまで選んでください。

1. 就業や家事分担に対する配偶者やパートナー、家族の理解が得られなかったから
2. 育児に対する配偶者やパートナー、家族の理解が得られなかったから
3. 育児で預けられる施設（託児所や保育園）等のサービスが不十分だったから
4. 家族の介護や看護の必要があったから
5. 配偶者やパートナーが家事・育児・介護等を分担できないから（長時間労働、単身赴任等）
6. 就業していた会社に、育児・介護等をしながら仕事をする事への支援制度がなかったから
7. 結婚・妊娠・出産した人や介護を抱える人は、会社を辞めざるを得ない雰囲気だったから
8. 健康上の理由（病気・けがのため）
9. 会社の倒産やリストラ、定年
10. その他（具体的に： _____)

問14 働き続けたい女性が離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思えますか。次の中から最も重要だと思うものを3つまで選んでください。

1. 保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備
2. 介護支援サービスの充実
3. 家事・育児支援サービスの充実
4. 男性の家事参加への理解・意識改革
5. 働き続けることへの女性自身の意識改革
6. 男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革
7. 職場における育児・介護との両立支援制度の充実
8. 短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入
9. 育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止
10. わからない
11. その他（具体的に： _____)

子どもの教育について

問15 あなたは、「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という育て方についてどう思いますか。次の中からあなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。

1. 男の子、女の子と区別せず、同じように育てた方がよい
2. 「男の子は男らしく、女の子は女らしく」育てた方がよい
3. どちらともいえない

問16 あなたは、子どもに対し、どのようなことを身につけてほしいと思えますか。

【男の子の場合】 【女の子の場合】について、それぞれあてはまるものについて3つまで選んでください。男女同じ番号を選んでもかまいません。

【①男の子の場合】

- | | | |
|-------------|------------|------------|
| 1. 社会性・積極性 | 2. 決断力・行動力 | 3. 教養・知性 |
| 4. 優しい・思いやり | 5. 豊かな感性 | 6. 礼儀・道徳心 |
| 7. 自立心・独立心 | 8. 経済力 | 9. 明るさ・素直さ |
| 10. 国際感覚 | 11. 責任感 | 12. 学歴 |

【②女の子の場合】

- | | | |
|-------------|------------|------------|
| 1. 社会性・積極性 | 2. 決断力・行動力 | 3. 教養・知性 |
| 4. 優しい・思いやり | 5. 豊かな感性 | 6. 礼儀・道徳心 |
| 7. 自立心・独立心 | 8. 経済力 | 9. 明るさ・素直さ |
| 10. 国際感覚 | 11. 責任感 | 12. 学歴 |

DV（家庭内暴力）について

問 17 これまで結婚したことのある方(婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦も含む。)や交際相手がいる(いた)方にお聞きします。

あなたは、これまで配偶者や交際相手から次のようなことをされたことがありますか。

①～④のそれぞれの項目について、あてはまるものを1つ選んでください。

項 目	な い ま っ た く	あ っ た 1、 2 度	あ っ た 何 度 も	無 回 答
① 身体的暴力（例えば、なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行）	1	2	3	4
② 心理的攻撃（例えば、人格を否定するような暴言、交友関係や行先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの心理的嫌がらせ、あるいは自分もしくは自分の家族が危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫）	1	2	3	4
③ 経済的圧迫（例えば、生活費を渡さない、給料や貯金を勝手に使われる、外で働くことを妨害されるなど）	1	2	3	4
④ 性的強要（例えば、嫌がっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ映像等を見せられる、避妊に協力しないなど）	1	2	3	4

問 18 問 17 で「1、2度あった」「何度もあった」と回答した方にお聞きします。

あなたは、配偶者や交際相手から受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

1. 配偶者暴力相談センター（愛知県女性相談センターなど）に相談した
2. 市区役所、町役場に相談した
3. 警察に連絡・相談した
4. 民間の専門家や専門機関（弁護士、カウンセラー、民間支援団体など）に相談した
5. 医療関係者（医師、看護師など）に相談した
6. 学校関係者（教員、養護教諭、スクールカウンセラーなど）に相談した
7. 職場・アルバイトの関係者（上司、同僚、部下、取引先など）に相談した
8. 家族や親戚に相談した
9. 知人・友人に相談した
10. どこ（誰）にも相談しなかった
11. その他（具体的に： _____)

問 19 問 18 で「どこ(誰)にも相談しなかった」と回答した方にお聞きします。

相談しなかったのはなぜですか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。

1. どこ(誰)に相談してよいのかわからなかったから
2. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
3. 相談しても無駄だと思ったから
4. 相談するほどのことではないと思ったから
5. 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから
6. 自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
7. 自分にも悪いところがあると思ったから
8. そのことについて思い出したくなかったから
9. 仕返しが怖かったから(もっとひどい暴力や性的な画像のばらまきなど)
10. 世間体が悪いと思ったから
11. 他人を巻き込みたくなかったから
12. 他人に知られると、これまでの付き合い(仕事や学校などの人間関係)ができなくなると思ったから
13. 自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから・愛情表現だと思ったから
14. その他(具体的に:)

男女共同参画について

問 20 男女共同参画社会を実現するために、行政は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。次の中から最もあてはまるものを3つまで選んでください。

1. 法律・制度の面で見直しを行う
2. 行政などにおける政策決定の場に、女性を積極的に登用する
3. 民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する
4. 職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底が図られるよう企業等に働きかける
5. 子育てや介護中の人であっても仕事が続けられるよう支援する
6. 子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する
7. 保育の施設・保育サービス、高齢者や病人の施設・介護サービスを充実する
8. 学校や生涯学習などの場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する
9. 女性や男性の生き方に関する情報提供や相談などの場を充実する
10. 広報誌やパンフレットなどで、男女の平等と相互の理解や協力についてPRする
11. その他(具体的に:)

問21 あなたは、次の言葉を知っていますか。①～⑥の項目について、あてはまるものをそれぞれ1つ選んでください。

項 目	よく知っている	少し知っている	聞いたことはある	知らない
① 男女共同参画	1	2	3	4
② ポジティブ・アクション	1	2	3	4
③ ジェンダー	1	2	3	4
④ 女性活躍推進法	1	2	3	4
⑤ ワーク・ライフ・バランス	1	2	3	4
⑥ DV	1	2	3	4
⑦ LGBT	1	2	3	4

【用語の説明】

男女共同参画

男女が社会を構成する対等なパートナーとして、政治や仕事、家庭などあらゆる分野に参画し、喜びも責任もともに分かちあうことを言います。

ポジティブ・アクション

固定的な性別による男女の役割分担意識や過去の経緯から、男女の労働者の間に差が生じている場合、このような差を解消しようと、個々の企業が行う自主的かつ積極的な取り組みをいいます。

ジェンダー

生物学的な性別ではなく、「女らしさ、男らしさ」など文化的、社会的につくられた性別をさします。

女性活躍推進法

女性活躍推進法により、働く場面で活躍したいという希望を持つすべての女性が、その個性と能力を十分に発揮できる社会を実現するために、女性の活躍推進に向けた数値目標を盛り込んだ行動計画の策定・公表や、女性の職業選択に資する情報の公表が事業主（国や地方公共団体、民間企業等）に義務付けられました。

ワーク・ライフ・バランス

老若男女誰もが、仕事、家庭生活、地域などにおいて、自らが希望するバランスのとれた生活を送ることを指します。

DV

ドメスティック・バイオレンスの略称。配偶者やパートナーなど親密な関係にある、またはあった人から振るわれる暴力のことをいいます。

LGBT

レズビアン・ゲイ・バイセクシャル・トランスジェンダーの頭文字をとった言葉で、セクシャル・マイノリティ（性的少数者）の総称のひとつです。

あなた自身のことについて

次の項目について、それぞれ1つを選んでください。

※回答を統計的に分析するためにお聞きします。

(1) あなたの性別は

1. 男性	2. 女性	3. 答えたくない・どちらでもない
-------	-------	-------------------

(2) あなたの年齢は

1. 18・19歳	2. 20～29歳	3. 30～39歳	4. 40～49歳
5. 50～59歳	6. 60～69歳	7. 70歳以上	

(3) あなたの主なお仕事は

※出産休暇、育児休業中の方も働いているものとして回答してください。

自営業主	自営業の 家族従業者	雇用者	無職
1. 農林漁業	4. 農林漁業	7. 管理職	11. 主婦
2. 商工サービス業	5. 商工サービス業	8. 専門技術職	12. 学生
3. 自由業（作家等）	6. 自由業	9. 事務職	13. その他
		10. 労務職	



雇用者の方は、雇用形態もご記入ください。

1. 常勤（フルタイム）
2. 非常勤（パート、アルバイト）

(4) あなたは結婚していますか。

1. 未婚	2. 既婚	3. 離婚・死別
-------	-------	----------

(5) (4)で「2. 既婚」と回答した方にお聞きします。

あなたの配偶者の雇用形態は

1. 自営業主	2. 自営業の家族従事者	3. 雇用者	4. 無職
---------	--------------	--------	-------



雇用者の方は、雇用形態もご記入ください。

1. 常勤（フルタイム）
2. 非常勤（パート、アルバイト）

